

市原市小鳥向遺跡Ⅳ

—小鳥向遺跡第6地点—

2013

医療法人白百合会
国際文化財株式会社

こ とり む か い い せ き
市原市小鳥向遺跡Ⅳ

—小鳥向遺跡第6地点—

2013







医療法人白百合会
国際文化財株式会社

例 言

- 1 本報告書は千葉県市原市新堀字小鳥向957-1他に所在する小鳥向遺跡第6地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業、報告書刊行は医療法人白百合会が計画した病院建設に先立ち、同法人の依頼を受けた国際文化財株式会社が市原市教育委員会の指導に基づき実施した。
- 3 発掘調査は以下のとおりに行った。
本調査 (1,337㎡) 調査期間 平成23年11月21日～平成24年2月27日
担当 大山祐喜
整理作業 期間 平成25年1月1日～平成25年6月30日
担当 大山祐喜
- 4 市原市教育委員会の調査コードはP002である。
- 5 本報告書の執筆は大山が担当した。ただし、第1章第1節は大村直氏(市原市教育委員会ふるさと文化課)である。
- 6 本書に収録した調査記録や出土遺物等は、市原市埋蔵文化財調査センター(市原市能満1489)で収蔵・保管している。
- 7 中世陶磁器の分類および整理方法については市原市教育委員会ふるさと文化課櫻井敦史氏のご教示、ご協力を賜った。

凡 例

- 1 遺構図は1:80を基本とし、土坑は1:60、大型の溝状遺構は1:200とした。
遺物は1:3とした。
- 2 全体図・遺構図における方位は座標北である。
- 3 図版および観察表中の遺構覆土、土器胎土色は『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。
- 4 遺構図中の「K」は攪乱を意味する。
- 5 図版中のスクリーン・トン、アミ掛け部の意味するところは以下のとおりである。

	硬化面		焼土		炭化物		土層断面中のカマド
	黒色処理		赤彩・施釉				

本文目次

例言・凡例

第1章 序説	1
第2章 調査成果	7
第3章 小結	73

挿図目次

第1図 確認調査及び本調査範囲	1	第33図 30号遺構出土遺物(1)	34
第2図 小鳥向遺跡位置図	3	第34図 30号遺構出土遺物(2)	35
第3図 小鳥向遺跡周辺地形図	4	第35図 31・32号遺構	37
第4図 小鳥向遺跡遺構配置図	5	第36図 33号遺構	38
第5図 基本層序	7	第37図 34・35号遺構および34号遺構出土遺物	39
第6図 1号遺構	9	第38図 36号遺構および36号遺構出土遺物	40
第7図 1号遺構遺物出土状況	10	第39図 37号遺構	41
第8図 1号遺構出土遺物(1)	10	第40図 38号遺構	41
第9図 1号遺構出土遺物(2)	11	第41図 39号遺構	42
第10図 3号遺構出土遺物	12	第42図 40号遺構	42
第11図 2～6号遺構	13	第43図 41号遺構	43
第12図 7号遺構	14	第44図 42・43号遺構	44
第13図 8号遺構および8号遺構カマド	15	第45図 44号遺構	45
第14図 8号遺構出土遺物	16	第46図 45号遺構	45
第15図 9号遺構および9号遺構出土遺物	18	第47図 46・47号遺構	46
第16図 10号遺構および10号遺構出土遺物	19	第49図 48号遺構	47
第17図 11号遺構および11号遺構カマド	20	第50図 49号遺構	47
第18図 11号遺構出土遺物	21	第51図 50～54号遺構	49
第19図 12号遺構	22	第52図 55～60号遺構	51
第20図 12号遺構出土遺物	23	第53図 61～65号遺構	53
第21図 13号遺構	23	第54図 66～71号遺構	55
第22図 14～16号遺構	24	第55図 72～76号遺構	57
第23図 16号遺構出土遺物	25	第56図 77号遺構出土遺物	58
第24図 19号遺構出土遺物	26	第57図 77・78号遺構	58
第25図 17～20号遺構	27	第58図 79・82～84号遺構	60
第26図 21～23号遺構	28	第59図 79号遺構出土遺物	62
第27図 24・25号遺構	29	第60図 80・81号遺構	63
第28図 0313号ピット出土遺物	29	第61図 85号遺構	64
第29図 26号遺構および26号遺構出土遺物	30	第62図 86号遺構	65
第30図 27・28号遺構	31	第63図 0127号ピット出土遺物	66
第31図 29号遺構および29号遺構出土遺物	32	第64図 遺構外出土遺物	67
第32図 30号遺構	33	第65図 ピット配置図	69

表目次

第1表 ピット計測表	68	第3表 中世陶磁器総量一覧	75
第2表 鑄造関連遺物一覧表	72	第4表 遺構番号新旧対応表	76

図版目次

図版1～11 遺構写真

図版12～15 遺物写真

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

今回の地点は、医療法人白百合会が病院建設を計画し、平成23年4月25日付けで文化財保護法第93条にもとづく「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出された。

試掘の結果、遺構・遺物が検出されたため、事業範囲のうち2,002㎡を対象とし、市原市教育委員会が県費補助を受け確認調査を行った。

白百合会との協議の結果、現状保存が困難な工事範囲1,337㎡を本調査対象とし、本調査と整理・報告書刊行は、白百合会の費用負担を得て、国際文化財株式会社が実施することとなった。



第1図 確認調査および本調査範囲

第2節 遺跡の位置と環境

遺跡は市原市新堀957-1他に所在する。遺跡の立地する周辺は養老川中流域右岸の沖積平野に面した標高22m前後の微高地となっている。この微高地は樹枝状に複雑な様相で入り組む台地麓の河岸段丘面に形成され、遺跡の南西1.5kmには養老川が北へ流れ、南1kmには養老川の支流である新堀川が西へ流れる。

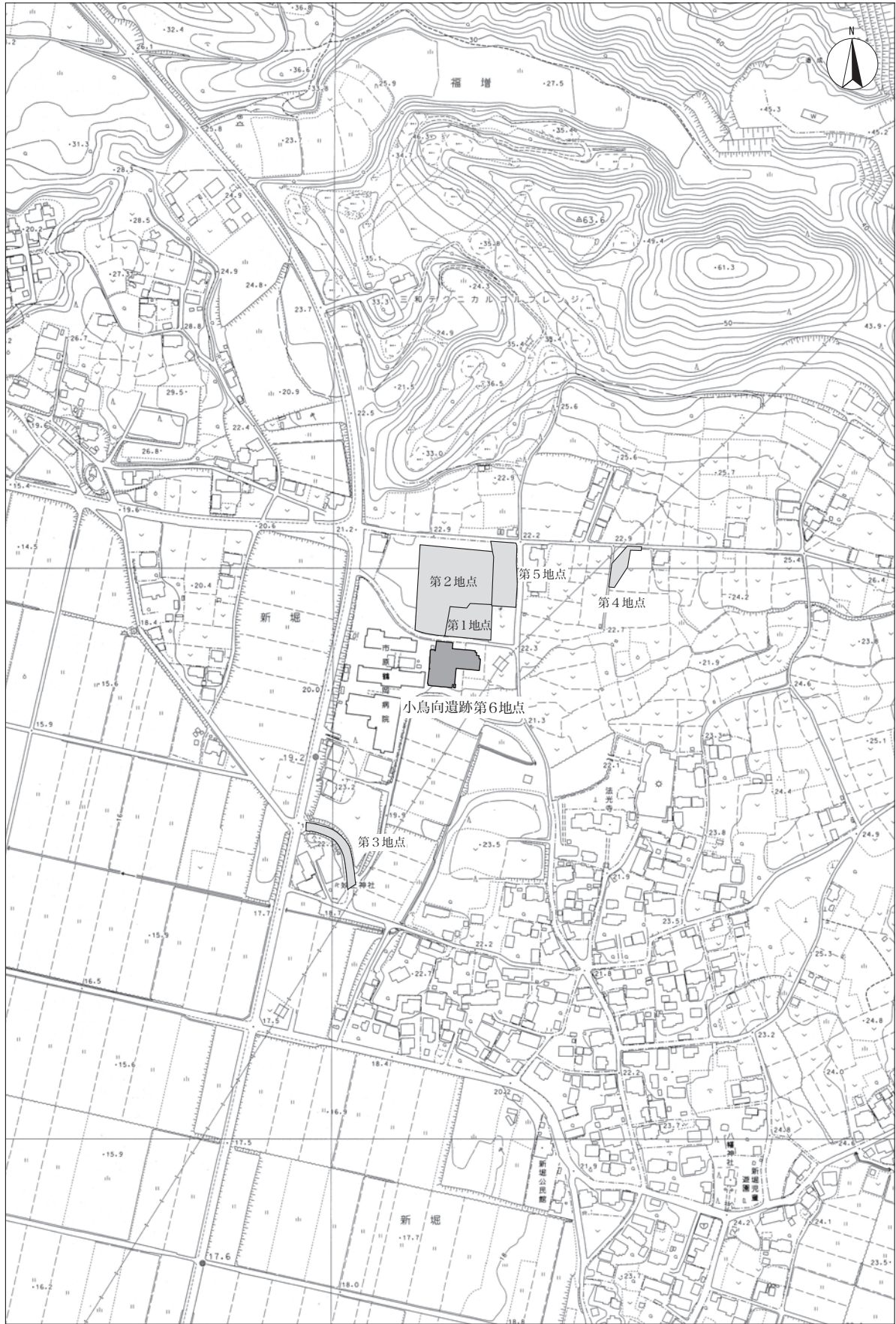
以下、ここでは本遺跡を特徴付ける弥生時代後期、古墳時代後期、中世を中心に周辺の遺跡を概観してみたい。山倉前畑遺跡(5)は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物8棟、古墳時代後期の竪穴建物6棟が検出された集落跡である。新殿古墳群(3)では弥生時代中期末葉の方形周溝墓や古墳時代終末期の前方後円墳などが調査されている。小ノ台遺跡(8)では古墳時代後期の竪穴建物11棟、奈良・平安時代の竪穴建物1棟などが調査され、遺構の時期や占地から福増山ノ神遺跡(9)、叶台遺跡(11)との密接な関連が推測される。武士遺跡(10)は縄文時代中期後半から後期前半の大規模な集落とともに古墳時代終末期から平安時代前葉の方形周溝状遺構41基をはじめとする墳墓群を検出している。北旭台遺跡(13)では古墳時代前期前葉の竪穴建物から有鉤銅釧が出土している。新生荻原野遺跡(14)は縄文時代早期、前期、中期の集落のほか古墳時代後期の区画溝を伴う集落が調査されている。そのほかでは福増古墳群(7)や武士古墳群(12)が知られる。

山倉古墳群(2)は1号墳から埼玉県生田遺跡生産の円筒埴輪、人物埴輪が出土し知られるが、そのほか中世前期の土壙墓や板碑、五輪塔が検出されており、中世においても聖域とされていたと考えられている。海上郡衙推定地である西野遺跡(1)では中世前半の溝状遺構が検出され、烏帽子の断片と考えられる漆の塗布された布状遺物が出土している。海土遺跡郡三入道地区(6)では前期古墳などの調査のほか、14世紀代と推測される土壙墓からは和鏡が出土し、戦国期の城跡とされる蟻木城(4)との関連が指摘されている。

小鳥向遺跡はこれまでに5地点の発掘調査が行われ(第3図)、古墳時代前期、平安時代、中世の遺構と遺物を検出している。このうち特筆されるのが中世の遺物として鉄滓や銅滓、鋳型などの鋳造関連遺物が出土する点である。「上総國新堀郷給主得分注文」『金沢文庫古文書』には“鋳物師免”の文言があり、鋳造関連遺物は鋳物師の存在を示す資料として評価されているが、その操業を示す遺構は検出されていない。



第2図 小鳥向遺跡位置図



市原市基本図 G-6(平成16年度測図) より抜粋

0 200m

(1 / 5,000)

第3図 小鳥向遺跡周辺地形図



第4図 小鳥向遺跡遺構配置図

第2章 調査成果

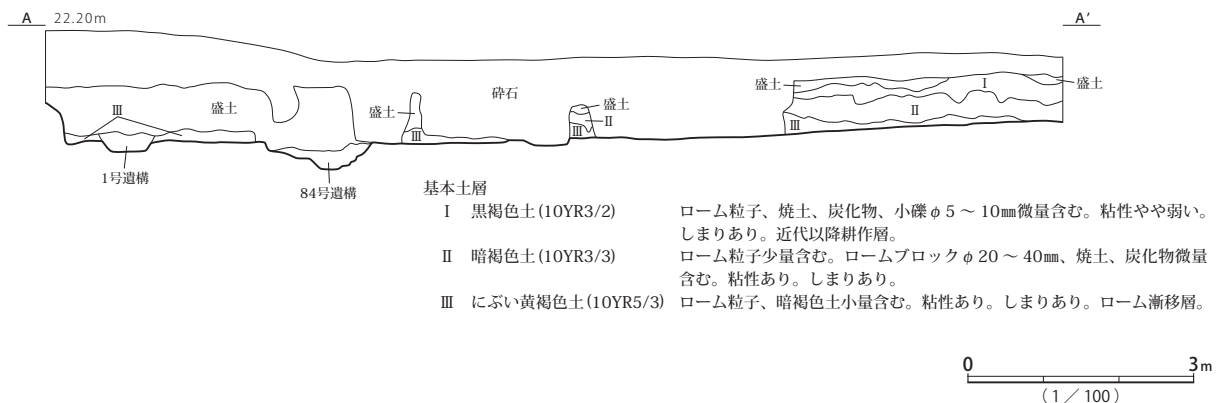
第1節 調査方法

調査は、平成23年度に実施された確認調査の結果に基づき、重機によって表土を除去した後、人力による調査を行った。グリッドは小鳥向遺跡第2地点の調査で設定したもの（『市原市小鳥向遺跡Ⅱ』財団法人市原市文化財センター 2002）を踏襲し、日本測地系「平面直角座標系第Ⅸ系」に基づき、20mメッシュの大グリッド（X軸を北から南に12～14、Y軸を西から東にJ～L）および2mメッシュの小グリッド（各大グリッド北西隅を原点00とし東へ01、02、03・・・）とした。なお、第4図の括弧内の数値は、世界測地系の座標値を示す。遺構平面図はトータルステーションを使用して計測し、断面図は手実測による図化を行った。記録写真はデジタルカメラ1台、中型カメラ2台をモノクロ・リバーサル用として撮影した。なお、本報告に際し整理作業時に遺構番号の付け替えを行っているので第4表を参照されたい。

第2節 遺跡の概要

対象面積1,337㎡を調査した結果、弥生時代後期の方形周溝墓1基、土坑5基、溝状遺構1条。古墳時代の竪穴建物5軒、土坑11基、溝状遺構2条、中世の井戸状遺構5基、火葬遺構2基、方形竪穴遺構18基、土坑29基、溝状遺構5条、道路状遺構2条、性格不明遺構1基を検出した。出土した遺物は弥生時代の土器、古墳時代の土師器、平安時代の須恵器、中世の陶磁器、土器、金属製品、石製品、鉄滓や炉壁などの鑄造関連遺物である。

基本層序は第5図に示すとおりである。調査区内が近年まで駐車場として利用されていたためか碎石が厚く敷設され、部分的には遺構検出面まで攪乱、削平されている状況であった。盛土層は近代以降による整地である。Ⅰ層は近世以降の耕作層である。Ⅱ層は中世以降の表土層と考えられる暗褐色土である。Ⅲ層はローム漸移層で、本調査ではⅢ層下面、ローム層の検出面まで重機による掘削を行い、遺構確認面とした。また遺構壁面の観察により、ローム層の下位にはいわゆる常総粘土層が広がることを確認している。



第5図 基本層序

第3節 遺構と遺物

1 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構と遺物

方形周溝墓

1号遺構(第6～9図、写真図版2・12)

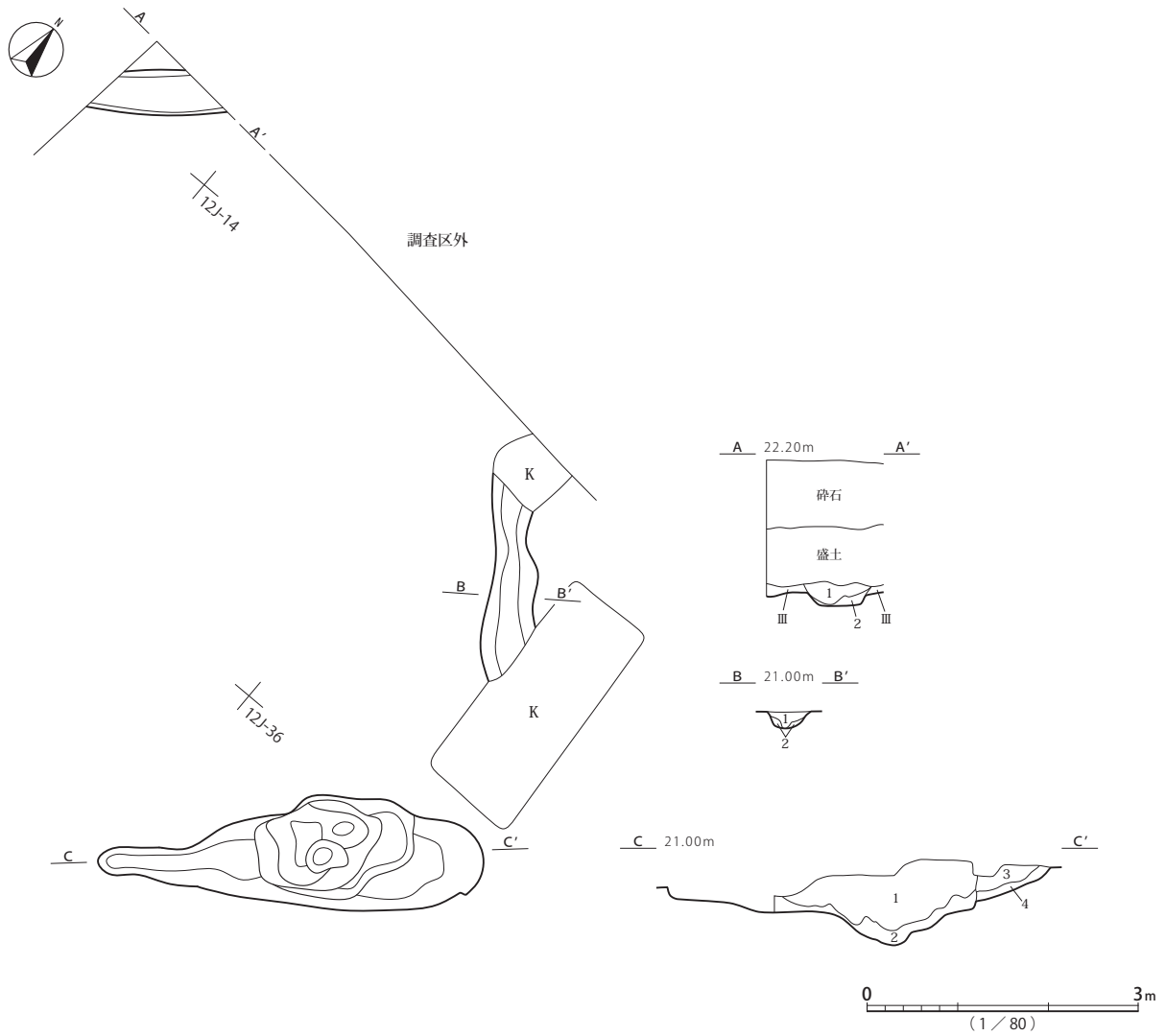
遺 構 12J03・13・16・26・27・36・37・45・46グリッドに位置する。調査当初は3基の個別の遺構として調査を行ったが、覆土の特徴から同一時期の遺構と考えられ、また方形を推測させる配置であることから1基の方形周溝墓と判断した。コーナー部分に溝がめぐっていないが、これは後世の削平により周溝が消失したためか、あるいは本遺構の構築時から陸橋としていたのかは不明である。以下、それぞれの周溝を北東側、北西側、南東側として報告する。

北東側周溝は両端が攪乱により破壊され、中央付近のみの検出である。規模は全長1.90m(残存値)、幅0.48m、深度は0.19mを測る。北西側周溝は両端が調査区外へ伸びる。全長1.08m(残存値)、幅0.50m、深度0.14mを測る。南東側周溝は全長4.24m、幅1.24m、深度は0.99mを測る。

北東および北西側周溝の底面は平坦であるのに対し、南東側周溝は階段状の起伏が認められる。この南東側周溝は覆土上層から壺3点(1～3)、高坏1点(4)、鉢1点(5)の5点がほぼ同一レベルで出土しており、周溝の埋没過程で追葬が行われたことが推測される。

周溝底面からの出土遺物がないため、遺構の構築時期は不明であるが、図示したものをはじめとする覆土上層の出土遺物から弥生時代後期後半には方形周溝墓として機能していたと考えられる。

遺 物 1・2・3は壺、4は高坏、5は鉢である。1～5はすべて南東側周溝の覆土上層から出土したものである。このほかに土器の細片、混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。1の壺は口縁部の大部分が欠損しており、棒状浮文が添付されていたことが確認できるが、その単位数は不明である。頸部には円形浮文、胴部には結節により区画された羽状縄文が2段施され、この文様帯を除いて赤彩される。2は壺の胴部である。外面にミガキ、赤彩が施される。胴部下位は輪積接合部からの欠損である。3の壺は外面にミガキが施され、また内面にも肩部にわずかながらミガキが施されている。胴部内面には輪積み痕が明瞭に残存する。4の高坏は坏部にヘラナデが明瞭に残存し、ミガキが比較的密な脚部と比して粗雑な印象を受ける。5の鉢は内外面ともにわずかなミガキと赤彩が施される。



1号遺構A-A'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) 黒褐色シルト粒土少量含む。粘性あり。しまりあり。

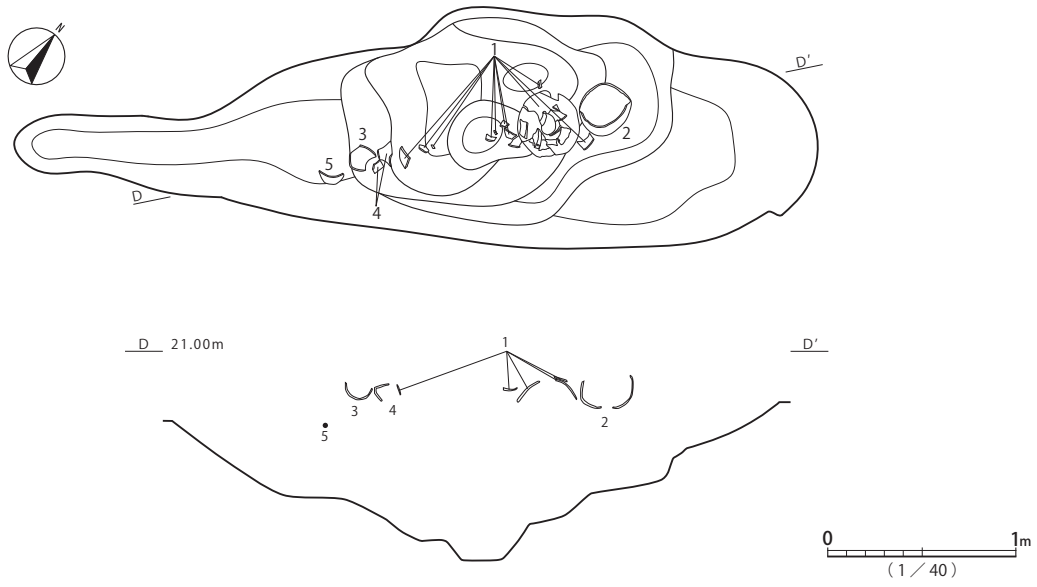
1号遺構B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ50～60mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子中量含む。黒褐色シルト粒土微量含む。粘性あり。しまりあり。

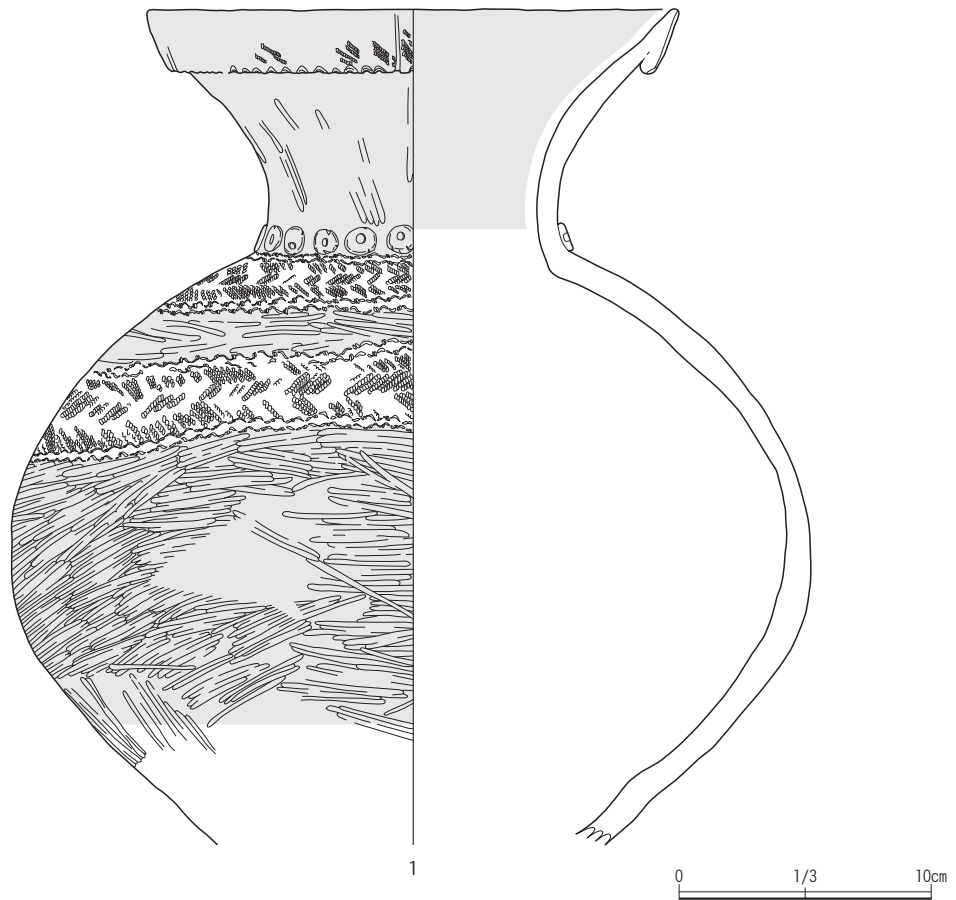
1号遺構C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 焼土、炭化物微量含む。ローム粒子極微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 浅黄色細粒砂ブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～50mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

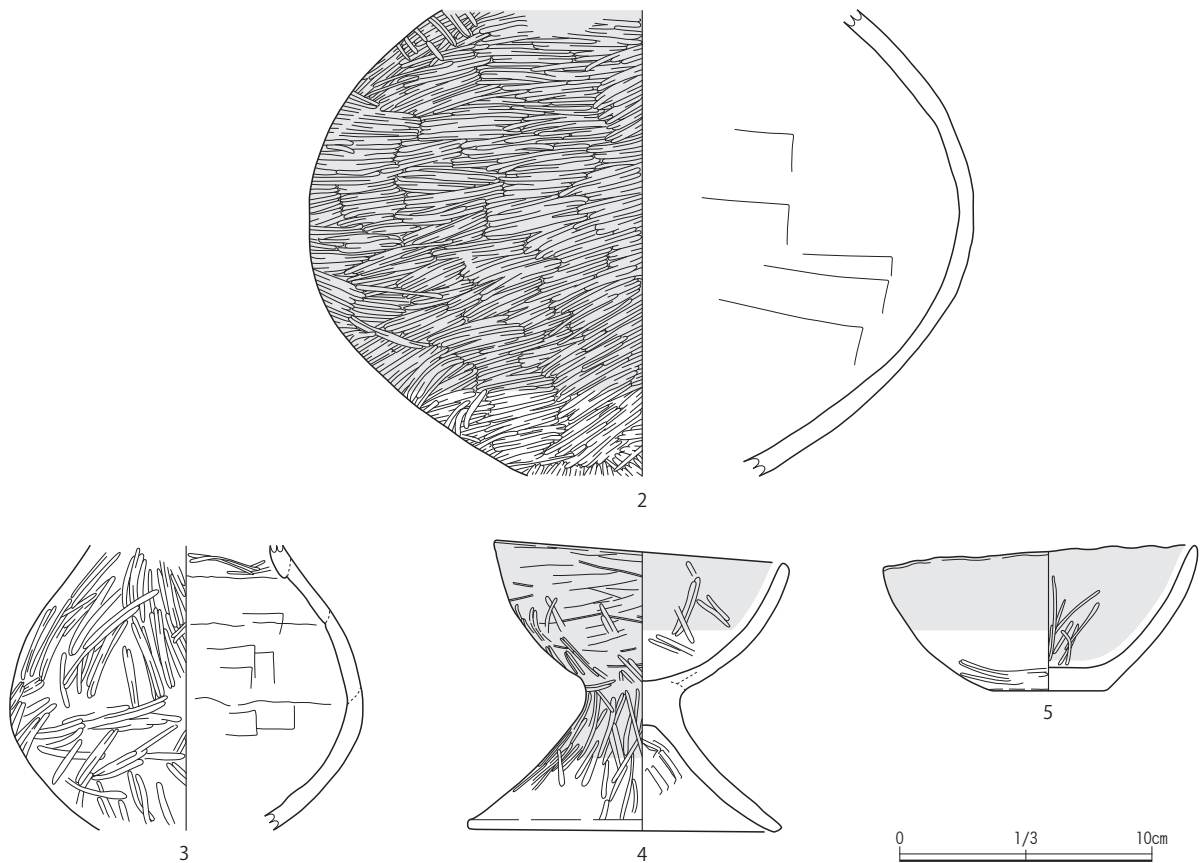
第6図 1号遺構



第7图 1号遺構遺物出土状況



第8图 1号遺構出土遺物(1)



第9図 1号遺構出土遺物(2)

1号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	上層	口径：20.6 器高：33.1 底径：- 最大径：31.7	外面：口縁部縄文(RL)。縦位沈線。ハケキザミ。頸部ミガキ。円形浮文。胴部上位Z字状結節。S字状結節。赤彩 内面：羽状縄文(RL、LR、RL)、Z字状結節。S字状結節。胴部下位ミガキ。赤彩	焼成：良好 色調：暗赤 残存度：3/4	
2	弥生土器壺	上層	口径：- 器高：(18.5) 底径：- 最大径：26.3	外面：ハケメのちミガキ。赤彩 内面：ヘラナデ	焼成：良好 色調：赤 残存度：2/3	
3	弥生土器壺	上層	口径：- 器高：(11.3) 底径：- 最大径：(14.0)	外面：胴上部縦位ミガキのち胴下部斜位ミガキ 内面：輪積痕。ヘラナデ。横位ミガキ	焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：1/2	
4	弥生土器高坏	上層	口径：11.4 器高：11.6 底径：12.0	外面：坏部ヘラナデのちミガキ。赤彩。脚部ナデのちミガキ。赤彩 内面：坏部ミガキ。赤彩。脚部ヘラナデ	焼成：良好 色調：橙 残存度：3/4	
5	弥生土器鉢	上層	口径：12.4 器高：5.8 底径：4.4	外面：口縁部横位ナデ。体部ナデのちミガキ。赤彩 内面：口縁部横位ナデ。体部ナデのちミガキ。赤彩	焼成：良好 色調：浅黄橙 残存度：完形	

土坑

2号遺構 (第11図)

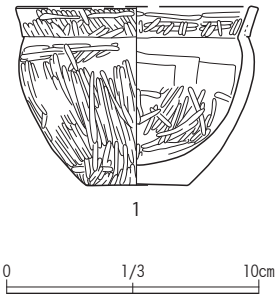
遺 構 12K50・51・60・61グリッドに位置する。平面形態は長楕円形の土坑である。規模は長軸1.68m、短軸0.66m、深度は0.24mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。2～4号遺構との位置関係を考えると1号遺構と同様の方形周溝墓の一部とも思われる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から弥生時代後期の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片や混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。

3号遺構 (第10・11図、写真図版2)

遺 構 12J79・89・12K60・70グリッド、2号遺構の南に位置し、北側で67号遺構に切られる。平面形態は長楕円形の土坑である。規模は長軸4.11m、短軸0.84m、深度は0.29mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺構の時期は出土遺物から弥生時代後期から古墳時代前期初頭の遺構と思われる。

遺 物 1の鉢は内外面にミガキが密に施されている。このほかに土器の細片、混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。



第10図 3号遺構出土遺物

3号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	鉢	上層	口 径： (9.2) 器 高： 7.1 底 径： (4.0) 最大径： (9.4)	外面：縦位ミガキ 内面：横位ヘラナデのち斜位ミガキ	焼 成：普通 色 調：明赤褐 残存度：1/2	

4号遺構 (第11図、写真図版2)

遺 構 12K30・40・41・50グリッド、2号遺構の北に位置する。平面形態は不定形の土坑であるが、北側は調査区外へ延びるため全容は不明である。規模は長軸2.52m (残存値)、短軸2.06m、深度は0.49mを測る。底面は起伏があり東側が深く掘り込まれている。あるいは複数の掘り込みであったとも考えられる。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から弥生時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

5号遺構 (第11図、写真図版2)

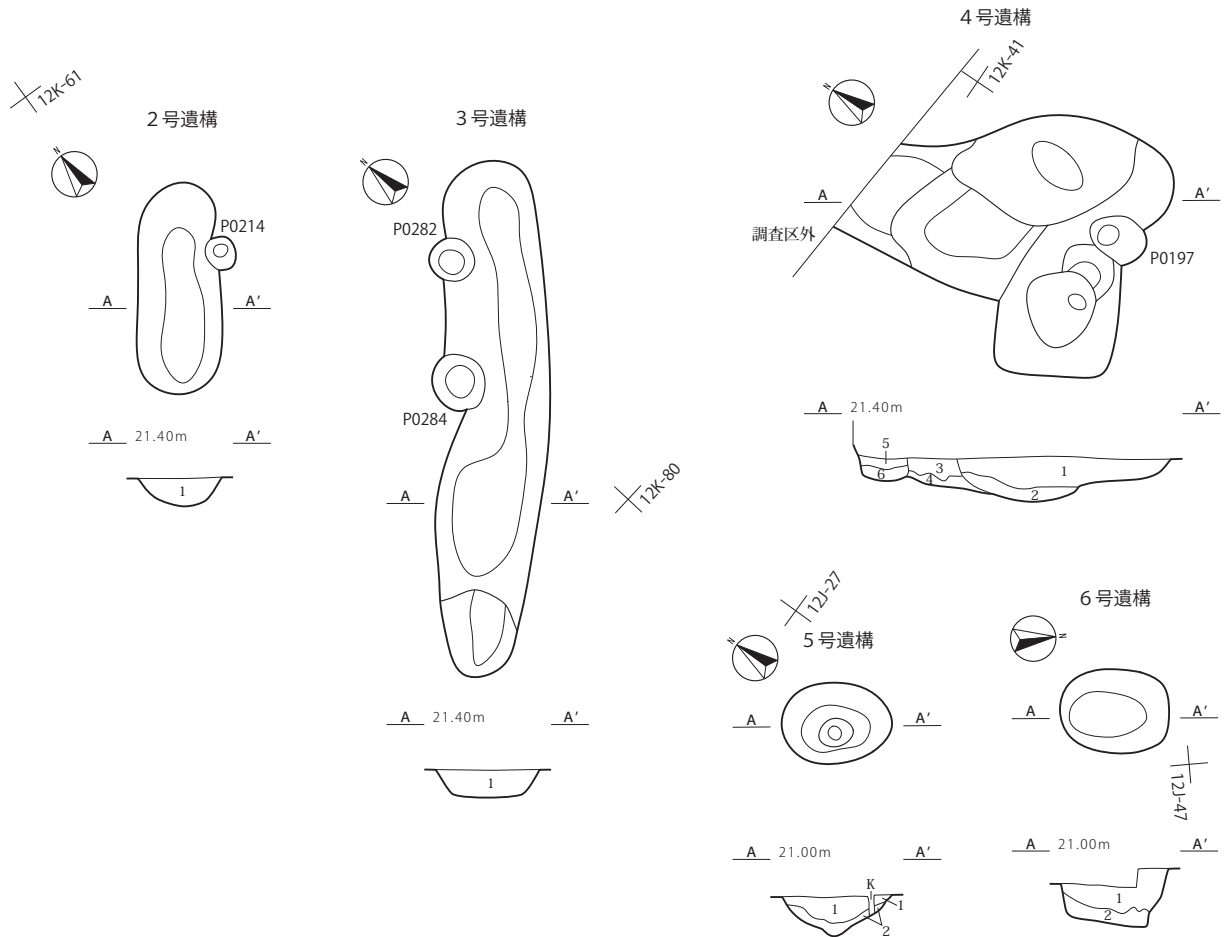
遺 構 12J26グリッド、1号遺構の内側に位置する。平面形態は楕円形の土坑である。規模は長軸0.87m、短軸0.64m、深度は0.32mを測る。底面のほぼ中央にピット状の窪みを有し壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から弥生時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

6号遺構 (第11図、写真図版2)

遺 構 12J46グリッド、1号遺構の南に位置する。平面形態は楕円形の土坑である。規模は長軸0.84m、短軸0.66m、深度は0.46mを測る。底面は平坦で北に向かい緩やかに傾斜している。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から弥生時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。



2号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

3号遺構

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ10～30mm、ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

4号遺構

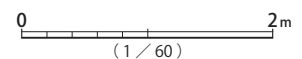
- 1 黒色土(10YR2/1) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 褐色土(10YR4/6) ローム粒子多量含む。黒褐色シルト粒土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ40mm、ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子多量含む。粘性あり。しまりあり。

5号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

6号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～70mm少量含む。粘性あり。しまりあり。



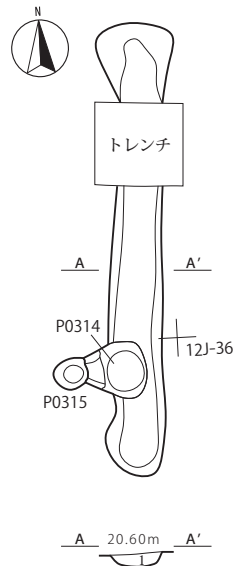
第11図 2～6号遺構

溝状遺構

7号遺構 (第12図)

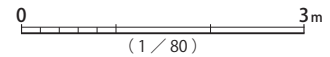
遺 構 12J35・45・55グリッド、6号遺構の西に位置する。一部が試掘トレンチにより削平されている。規模は全長4.78m、幅0.56m、深度は0.20mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から弥生時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。



7号遺構

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 褐灰色シルト粒土少量含む。焼土微量含む。
粘性やや強い。しまりあり。



第12図 7号遺構

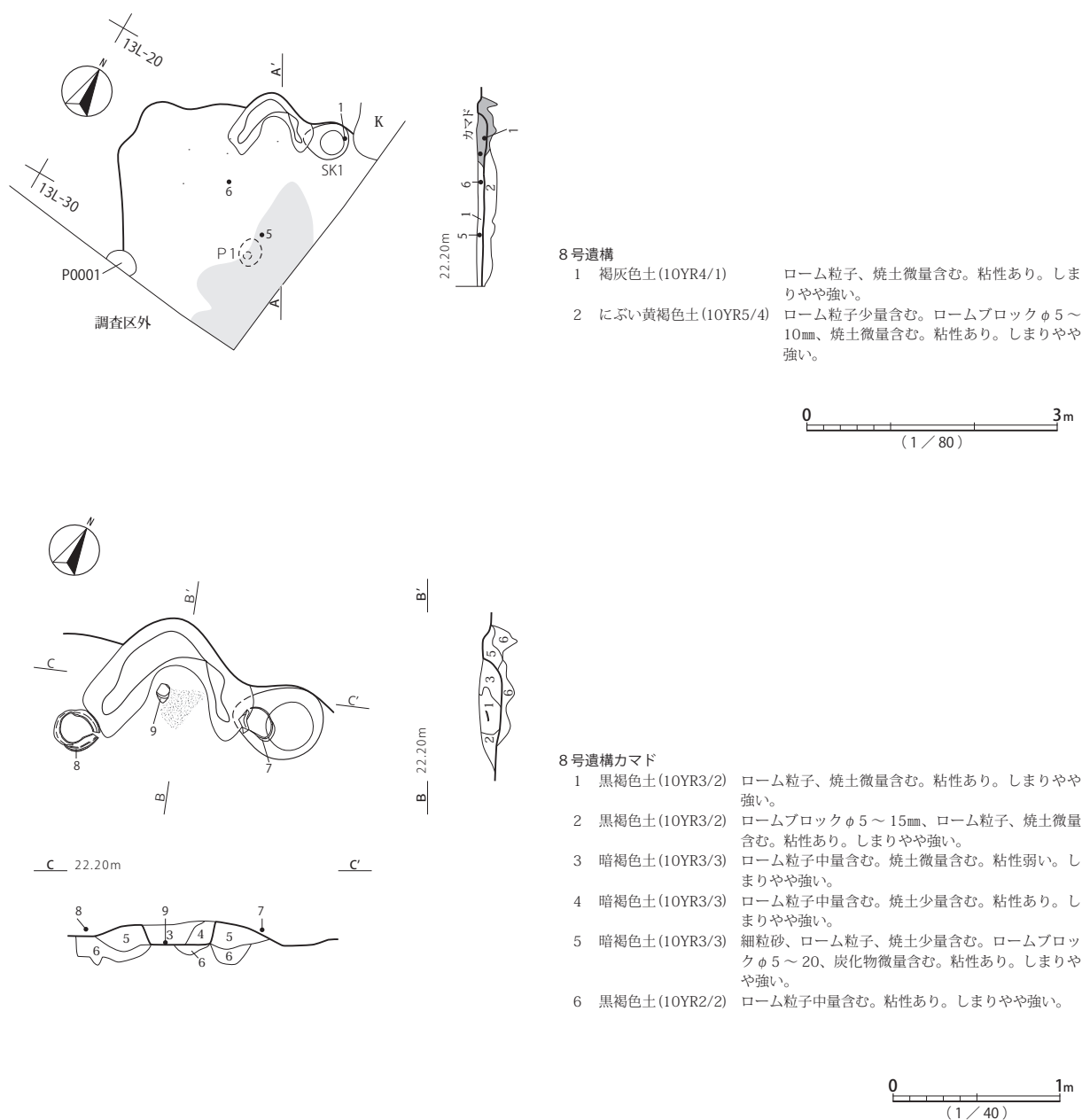
2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物

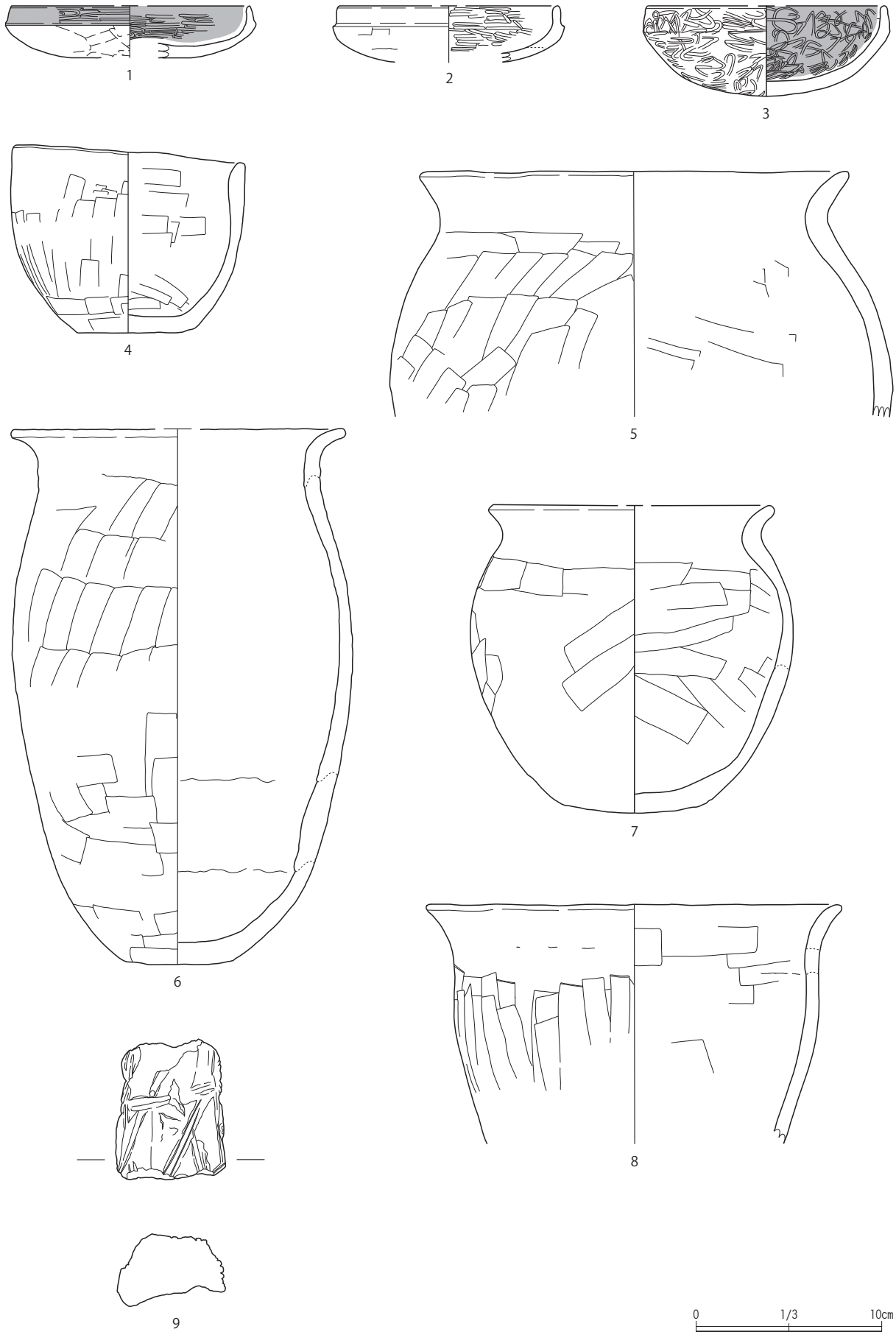
8号遺構 (第13・14図、写真図版2・3・12)

遺 構 13L10・11・20・21・30・31グリッドに位置する。北西コーナーから北、西壁を検出し南東側は調査区外へ伸びる。平面形態は方形であろう。規模は残存値で主軸3.08m、副軸3.00m、床面までの深度は0.22mを測る。主軸方向はN-32°-W。床は貼り床であり、掘り方は北西コーナー側がやや深く掘り込まれている。後世の耕作や削平により遺構の残りは悪く、壁の立ち上がりも不明瞭であった。支柱穴、周溝は確認されなかった。北壁中央にカマドが設けられ、両袖脇の床面直上から甕(7)と甗(8)が、また火床面中央からは支脚と思われる土製品(9)が出土している。床面はカマド正面から建物中央にかけて踏み締められ硬化している。SK1はカマドの脇という位置から貯蔵穴と推測される。深度は0.62mを測る。遺構の時期は出土遺物から7世紀前半の建物址と思われる。

遺物 1～8の土師器のうち、1～3は坏、4は鉢、5～7は甕、8は甗である。9は土製品である。このほかに土器片、混入と思われる铸造関連遺物が出土している。1はSK1の上層から出土している。内外面が黒色処理される。2は内面にミガキが施される。3はSK1からの出土。内外面ともにミガキが施され、内面は黒色処理されている。5は建物のほぼ中央、床面直上からの出土である。6はカマド前面の床面直上から出土している。胴部上位は縦位、胴部下位は横位のヘラナデが施される。7・8はカマドの両袖脇からの出土である。9はカマド火床面から出土した、上下端部を欠損する柱状の土製品で、断面はほぼ半分を欠損しているが多角形であったと思われる。表面には半裁竹管様の工具によるものか、平行沈線が篋目状に施されている。長期間の被熱のためか、赤化し非常にもろい。カマド内の出土位置と合わせて考えると支脚としての使用が推測される。



第13図 8号遺構および8号遺構カマド



第14图 8号遺構出土遺物

0 1/3 10cm

8号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	SK1	口径：(12.8) 器高：(2.8) 底径：-	外面：口縁部横位ナデのちミガキ。体部ヘラケズリ。黒色処理 内面：ナデのちミガキ。黒色処理	焼成：普通 色調：にぶい橙 残存度：1/4以下	
2	土師器 坏	覆土一括	口径：(11.7) 器高：(3.0) 底径：- 最大径：12.4	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：ミガキ	焼成：普通 色調：橙 残存度：1/4以下	
3	土師器 坏	SK1	口径：(12.7) 器高：4.7 底径：-	外面：口縁部横位ナデのちミガキ。体部ヘラケズリのちミガキ 内面：口縁部横位ナデのちミガキ。体部ナデのちミガキ。黒色処理	焼成：普通 色調：にぶい褐 残存度：3/4	
4	土師器 鉢	下層	口径：12.2 器高：10.1 底径：5.5	外面：口縁部横位ナデ。胴上部縦位ヘラナデ。 胴下部横位ヘラナデ 内面：口縁部横位ナデ。胴部横位ヘラナデ	焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：2/3	
5	土師器 甕	床直	口径：(22.8) 器高：(13.3) 底径：- 最大径：(27.1)	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ・横位ナデ 内面：胴部ヘラナデ	焼成：普通 色調：褐 残存度：1/4以下	
6	土師器 甕	床直	口径：(17.6) 器高：(28.8) 底径：4.6	外面：口縁部横位ナデ。胴～底部ヘラナデ 内面：口縁部横位ナデ。胴～底部ナデ	焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：1/3	
7	土師器 甕	床直	口径：(14.8) 器高：16.6 底径：7.0 最大径：(17.4)	外面：口縁部横位ナデ。胴部上位横位ヘラナデ。 下位斜位ヘラナデ 内面：口縁部ナデ。胴部横位ヘラナデ	焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：1/2	
8	土師器 甕	床直	口径：22.0 器高：(12.9) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラナデ 内面：ヘラナデ	焼成：普通 色調：にぶい橙 残存度：1/3	

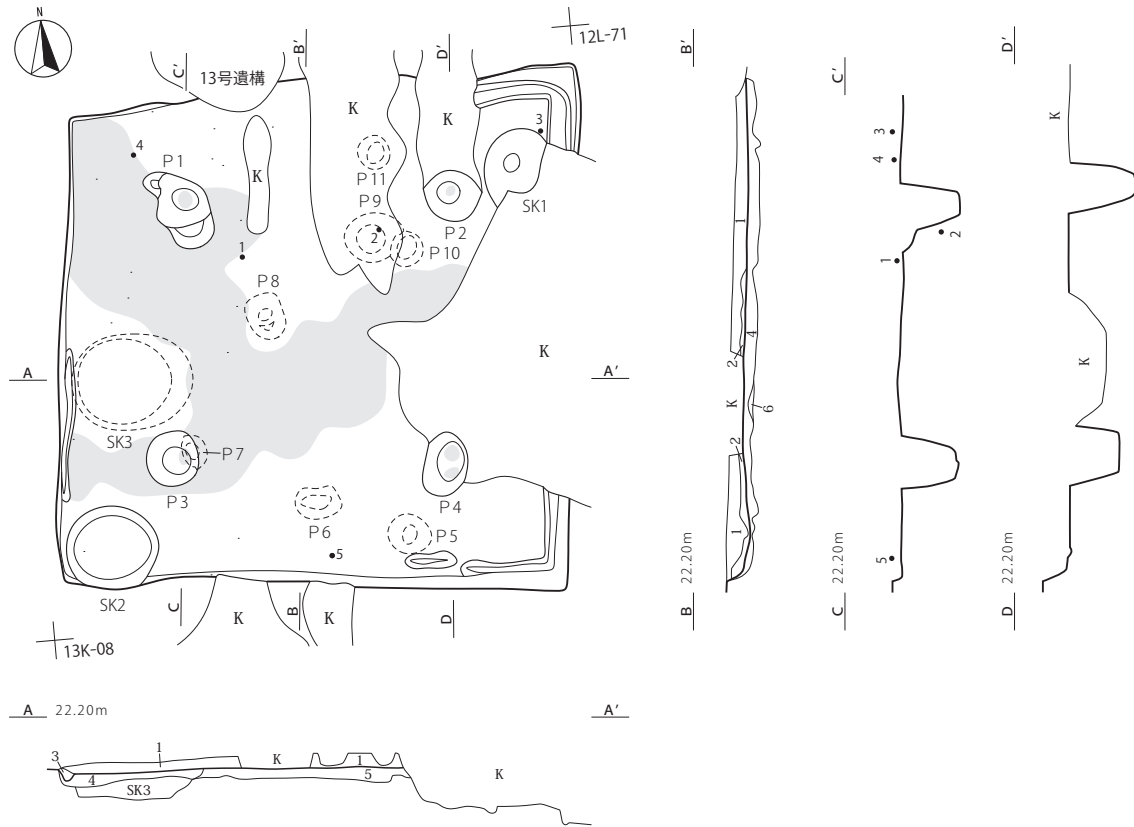
8号遺構出土土製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			成形・調整	重量 (g)	備考
9	土製品 支脚	カマド	長さ：7.6	幅：5.9	厚さ：3.9	焼成：普通 色調：橙 残存度：-	151.5	籠目状の沈線

9号遺構 (第15図、写真図版3)

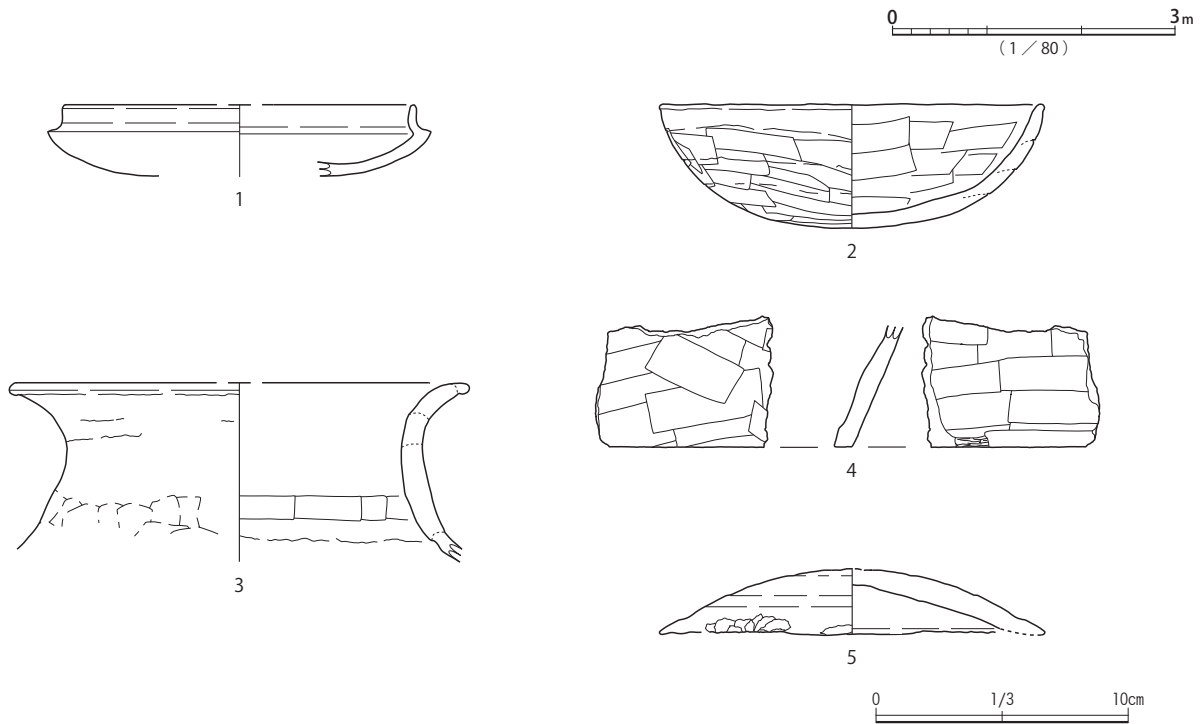
遺構 12K78・79・88・89・98・99・12L70・71・80・90グリッド、8号遺構の北に位置する。北壁中央から東壁南側にかけて大きく攪乱を受け、北側で10号遺構を切り、また13号遺構と切り合うが新旧関係は不明である。平面形態は方形である。規模は南北方向を主軸と推定し5.40m、副軸5.20m、床面までの深度は0.24mを測る。主軸方向はN-6°-E。床は貼り床であり、掘り方は南西側が比較的深く掘りこまれている。壁は床面からやや緩やかに立ち上がるが、遺構の残りが悪いため本来の壁面を示すとは言いがたい。主柱穴は対角線上にP1～P4の4基を確認している。深度はP1が0.61m、P2が0.72m、P3が0.59m、P4が0.80mを測る。周溝は南東・北東コーナーおよび西壁の一部で検出された。炉やカマドは検出されなかったが、攪乱を受けている北壁中央にカマドが設けられていたと推測される。床面は建物中央から南東・北東両コーナーにかけて踏み締められ硬化している。床面では柱穴のほかに2基の土坑(SK1・SK2)を検出し、掘り方底面で1基の土坑(SK3)を検出した。深度はSK1が1.22m、SK2が0.18m、SK3が0.22mを測る。遺構の時期は出土遺物から7世紀後半の建物址と思われる。

遺物 1～4の土師器のうち、1・2は坏、3は甕、4は甗である。5は須恵器の蓋である。このほかに土器片、混入と思われる鑄造関連遺物が出土している。2は外面に輪積痕が残る。3はSK1からの出土である。2と同様に外面に輪積痕が見られる。4は甗の底部である。5は天井端部とかえりが人為的に打ち欠いてあり、摘みの剥落も意図的な加工と思われる。



9号遺構

- | | |
|--------------------|--|
| 1 黒褐色土(10YR3/1) | ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。 |
| 2 灰黄褐色土(10YR4/2) | ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 3 黒褐色土(10YR3/1) | ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5~20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 4 黒褐色土(10YR3/2) | ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。 |
| 5 黒色土(10YR1.7/1) | ロームブロックφ5~40mm、白色粘土ブロックφ5~20mm少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。 |
| 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり非常に強い。 |



第15図 9号遺構および9号遺構出土遺物

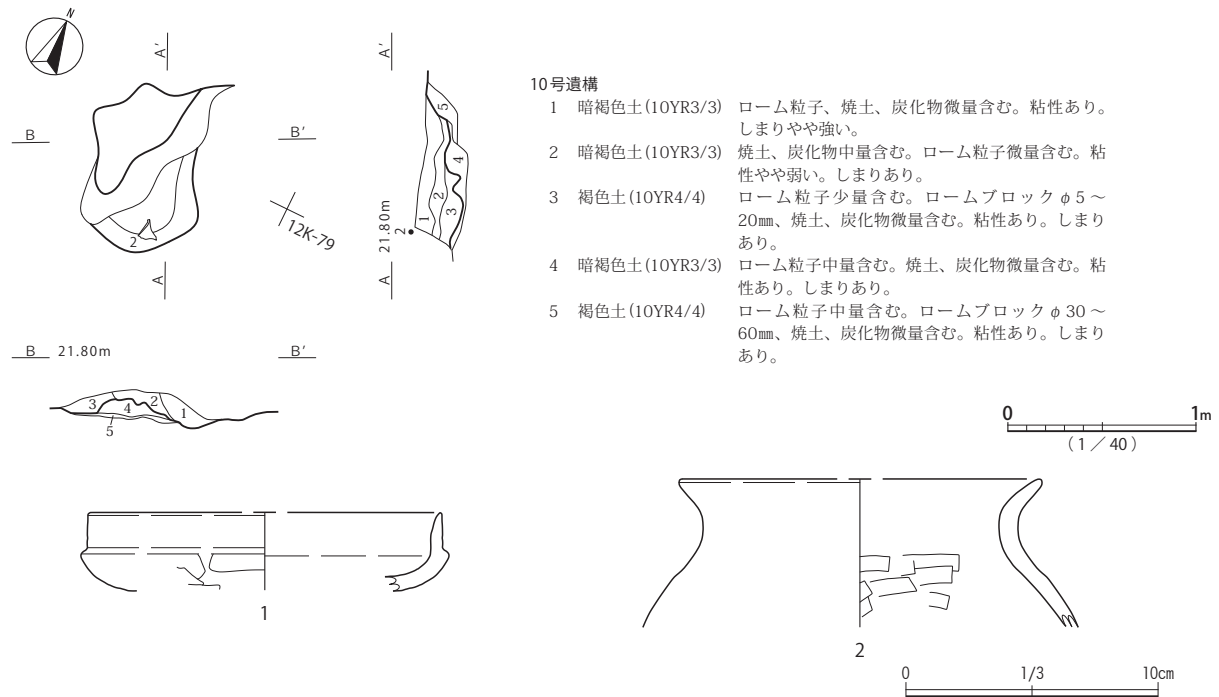
9号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	上層	口径：(13.8) 器高：(2.8) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：ナデ	焼成：普通 色調：にぶい黄橙 残存度：1/4以下	
2	土師器 坏	P9	口径：(15.0) 器高：4.9 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	焼成：普通 色調：橙色 残存度：1/2	
3	土師器 甕	SK1	口径：17.6 器高：(7.1) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。胴部縦位ヘラケズリ 内面：口縁部横位ナデ。胴部横位ヘラナデ	焼成：普通 色調：明黄褐 残存度：1/3	
4	土師器 甗	上層	口径：- 器高：(4.8) 底径：-	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	焼成：良好 色調：黒褐 残存度：1/4以下	
5	須恵器 蓋	上層	口径：- 器高：(2.6) 底径：-	外面： 内面：	焼成：良好 色調：暗灰黄 残存度：1/4以下	

10号遺構 (第16図)

遺構 12K68・78 グリッドに位置し、9号遺構に切られる。規模は残存値で長軸1.43m、短軸1.07m、深度は0.27mを測る。削平によりカマド袖部の一方が残存するのみであり、建物の壁面や支柱穴などは確認されなかった。遺物が少なく時期の特定は推測ではあるが、7世紀代の建物址と思われる。

遺物 1は坏、2は甕、どちらも覆土中から出土した土師器である。このほかに土器の細片が出土している。



第16図 10号遺構および10号遺構出土遺物

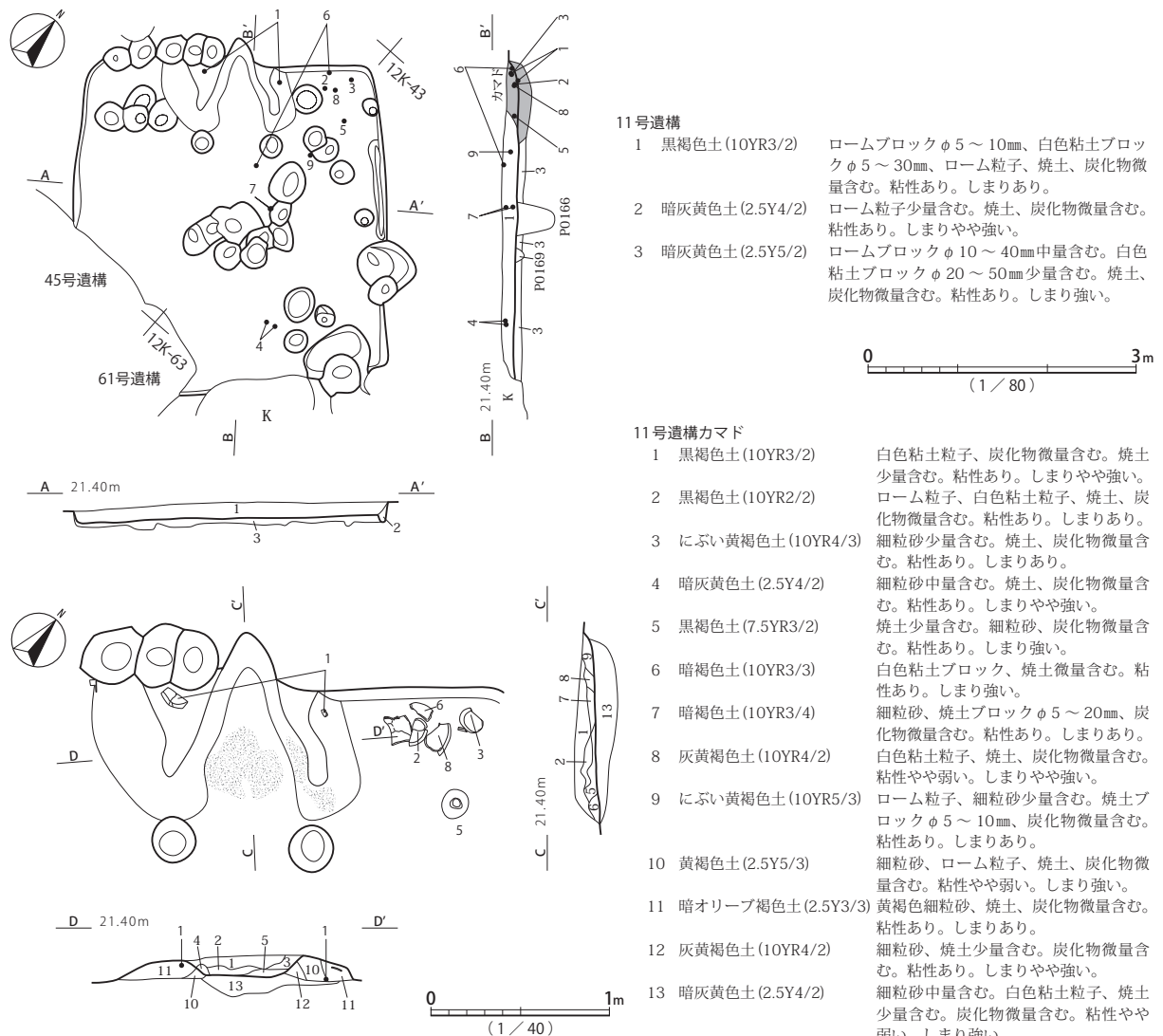
10号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土一括	口径：(14.0) 器高：(3.1) 底径：- 最大径：(14.6)	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：ナデ	焼成：普通 色調：にぶい褐 残存度：1/4以下	
2	土師器 甕	覆土一括	口径：(14.4) 器高：(5.9) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。 内面：口縁部横位ナデ。胴部横位ヘラナデ	焼成：普通 色調：橙 残存度：1/4以下	

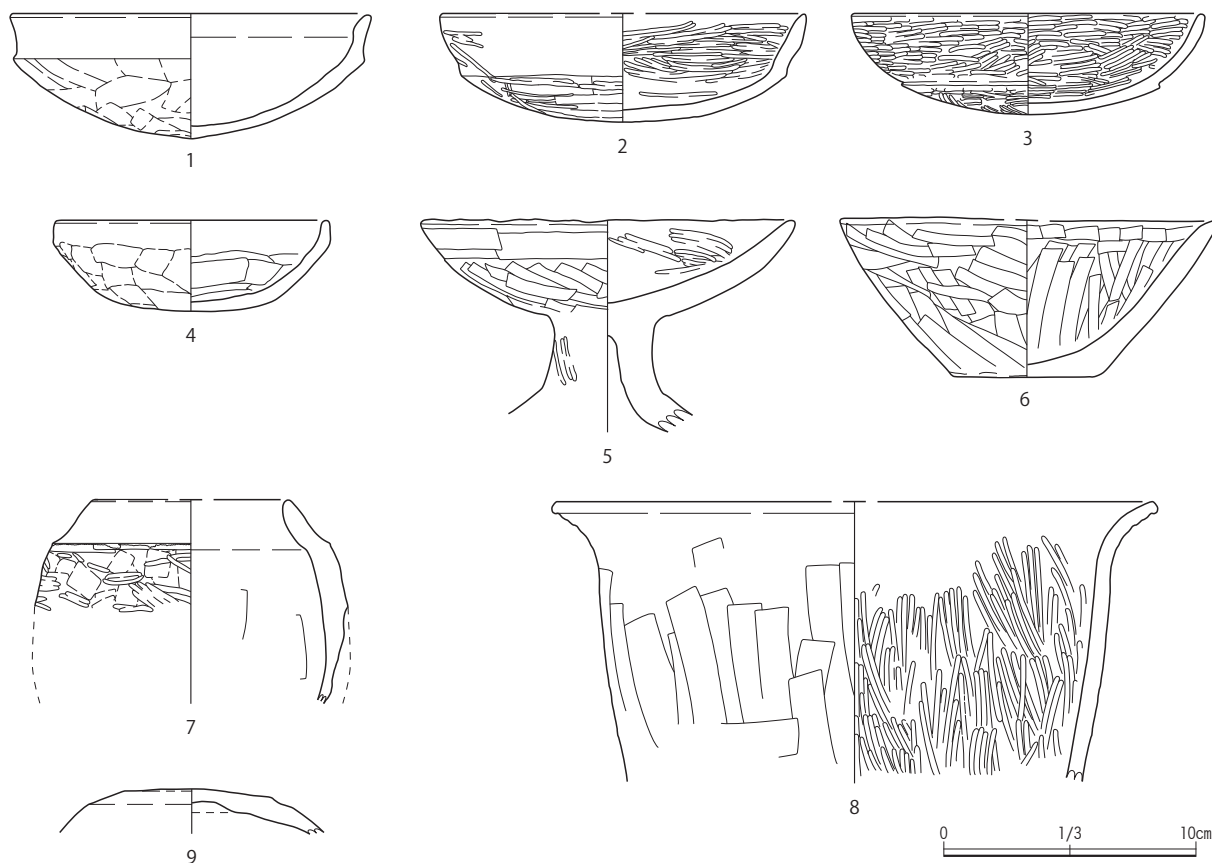
11号遺構 (第17・18図、写真図版3・13)

遺 構 12K41～43・51～54・63グリッドに位置する。中世の方形竪穴状遺構や時期不明のピット多数に切られている。平面形態は方形である。規模は主軸3.50m、副軸2.90m、床面までの深度は0.18mを測る。主軸方向はN-43°-W。床は貼り床であり、掘り方は北東、北西の両コーナー周辺が比較的深く掘り込まれている。壁面は床面からほぼ垂直に立ち上がる。周溝は西壁中央で検出された。北壁中央にカマドが設けられ、両袖の先端でピットを検出している。カマド構築材を据えるための掘り込みと考えられる。時期不明の多数のピットが床面の下位まで掘り込まれていたため、支柱穴の把握ができなかった。カマド東側の床面直上からは坏(2・3)、高坏(5)、鉢(6)、甗(8)が出土している。遺構の時期は出土遺物から7世紀前半の建物址と思われる。

遺 物 1～8の土師器のうち、1～4は坏、5は高坏、6、7は鉢、8は甗である。9は須恵器の蓋である。このほかに土器片、混入と思われる鑄造関連遺物が出土している。1はカマド内からの出土である。3は内外面にミガキが密に施されている。5は逆位で出土している。坏部の口縁は横位のナデ、体部下位はヘラナデされる。8は内面にミガキが施されている。9は蓋の天井部である。



第17図 11号遺構および11号遺構カマド



第18図 11号遺構出土遺物

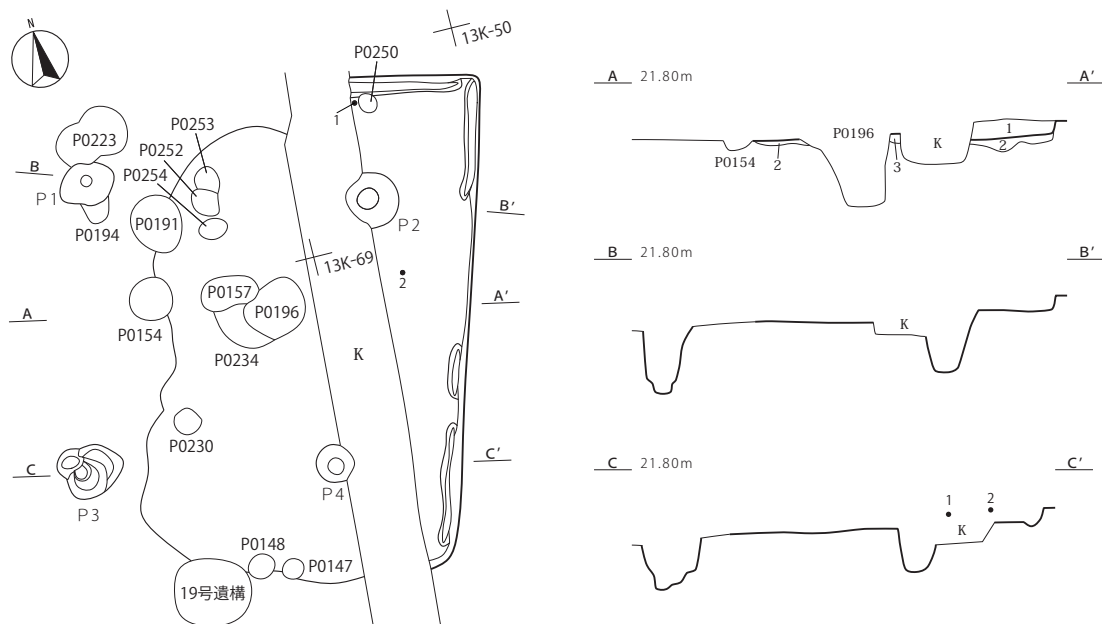
11号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 杯	カマド	口径：14.1 器高：5.0 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：明褐 残存度：ほぼ完形	
2	土師器 杯	床直	口径：(14.3) 器高：4.3 底径：-	外面：口縁部横位ナデのちミガキ。体部ヘラケズリのちミガキ 内面：横位ナデのちミガキ	焼成：良好 色調：明褐 残存度：2/3	
3	土師器 杯	床直	口径：13.8 器高：4.0 底径：-	外面：ヘラケズリのちミガキ 内面：ミガキ	焼成：普通 色調：にぶい黄褐 残存度：2/3	
4	土師器 杯	上層	口径：10.7 器高：3.6 底径：6.8	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。 内面：口縁部横位ナデ。体部ヘラナデ	焼成：良好 色調：明黄褐 残存度：ほぼ完形	
5	土師器 高杯	床直	口径：14.6 器高：(8.4) 底径：-	外面：坏部横位ナデ。脚部ナデのちミガキ。体部下位ヘラナデ 内面：坏部ナデのちミガキ。脚部ナデ	焼成：良好 色調：黒褐 残存度：1/2	
6	土師器 鉢	上層	口径：(14.9) 器高：6.3 底径：(5.4)	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	焼成：良好 色調：橙 残存度：1/2	
7	土師器 鉢	下層	口径：(7.8) 器高：8.1 底径：- 最大径：12.4	外面：口縁部ヘラナデ、胴部ヘラケズリのちミガキ 内面：ヘラナデ	焼成：良好 色調：橙 残存度：1/4以下	
8	土師器 甑	床直	口径：(23.6) 器高：(11.2) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ 内面：口縁部横位ナデ。胴部ナデのちミガキ	焼成：普通 色調：橙 残存度：1/4	
9	須恵器 蓋	中層	口径：- 器高：(1.8) 底径：-	外面：自然釉 内面：-	焼成：良好 色調：黒褐 残存度：1/4以下	

12号遺構 (第19・20図、写真図版3)

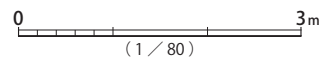
遺 構 13J57～59・67～69・77～79、13K50グリッドに位置する。西側は床面下位まで削平され、ほぼ東側半分の検出にとどまる。南側で19号遺構に切られ、北側で25号遺構を切る。平面形態は方形と推測される。規模は南北方向を主軸と推定し、残存値で3.36m、副軸2.68m、床面までの深さ0.21mを測る。東壁を基準とした主軸方向はN-17°-E。床は貼り床であり、掘り方は建物中央が比較的深く掘り込まれていたようである。壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。主柱穴は対角線上にP1～P4の4基を確認している。深度はP1が0.70m、P2が0.73m、P3が0.57m、P4が0.45mを測る。周溝は北壁から東壁南東コーナー寄りにかけて断続的に確認された。カマドは検出されなかったが、攪乱、削平を受けている北壁中央に設けられていたと推測される。時期を示す出土遺物は少なく断定はできないが、7世紀代の建物址と思われる。

遺 物 1は坏、2は甑、どちらも土師器である。このほかに土器片が出土している。1は内外面が赤彩され、外面には輪積痕が観察される。2は内面にミガキが施される。

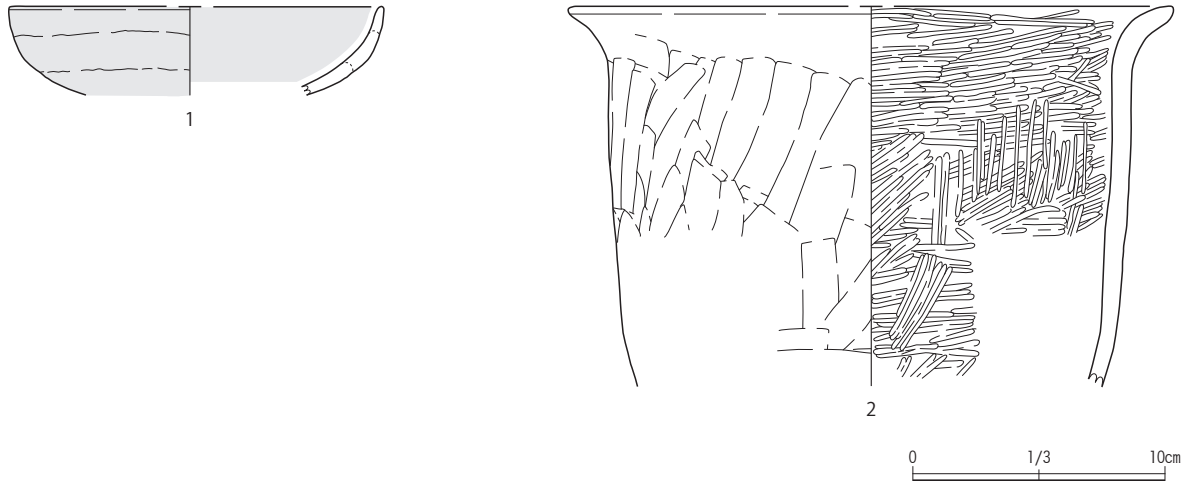


12号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～40mm、ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～30mm少量含む。ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
- 3 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒子多量含む。黒褐色シルト粒土少量含む。焼土微量含む。粘性弱い。しまり強い。



第19図 12号遺構



第20図 12号遺構出土遺物

12号遺構出土土器観察表

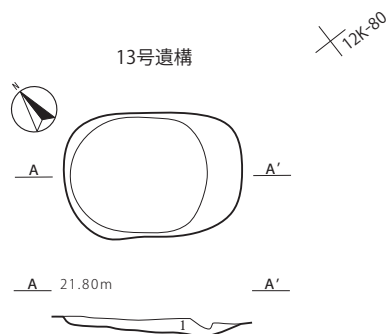
番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	上層	口径：(14.8) 器高：(3.5) 底径：-	外面：ナデ。赤彩 内面：ナデ。赤彩	焼成：普通 色調：にぶい黄橙 残存度：1/4以下	
2	土師器 甕	上層	口径：(23.6) 器高：(15.1) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ 内面：ミガキ	焼成：普通 色調：橙 残存度：1/4	

土坑

13号遺構 (第21図)

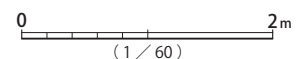
遺構 12K68・69・78・79グリッドに位置する。9号遺構と切り合うが新旧関係は不明である。平面形態は隅丸長方形の土坑である。規模は長軸1.41m、短軸0.98m、深度は0.15mを測る。底面は平坦で南東に傾斜し、壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺物 土器の細片や混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。



13号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～30mm、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第21図 13号遺構

14号遺構 (第22図、写真図版3)

遺 構 13K08グリッド、9号遺構の南側に位置する。平面形態は不整楕円形の土坑である。規模は長軸1.12m、短軸0.57m、深度は0.51mを測る。底面は平坦で南に傾斜し、壁面は検出面付近で段差を有する。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。

15号遺構 (第22図、写真図版4)

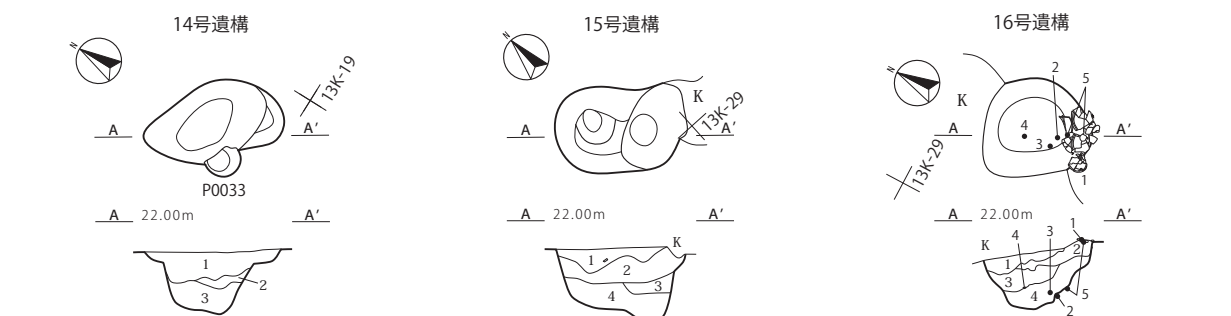
遺 構 13K18・19・28グリッド、8号遺構の西側に位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.05m、短軸0.68m、深度は0.58mを測る。底面に小穴状の窪みを2ヶ所持ち壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。

16号遺構 (第22・23図、写真図版4)

遺 構 13K29グリッド、8号遺構の西側に位置する。平面形態は不整円形の土坑である。規模は長軸0.86m、短軸0.77m、深度は0.54mを測る。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土の堆積からは南側からの流入が推測される。遺構検出時から甗(5)や坏(1)が露出しており、また遺構底面からも坏(2)が出土している。このような遺物の出土状況や、周囲に竪穴建物が検出されていることから削平により消失した竪穴建物の貯蔵穴、あるいは柱穴であったとも考えられる。時期は出土遺物から6世紀中葉から後半の遺構と思われる。

遺 物 1～4は坏、5は甗、いずれも土器器である。このほかに土器片が出土している。



14号遺構

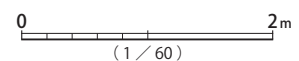
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～20mm、白色粘土ブロックφ2mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～40mm多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～30mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

15号遺構

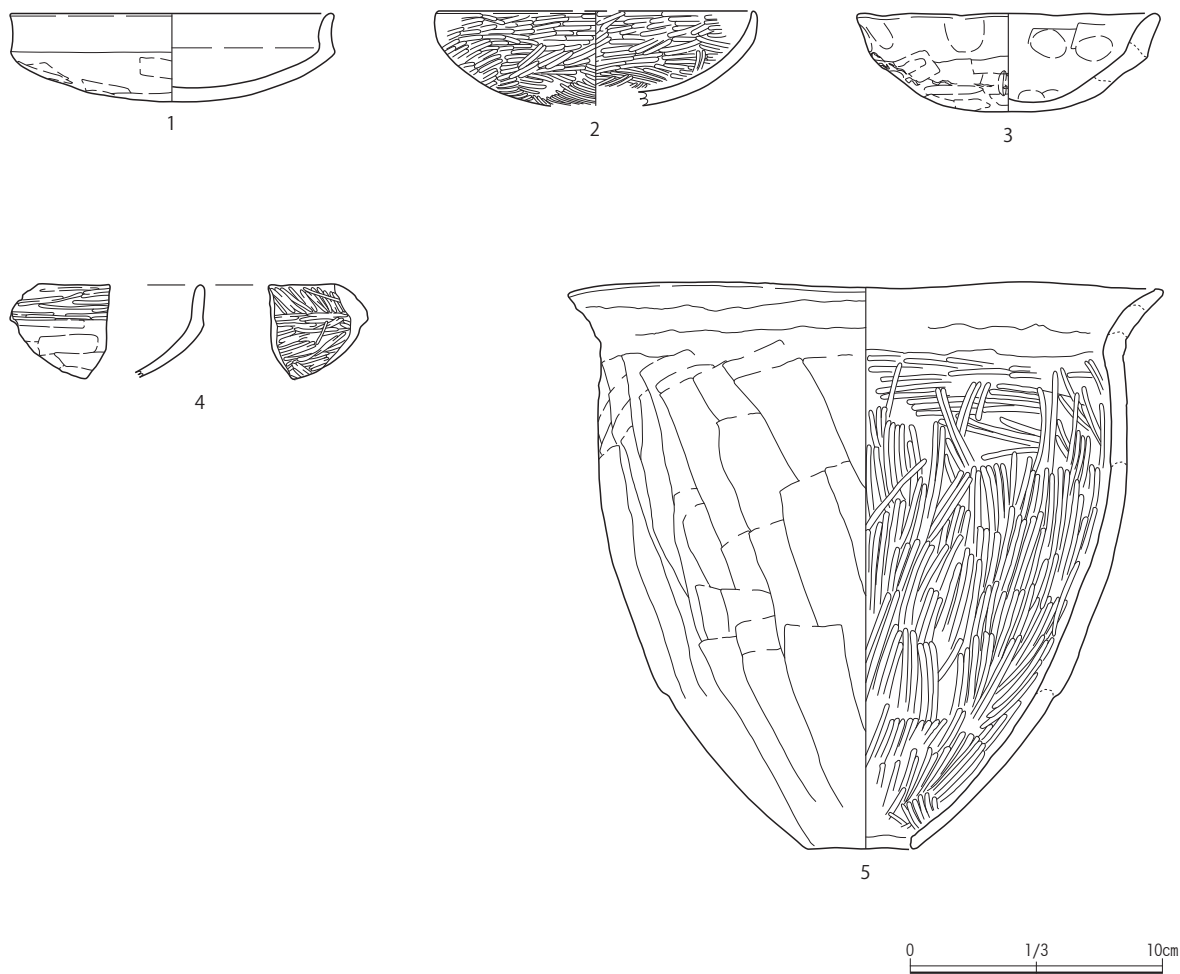
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。白色粘土粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 焼土少量含む。ロームブロックφ10～20mm、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5～40mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

16号遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ2～3mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～25mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～10mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～20mm、白色粘土ブロックφ4～15mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



第22図 14～16号遺構



第23図 16号遺構出土遺物

16号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 杯	検出面	口径：12.8 器高：3.5 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ。指頭 圧痕 内面：口縁部横位ナデ。体部ナデ	焼成：良好 色調：にぶい橙 残存度：3/4	
2	土師器 杯	下層	口径：(12.5) 器高：(3.8) 底径：-	外面：ミガキ 内面：ミガキ	焼成：普通 色調：黒褐 残存度：1/3	
3	土師器 杯	下層	口径：11.7 器高：3.9 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。指頭圧痕。体部ヘラケ ズリ。指頭圧痕 内面：ヘラナデのちナデ。指頭圧痕	焼成：良好 色調：浅黄橙 残存度：2/3	
4	土師器 杯	下層	口径：- 器高：(3.7) 底径：-	外面：口縁部ミガキ。体部ヘラケズリ 内面：ミガキ	焼成：良好 色調：にぶい赤褐 残存度：1/4以下	
5	土師器 甑	検出面 下層	口径：23.2 器高：22.5 底径：4.2	外面：口縁部横位ナデ。胴部ヘラケズリ 内面：口縁部横位ナデ。胴部ミガキ	焼成：普通 色調：橙 残存度：2/3	

17号遺構（第25図、写真図版4）

遺 構 13K06・07グリッド、9号遺構の南西側に位置する。平面形態は不整形の土坑である。規模は長軸0.72m、短軸0.57m、深度は0.66mを測る。底面は平坦で南壁が階段状に立ち上がる。覆土の状況からは柱穴とも考えられるが、組み合う柱穴は確認されなかった。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片のほかに混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。

18号遺構（第25図、写真図版4）

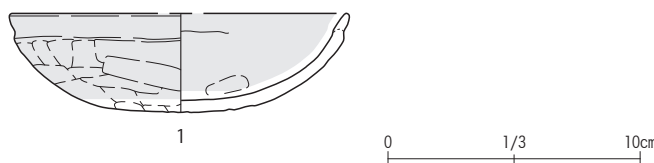
遺 構 13J29・39グリッド、12号遺構の北側に位置する。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸1.68m、短軸0.71m、深度は0.76mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺物 出土していない。

19号遺構（第24・25図、写真図版4）

遺 構 13J77・78グリッドに位置し、北側で12号遺構を切る。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸0.81m、短軸0.70m、深度は0.90mを測る。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土は単一で人為的に埋め戻されたと思われる。出土遺物や12号遺構との切り合いから7世紀後半の遺構と思われる。

遺 物 1は覆土上層から出土した坏である。このほかに土器片が出土している。



第24図 19号遺構出土遺物

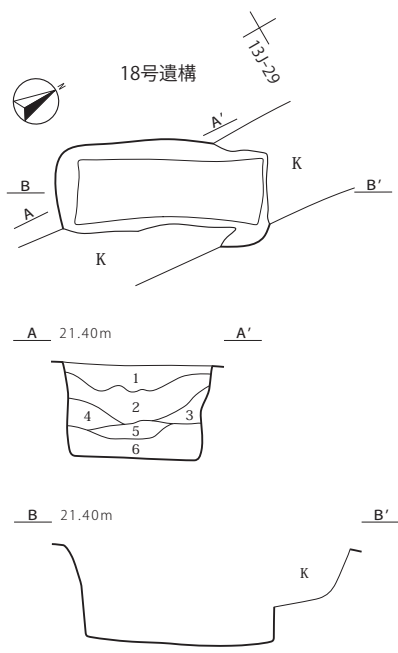
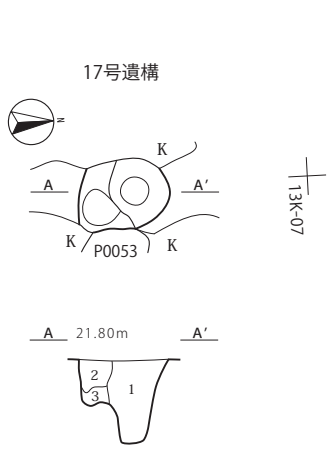
19号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	上層	口 径：(13.2) 器 高： 3.9 底 径： -	外面：口縁部横位ナデ。体底部ヘラケズリ。赤 彩 内面：ナデ。指頭圧痕。赤彩	焼 成：良好 色 調：にぶい橙 残存度：1/2	

20号遺構（第25図）

遺 構 14J06グリッド、9号遺構の南側に位置し、南側は調査区外へ伸びる。平面形態は長楕円形と推測される。規模は長軸1.13m（残存値）、短軸1.03m、深度は0.56mを測る。底面は起伏があり西壁はほぼ垂直に、東壁はやや緩やかに立ち上がる。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

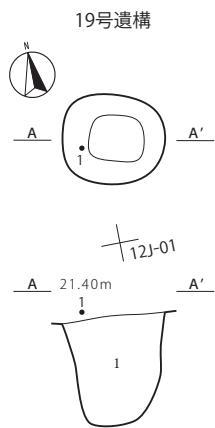


17号遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～30mm少量含む。白色粘土ブロックφ3～5mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～5mm、ローム粒子少量含む。白色粘土粒子微量含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～10mm多量含む。ローム粒子中量含む。白色粘土ブロックφ3～30mm微量含む。粘性ややあり。しまりあり。

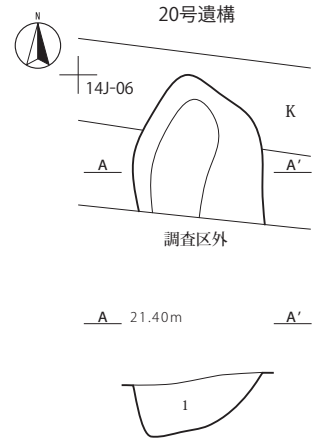
18号遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 褐色土(10YR4/4) ローム粒子中量含む。白色粘土粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ10～30mm、ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 5 黒色土(10YR2/1) 白色粘土粒子、ローム粒子少量含む。ロームブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粘土粒子、ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ10～20mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。



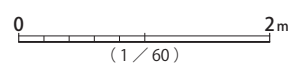
19号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ5～50mm、ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



20号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



第25図 17～20号遺構

21号遺構 (第26図、写真図版4)

遺 構 13J00・10・11グリッドに位置し、直上の中世土坑77号遺構に切られる。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.37m、短軸1.29m、深度は0.52mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

22号遺構 (第26図)

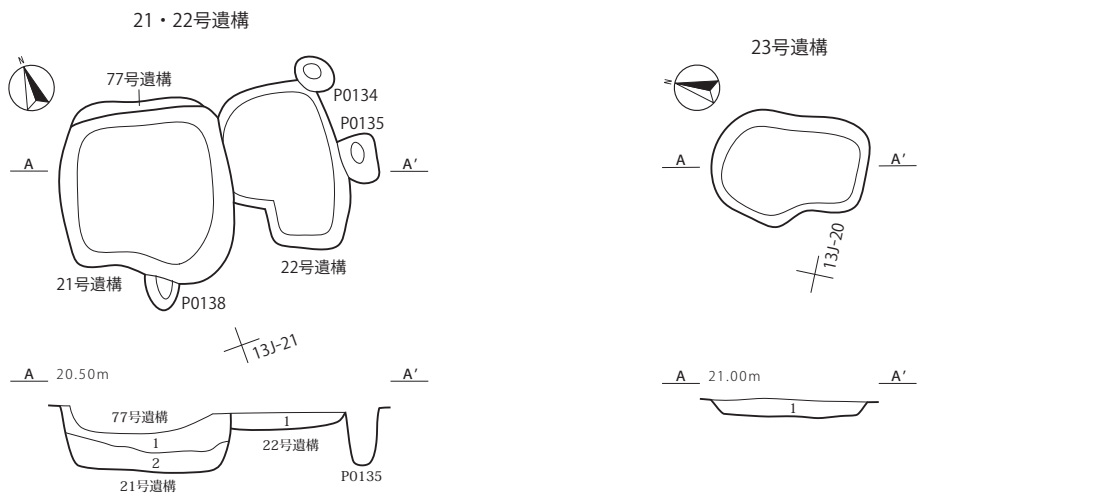
遺 構 13J11グリッドに位置する。西側で21号遺構に切られる。平面形態は南側がL字状に屈曲する不定形の土坑である。規模は長軸1.36m、短軸1.06m、深度は0.18mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

23号遺構 (第26図、写真図版4)

遺 構 13J10・20グリッド、21～23号遺構の西側に位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.22m、短軸0.89m、深度は0.13mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。



21号遺構

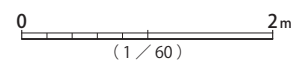
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 白色粘土ブロックφ10～20mm、黒色シルトブロックφ10～30mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。細粒砂層。
- 2 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ30～50mm、白色粘土ブロックφ10～50mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。細粒砂層。

22号遺構

- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量含む。黒褐色シルト粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。

23号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ5mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



第26図 21～23号遺構

溝状遺構

24号遺構 (第27図)

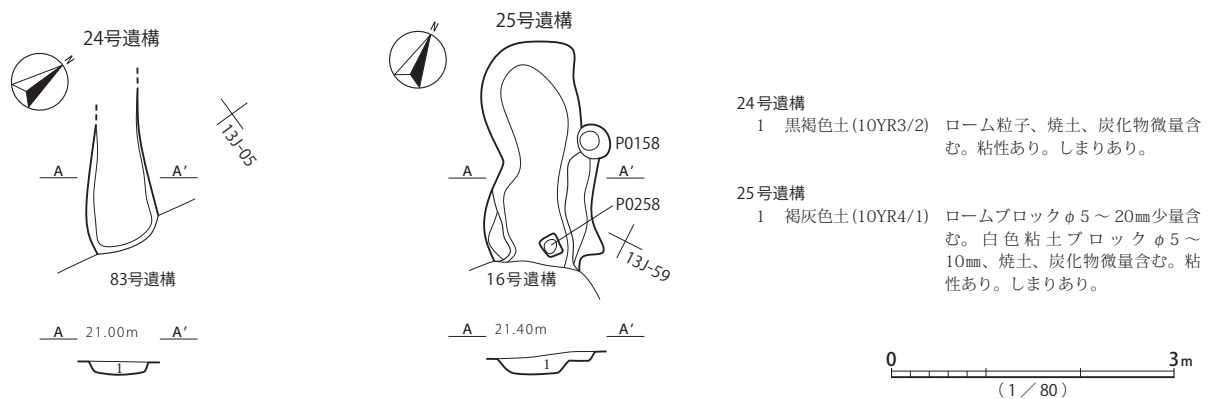
遺 構 13J05・06・16グリッドに位置する。東側は中世の溝状遺構83号に切られ、また西側は削平されており両端が消失している。規模は全長1.49m (残存値)、幅0.75m、深度0.18mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 混入と思われる鋳造関連遺物が出土している。

25号遺構 (第27図、写真図版4)

遺 構 13J47・48・58グリッドに位置する。16号遺構に切られており南端は消失している。規模は全長2.34m (残存値)、幅1.21m、深度は0.30mを測る。底面は平坦で東壁は階段状に、西壁は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から古墳時代の遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。



第27図 24・25号遺構

ピット出土遺物 (第28図、写真図版11)

本遺跡では時期不明のピットが多数検出されたため、計測表で報告している(第1表)。このうち0313号ピットからは土師器の坏(1)が出土している。底面からの出土で混入とは考えにくいことから本項で報告する。



第28図 0313号ピット出土遺物

0313号ピット出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値(cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	下層	口径：12.4 器高：4.1 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部ヘラケズリ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：浅黄橙 残存度：2/3	

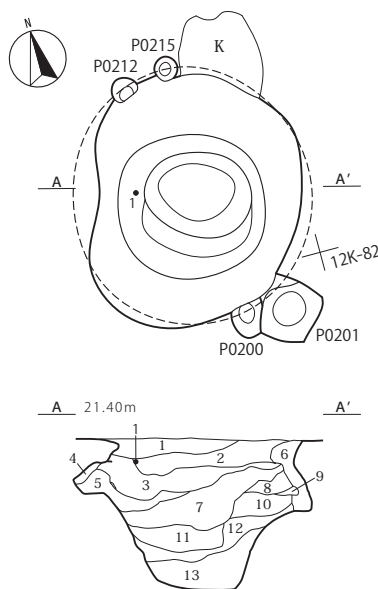
3 中世の遺構と遺物

井戸状遺構

26号遺構（第29図、写真図版5）

遺 構 12K61・70～72・80・81グリッドに位置する。平面形態は楕円形の井戸状遺構である。規模は長軸2.70m、短軸2.10m、深度は1.62mを測る。検出面のやや下位で壁面が崩落し、オーバーハングしている。このことから現況は掘削当初の形態ではないと推測される。井戸枠等の痕跡は認められなかった。底面は常総粘土層より下位の砂質シルト層に到達し、わずかながら湧水が確認された。遺構の時期を示す遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

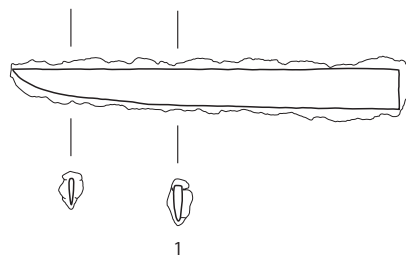
遺 物 1の鉄製品は覆土上層から出土した刀子である。茎は折損し刀身のみ残存する。このほかに土器の細片、鑄造関連遺物が出土している。



26号遺構

- | | |
|---------------------|--|
| 1 黒褐色土(10YR3/2) | オリブ黄色粘質シルトブロックφ10～60mm少量含む。ロームブロックφ10～20mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 2 にぶい赤褐色土(2.5YR5/3) | 黒褐色シルト粒土中量含む。ロームブロックφ10～40mm、白色粘土ブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。細粒砂層。 |
| 3 黒褐色土(10YR3/1) | オリブ黄粘質シルトブロックφ20～60mm、ローム粒子微量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 4 黒褐色土(10YR3/1) | ローム粒子中量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 5 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 白色粘土ブロックφ10～70mm、黒褐色シルト粒土中量含む。粘性あり。しまりやや強い。細粒砂層。 |
| 6 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 白色粘土ブロックφ20～70mm、黒褐色シルト粒土少量含む。ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。細粒砂層。 |
| 7 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 灰黄色細粒砂、ラミナ状に黒褐色シルト粒土微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。細粒砂層。 |
| 8 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 白色粘土ブロックφ10～80mm中量含む。粘性あり。しまりやや強い。細粒砂層。 |
| 9 褐灰色土(10YR4/1) | 焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。 |
| 10 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 白色粘土ブロックφ10～30mm、褐灰色シルト粒土少量含む。粘性やや弱い。しまり強い。細粒砂層。 |
| 11 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 白色粘土ブロックφ10～20mm、褐灰色シルト粒土微量含む。粘性あり。しまり強い。粘質土層。 |
| 12 灰褐色土(7.5YR6/2) | にぶい黄色細粒砂少量含む。白色粘土ブロックφ10～50mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。粘質細粒砂層。 |
| 13 にぶい黄色土(2.5Y6/3) | 灰白粘土ブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。粘質細粒砂層。 |

0 3m
(1/80)



0 1/3 10cm

第29図 26号遺構および26号遺構出土遺物

26号遺構出土鉄製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			成形・調整	重量 (g)	備考
1	鉄製品 刀子	上層	長さ：(15.9)	幅：2.6	厚さ：1.0	茎折損	49.2	

27号遺構 (第30図)

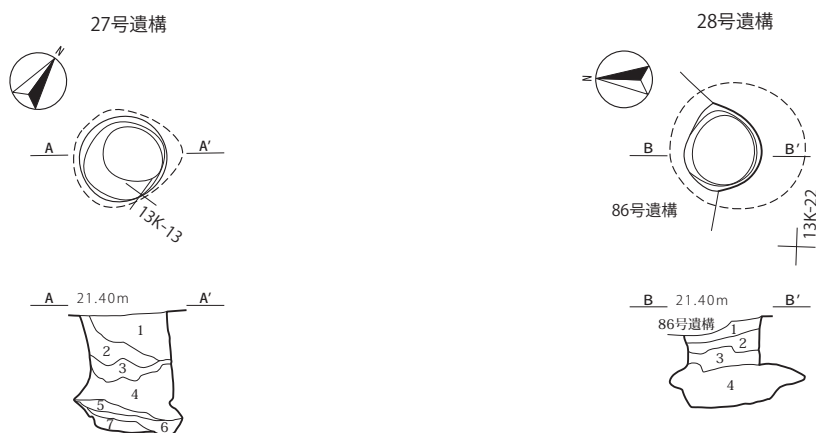
遺構 13K02・03・12グリッドに位置する。86号遺構と切り合い、その底面で検出されたが新旧関係は不明である。平面形態は円形の井戸状遺構である。規模は長軸0.90m、短軸0.82m、深度は1.32mを測る。常総粘土層より下位の砂質シルト層において壁面が崩落し、ややオーバーハングしている。井戸枠等の痕跡、底面からの湧水は確認されなかった。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 土器の細片、鑄造関連遺物が出土している。

28号遺構 (第30図)

遺構 13K12グリッドに位置し、86号遺構に切られる。平面形態は円形の井戸状遺構である。規模は長軸0.93m、短軸0.82m、深度は0.96mを測る。常総粘土層より下位の砂質シルト層において壁面が崩落し、大きくオーバーハングしている。井戸枠等の痕跡、底面からの湧水は確認されなかった。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 土器の細片が出土している。

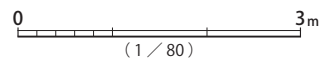


27号遺構

- | | | |
|---|----------------|--|
| 1 | 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ40mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 2 | 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ20～40mm、白色粘土ブロックφ10～20mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 3 | 灰黄褐色土(10YR5/2) | 黒褐色シルト粒土少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 4 | 黒褐色土(10YR3/2) | ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 5 | 黒褐色土(10YR3/2) | 白色粘土ブロックφ20～40mm、ローム粒子微量含む。粘性やや強い。しまりあり。 |
| 6 | 黒色土(10YR2/1) | ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 7 | 黄褐色土(10YR5/6) | 黒色シルト粒土少量含む。ローム粒子微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。砂質シルト層。 |

28号遺構

- | | | |
|---|------------------|------------------------------------|
| 1 | オリーブ黄色土(5Y6/4) | 白色粘土ブロックφ10～30mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 2 | 黄褐色土(2.5Y5/3) | 白色粘土ブロックφ5～20mm微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。 |
| 3 | 灰白色土(7.5Y7/2) | 白色粘土ブロックφ10～40mm少量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 4 | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ5～30mm少量含む。粘性あり。しまりあり。 |

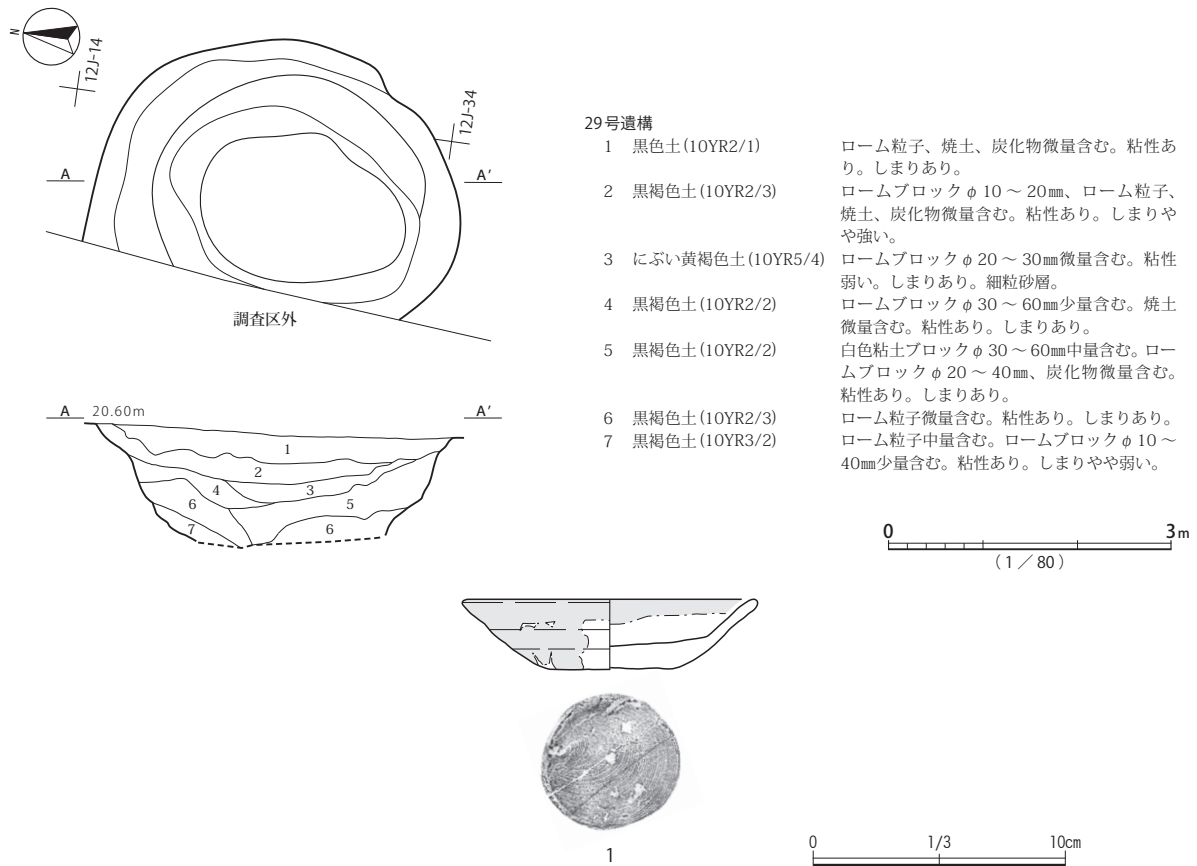


第30図 27・28号遺構

29号遺構 (第31図、写真図版5)

遺 構 12J13・14・23・24・33グリッドに位置し西側の一部は調査区外へ伸びる。平面形態は楕円形の井戸状遺構である。規模は長軸3.93m、短軸2.67m (残存値)、深度は1.57m以上を測る。常総粘土層より下位の砂質シルト層まで掘り込まれ、湧水が著しく完掘できなかったため詳細は不明である。井戸枠等の痕跡は確認されなかった。遺構の時期は、覆土中から古瀬戸後期様式Ⅲ期の緑釉小皿(1)が出土していることから、15世紀前葉には廃絶していた遺構と思われる。

遺 物 陶器、石製品(砥石)、鑄造関連遺物、混入と思われる土器の細片が出土している。陶器は瀬戸・美濃系陶器2点(緑釉小皿《後Ⅲ》2点)、常滑産陶器18点(片口鉢《Ⅱ類》1点、甕17点)、渥美産陶器1点(甕1点)である。1は古瀬戸後期様式Ⅲ期の緑釉小皿である。内面は平滑でよく使い込まれ、裏底は回転糸切痕を残す。



第31図 29号遺構および29号遺構出土遺物

29号遺構出土陶器観察表

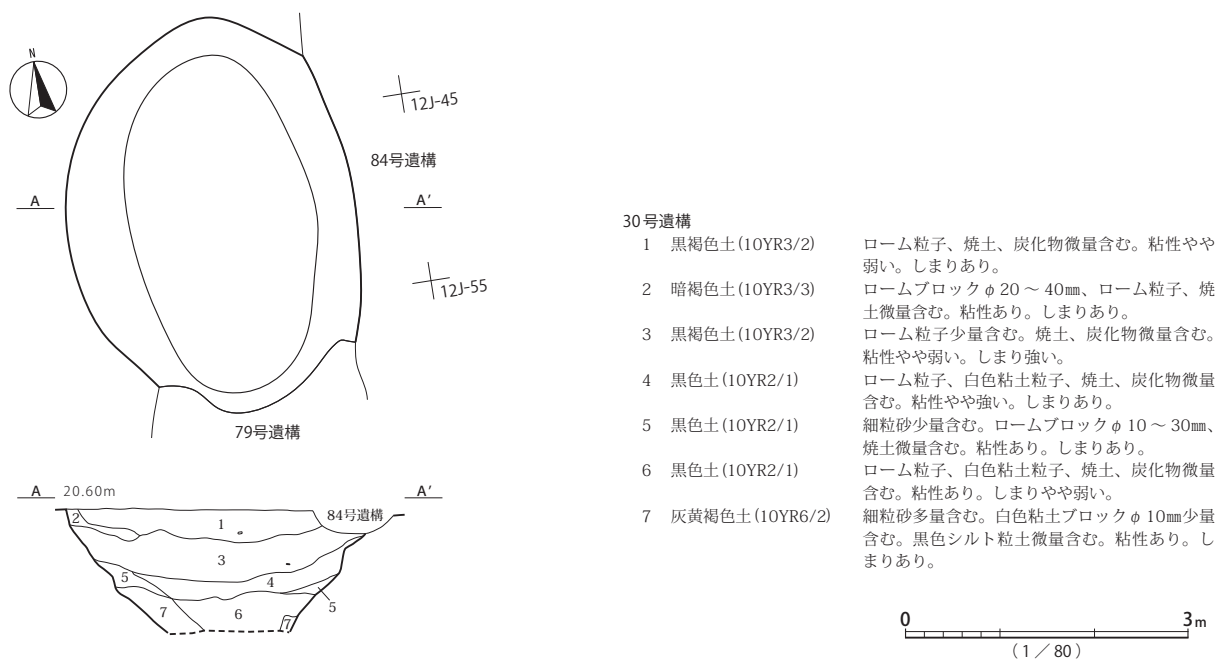
番号	種別	出土位置	計測値(cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	瀬戸・美濃系陶器 緑釉小皿	下層	口径：11.4 器高：2.8 底径：4.9	外面：灰釉。底部回転糸切痕 内面：灰釉。	焼成：良好 色調：灰白 残存度：2/3	古瀬戸後Ⅲ期。内面平滑で使い込まれている

30号遺構 (第32～34図、写真図版5・13)

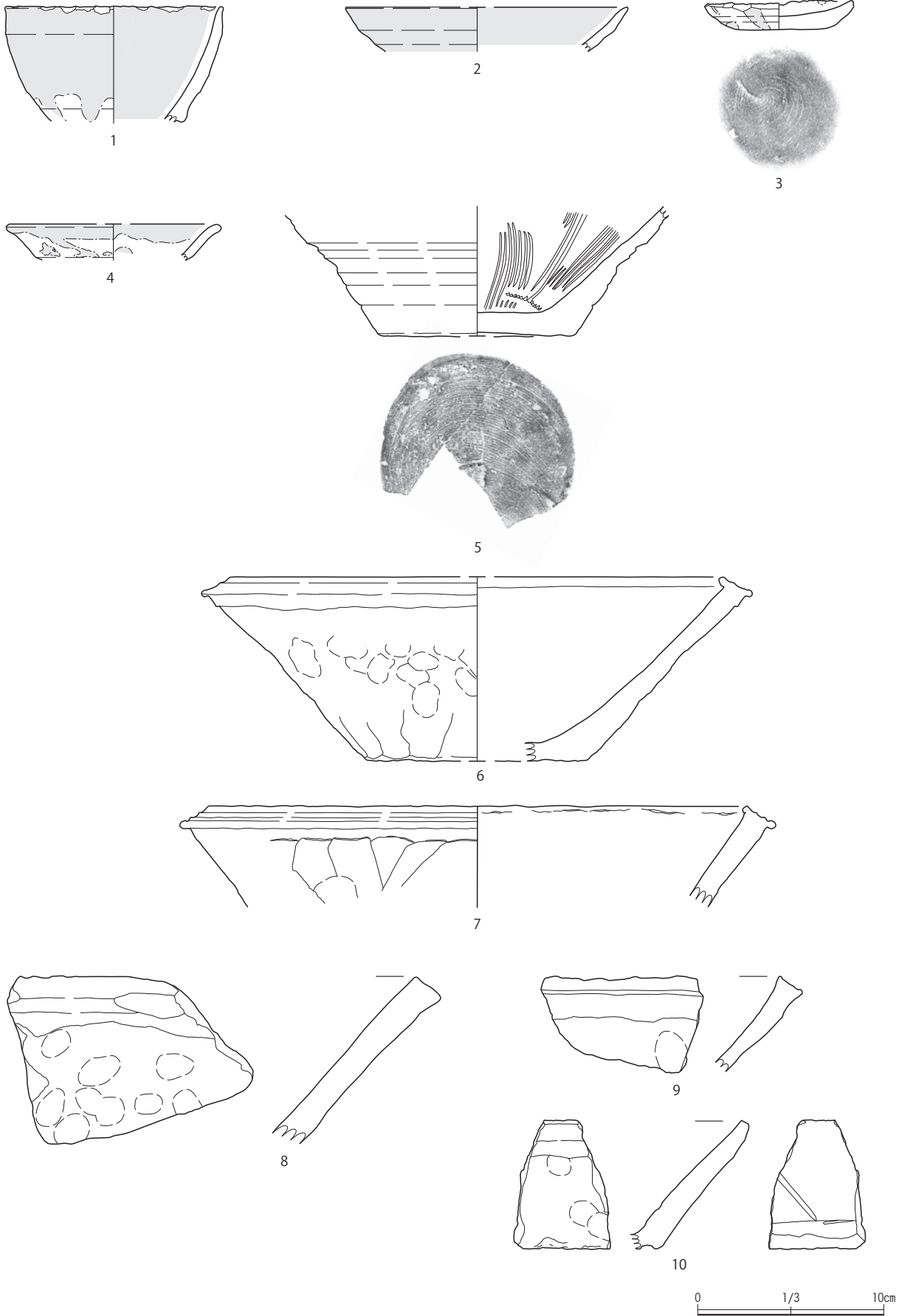
遺 構 12J33・34・43・44・53・54グリッド、29号遺構の南に位置する。東側で84号遺構に切られ、南側で79号遺構と切り合うが新旧関係は不明である。平面形態は楕円形の井戸状遺構である。規模は長軸4.18m、短軸3.07m、深度は1.31m以上を測る。常総粘土層より下位の砂質シルト層まで掘り込まれ、湧水が著しく完掘できなかったため詳細は不明である。井戸枠等の痕跡は確認されなかった。遺構の時期は、10型式の常滑産片口鉢の出土から、15世紀後葉には廃絶した遺構と思われる。

遺 物 陶磁器、鑄造関連遺物、混入と思われる土器の細片が出土している。陶磁器は白磁1点(碗1点)、猿投産陶器1点(甕1点)、瀬戸・美濃系陶器5点(天目茶碗《中IV》1点・灰釉平碗2点《後II 1・後II～III 1》・縁釉小皿2点《後II 1・後III 1》)、常滑産陶器56点(片口鉢19点《I類3型式1・I類6a型式1・II類5型式1・II類6a型式1・II類8型式1・II類9型式3・II類10型式5・不明13》)、備前産陶器1(播鉢《III期》1点)、産地不明瓦質土器1点(火鉢1点)である。

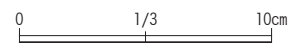
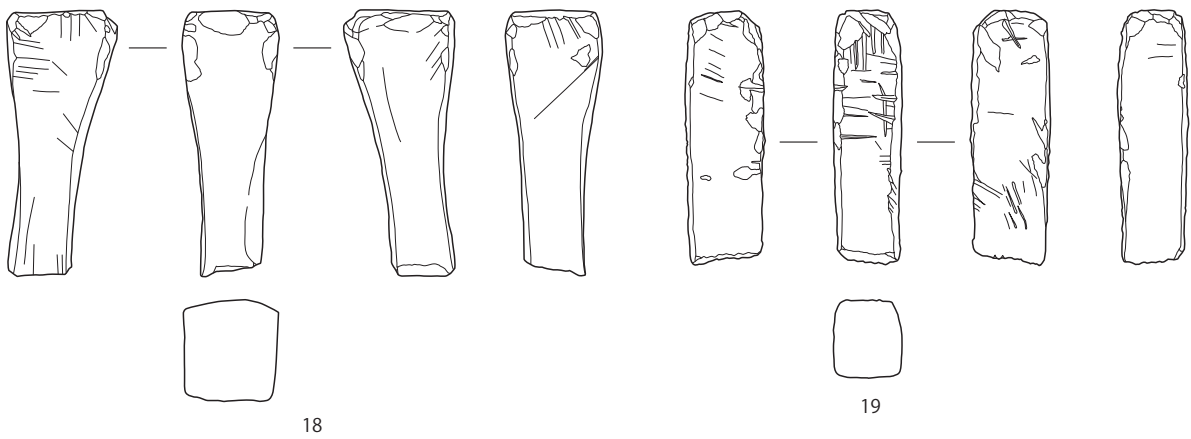
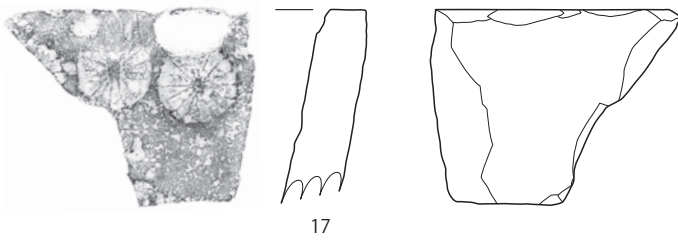
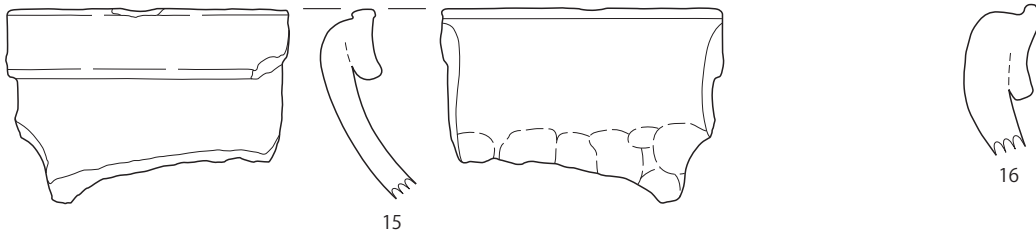
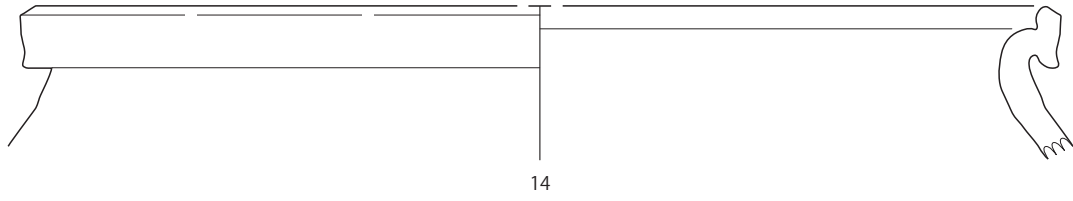
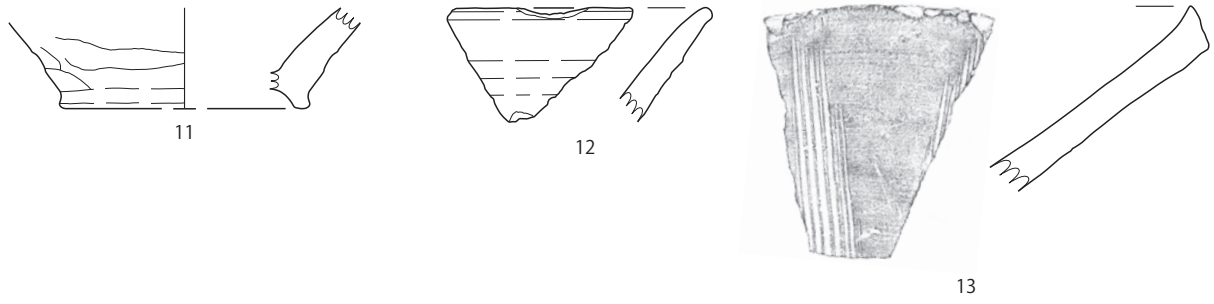
1は古瀬戸中期様式IV期の天目茶碗である。鉄釉が施釉され、腰部で雫状を呈する。口縁部は人為的に打ち欠いている。2は灰釉平碗、古瀬戸後期様式II期である。3は古瀬戸後期様式II期の縁釉小皿である。内外面ともによく使い込まれており、裏底の糸切痕も摩滅している。5は古瀬戸後期様式IV期古段階の播鉢。よく使い込まれ、見込みの櫛目や、裏底の外周が摩滅している。6～12は常滑産の片口鉢である。このうち6～10はII類、11・12はI類に分類される。6～8は10型式である。8は内面が平滑でよく使い込まれている。10・11は6a型式である。12は3型式。内面が平滑でよく使い込まれている。13は備前産、III期の播鉢である。14～16は常滑産の甕、14は6a型式、15は6b型式、16は9型式である。17は産地不明の瓦質土器火鉢で外面に菊花文が押印される。口縁部は人為的に打ち欠いている。全面が著しく被熱し、赤化している。18・19はともに凝灰岩製の砥石、仕上げ砥である。



第32図 30号遺構



第33图 30号遺構出土遺物(1)



第34图 30号遺構出土遺物(2)

30号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	瀬戸・美濃系陶器 天目茶碗	覆土一括	口径：(11.6) 器高：(6.3) 底径：-	外面：鉄釉。体部下位回転ヘラケズリ 内面：鉄釉	焼成：良好 色調：黒 残存度：1/4以下	古瀬戸中IV期
2	瀬戸・美濃系陶器 灰釉平碗	覆土一括	口径：(15.0) 器高：(2.4) 底径：-	外面：灰釉。ロクロナデ 内面：灰釉。ロクロナデ	焼成：良好 色調：褐灰 残存度：1/4以下	古瀬戸後II期
3	瀬戸・美濃系陶器 緑釉小皿	覆土一括	口径：- 器高：(1.6) 底径：4.0	外面：灰釉。口縁部敲打痕。底部回転糸切痕 内面：口縁部敲打痕	焼成：普通 色調：灰白 残存度：1/3	内・外面ともに平滑で使い込まれる。古瀬戸後II期
4	瀬戸・美濃系陶器 緑釉小皿	覆土一括	口径：(11.0) 器高：(1.9) 底径：-	外面：灰釉。ロクロナデ 内面：灰釉。ロクロナデ	焼成：不良 色調：灰白 残存度：1/4以下	古瀬戸後III期
5	瀬戸・美濃系陶器 播鉢	覆土一括	口径：- 器高：(7.0) 底径：10.6	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ。櫛目。底部回転糸切痕	焼成：良好 色調：明褐 残存度：1/3	古瀬戸後IV期(古)。内面平滑で使い込まれる
6	常滑 片口鉢 II類	覆土一括	口径：(26.4) 器高：9.9 底径：(11.8)	外面：口縁部横位ナデ。胴部上位指頭圧痕。下位ヘラケズリ 内面：	焼成：良好 色調：橙 残存度：1/3	10型式。内面平滑で使い込まれる
7	常滑 片口鉢 II類	覆土一括	口径：29.0 器高：(5.5) 底径：-	外面：口縁部横ナデ。体部縦位ヘラケズリ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：1/4以下	10型式
8	常滑 片口鉢 II類	覆土一括	口径：- 器高：(9.0) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部指頭圧痕 内面：	焼成：良好 色調：褐 残存度：破片	10型式。内面平滑で使い込まれる
9	常滑 片口鉢 II類	覆土一括	口径：- 器高：(5.1) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。体部指頭圧痕 内面：ナデ	焼成：良好 色調：黒褐 残存度：破片	9型式
10	常滑 片口鉢 II類	覆土一括	口径：- 器高：(6.9) 底径：-	外面：口縁部ヘラケズリ。体部指頭圧痕。体部下位横位ナデ 内面：口縁部横位ナデ	焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：1/4以下	6a型式
11	常滑 片口鉢 I類	覆土一括	口径：- 器高：(4.0) 底径：(9.6)	外面：横位ナデ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：灰白 残存度：1/4以下	6a型式。内面平滑で使い込まれる
12	常滑 片口鉢 I類	覆土一括	口径：- 器高：(4.5) 底径：-	外面：横位ナデ 内面：横位ナデ。自然釉	焼成：良好 色調：灰白 残存度：破片	3型式
13	備前 播鉢	覆土一括	口径：- 器高：(7.3) 底径：-	外面：横位ナデ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：灰褐 残存度：破片	III期。櫛目平滑で使い込まれている
14	常滑 甕	覆土一括	口径：(40.0) 器高：(6.1) 底径：-	外面：横位ナデ。自然釉 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：褐灰 残存度：1/4以下	割れ口漆継。6a型式
15	常滑 甕	覆土一括	口径：- 器高：(7.5) 底径：-	外面：横位ナデ。自然釉 内面：横位ナデ。指頭圧痕。自然釉。	焼成：良好 色調：にぶい赤褐 残存度：破片	6b型式
16	常滑 甕	覆土一括	口径：- 器高：(6.0) 底径：-	外面：横位ナデ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：褐灰 残存度：破片	9型式
17	瓦質土器 火鉢	覆土一括	口径：- 器高：(7.7) 底径：-	外面：押印(菊花文) 内面：口縁部敲打痕	焼成：良好 色調：灰白 残存度：1/4以下	産地不明。二次焼成

30号遺構出土石製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
18	石製品 砥石	覆土一括	長さ：(10.5)	幅：(3.8)	厚さ：(4.0)	202.8	
19	石製品 砥石	覆土一括	長さ：(10.0)	幅：2.7	厚さ：3.1	158.3	

火葬遺構

31号遺構 (第35図、写真図版5)

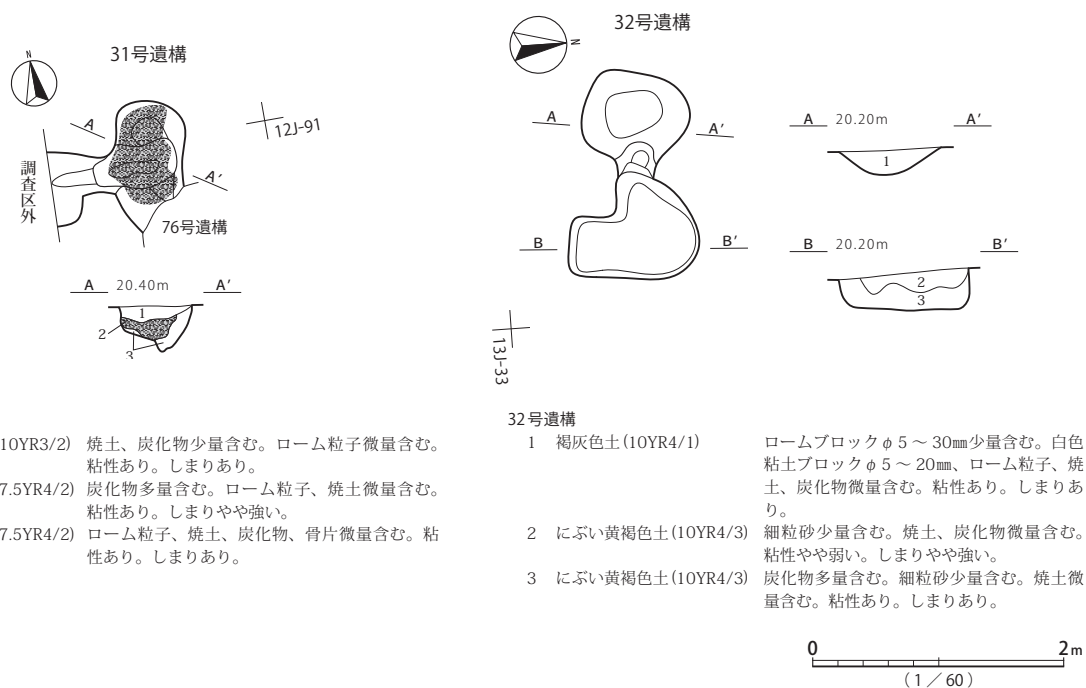
遺 構 12J80・90グリッドに位置し、西側は調査区外へ伸びる。南側で76号遺構に切られる。平面形態はT字状であり、土坑の底面から溝状の掘り込みが西へ伸びる。土坑部の規模は長軸1.03m (残存値)、短軸0.53m、深度は0.32mを測る。溝状の掘り込みは全長1.01m (残存値)、幅0.27～0.58m、深度は0.45mを測る。溝状の掘り込みが土坑部よりも深く掘り込まれている。土坑部の覆土中に人骨と思われる骨片、焼土、炭化物を含むが、溝状の掘り込みには認められなかった。遺構の壁面や底面に明確な被熱箇所は認められず、覆土中の焼土量もまばらであったが、骨片の出土と遺構の形態から火葬遺構と判断した。時期を示す遺物の出土がないため特定はできないが、覆土の特徴から中世と考えられる。

遺 物 骨片40gのほかに炭化物が出土している。

32号遺構 (第35図、写真図版5)

遺 構 13J22グリッドに位置し、79号遺構の底面で検出された。東側で76号遺構を切る。平面形態は不定形であり、2基の土坑を溝状の掘り込みが結ぶ。規模は東側土坑部が長軸1.04m、短軸0.92m、深度は0.32m。西側土坑部が長軸0.84m、短軸0.70m、深度は0.27m。溝状の掘り込みは幅0.29m、深度は0.25mを測る。東側土坑部の覆土下層において人骨と思われる少量の骨片と、多量の炭化物を含むが、西側土坑部や溝状の掘り込みでは骨片を含まず、炭化物も微量であった。遺構の壁面や底面に被熱箇所は認められず、覆土中の焼土量もまばらであったが、骨片の出土と遺構の形態から火葬遺構と判断した。時期を示す遺物の出土がないため特定はできないが、覆土の特徴から中世と考えられる。

遺 物 骨片40g、炭化物のほかに鑄造関連遺物が出土している。



第35図 31・32号遺構

方形竪穴遺構

33号遺構 (第36図、写真図版5)

遺 構 12K46・47グリッドに位置し、北側は調査区外へ伸びる。平面形態は隅丸方形と推測される。規模は長軸1.29m、短軸0.45m (残存値)、深度は0.57mを測る。調査範囲が狭いため遺構の性格は推測であるが、平面および断面形態や規模から方形竪穴遺構と判断した。覆土は単一であり、人為的に埋め戻されたと思われる。床面で柱穴は検出されていない。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、遺構の形状や覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。



第36図 33号遺構

34号遺構 (第37図、写真図版6)

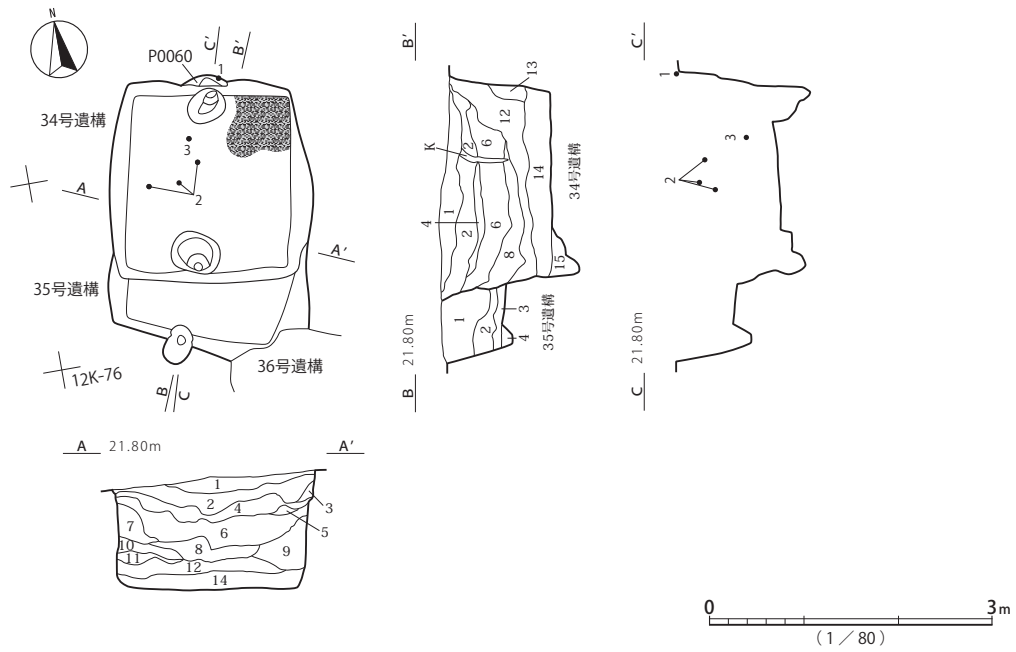
遺 構 12K56・57・66・67・76・77グリッド、33号遺構の南に位置し、南側で35号遺構を切る。平面形態は方形である。規模は長軸2.15m、短軸2.13m、深度は1.25mを測る。南・北壁際の床面に2基の支柱を配する。床面からの深度は南支柱0.32m、北支柱0.40mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、複数回にわたる埋め戻しが推測される。北東隅の覆土下層、床面から約0.2mの高さで炭化物層を検出したが床面や壁面に被熱の痕跡は確認されなかった。覆土上層から古瀬戸後期様式Ⅳ期の緑釉小皿(2)が出土していることから、15世紀中葉には埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 陶器、土器片、石製品(砥石) 鑄造関連遺物が出土している。陶器は瀬戸・美濃系陶器3点(天目茶碗《後Ⅲ》1点・緑釉小皿《後Ⅳ(古)》1点)、常滑産陶器1点(甕1点)である。土器は在地土器(小型皿《後Ⅱ～Ⅳ(古)併行》1点)である。1は古瀬戸後期様式Ⅲ期の天目茶碗である。鉄釉が施釉され、高台は回転ヘラケズリにより内反り高台を削り出している。2は覆土上層から出土した古瀬戸後期様式Ⅳ期の緑釉小皿。灰釉が施釉され、体部には重ね焼きによる溶着痕が残る。3は在地土器の小型皿である。裏底に回転糸切痕を残す。

35号遺構 (第37図、写真図版6)

遺 構 12K66・67・76・77グリッドに位置し、北側で34号遺構に切られる。平面形態は方形と推測される。規模は長軸2.16m、短軸0.72m (残存値)、深度は0.64mを測る。南壁際の床面に深度0.24mの支柱を配する。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、34号遺構との切り合いから15世紀中葉以前には埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

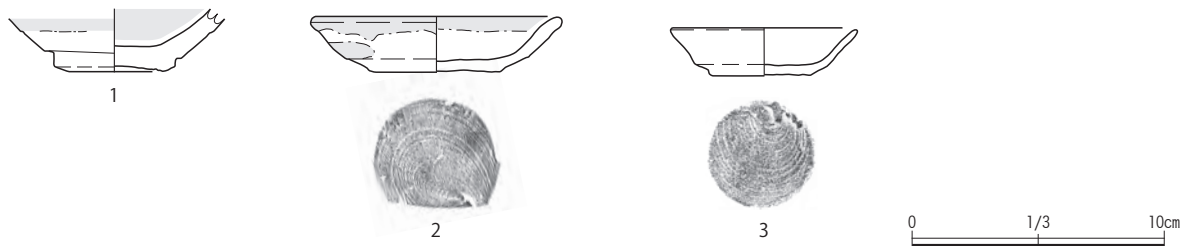


34号遺構

- | | |
|---------------------|--|
| 1 暗褐色土(10YR3/3) | ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 2 暗褐色土(10YR3/3) | ローム粒子、白色粘土粒子少量含む。白色粘土ブロックφ5～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 3 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土ブロックφ3～5mm少量含む。ローム粒子、焼土微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。 |
| 4 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土粒子少量含む。ロームブロックφ3～20mm、白色粘土ブロックφ3～30mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 5 黒褐色土(10YR2/3) | ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 白色粘土粒子中量含む。ロームブロックφ3～10mm少量含む。白色粘土ブロックφ3～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 7 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ3～40mm、白色粘土ブロックφ3～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 8 にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 白色粘土ブロックφ3～50mm、白色粘土粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 9 黒褐色土(10YR2/3) | 白色粘土ブロックφ3～40mm、白色粘土粒子中量含む。ロームブロックφ3～30mm少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 10 褐色土(10YR4/4) | ロームブロックφ20～40mm、白色粘土粒子中量含む。炭化物微量含む。粘性やや強い。しまりあり。 |
| 11 黒褐色土(10YR2/2) | 白色粘土ブロック少量含む。ロームブロックφ3～20mm、ローム粒子、焼土微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。 |
| 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3) | 白色粘土粒子中量含む。ロームブロックφ5～30mm少量含む。焼土微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。 |
| 13 暗褐色土(10YR3/3) | ロームブロックφ5mm、白色粘土ブロックφ20mm、ローム粒子、白色粘土粒子、炭化物微量含む。粘性弱い。しまり強い。 |
| 14 黄褐色土(2.5Y5/3) | 白色粘土粒子多量含む。ロームブロックφ5mm微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。 |
| 15 黄褐色土(2.5Y5/3) | 白色粘土ブロックφ5～10mm、黒褐色シルト粒土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。 |

35号遺構

- | | |
|-----------------|--|
| 1 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ3～30mm、白色粘土ブロックφ3～50mm、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。 |
| 2 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ5～30mm、白色粘土ブロックφ5～60mm微量含む。粘性あり。しまり強い。 |
| 3 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ5～30mm、白色粘土ブロックφ5～60mm微量含む。粘性やや強い。しまり強い。 |
| 4 黒褐色土(10YR3/3) | ロームブロックφ5～20mm、白色粘土ブロックφ20～40mm少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |



第37図 34・35号遺構および34号遺構出土遺物

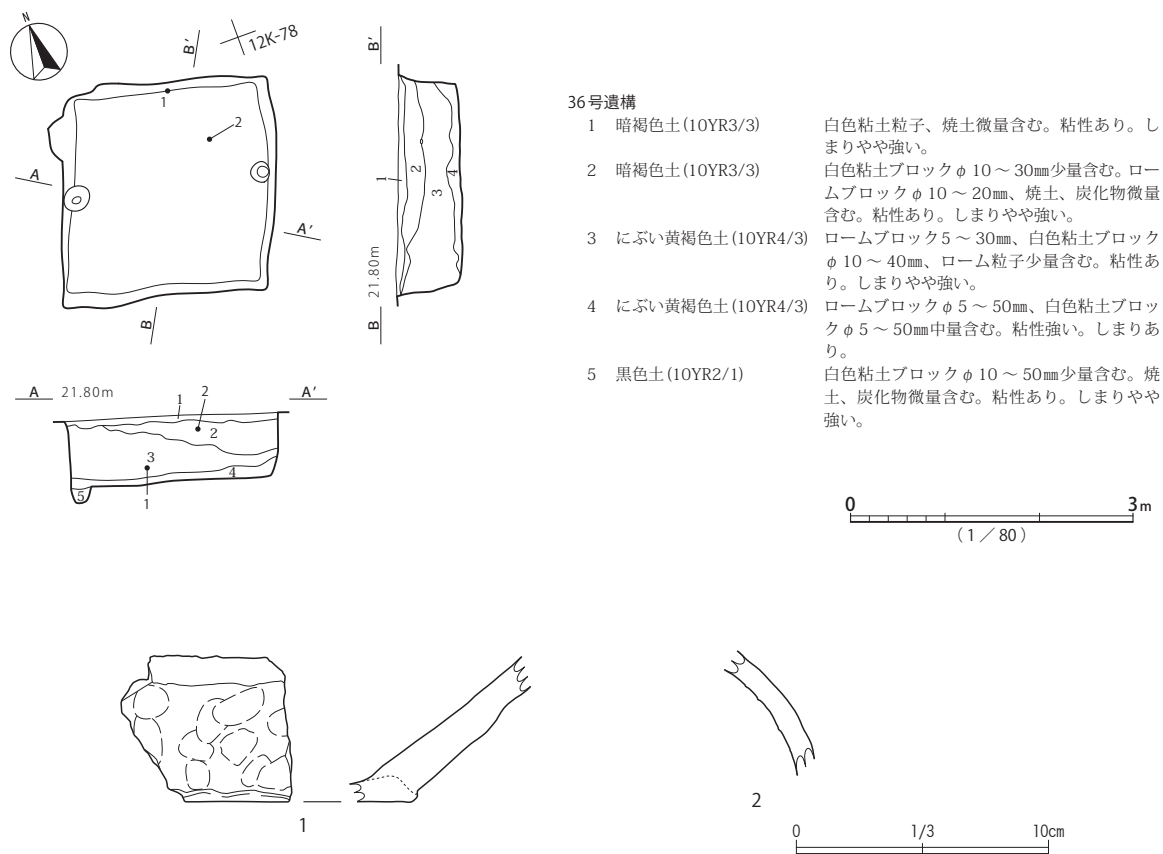
34号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値(cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	瀬戸・美濃系陶器 天目茶碗	上層	口径： - 器高： (2.5) 底径： 3.7	外面：鉄釉。胴部下位、底部回転ヘラケズリ 内面：鉄釉	焼成：良好 色調：灰白 残存度：1/3	Ⅱ類第2形式。古瀬戸後Ⅲ期
2	瀬戸・美濃系陶器 緑釉小皿	上層	口径： 9.6 器高： 2.2 底径： 4.8	外面：灰釉。底部回転糸切痕。溶着痕 内面：灰釉。	焼成：良好 色調：灰白 残存度：1/2	古瀬戸後Ⅳ期(古)。内面平滑で使い込まれる
3	在地土器 小型皿	下層	口径： 7.2 器高： 1.9 底径： 3.9	外面：ロクロナデ。底部回転糸切痕 内面：ロクロナデ	焼成：良好 色調：にぶい黄橙 残存度：2/3	古瀬戸後Ⅱ～Ⅳ期(古)併行

36号遺構 (第38図、写真図版6)

遺 構 12K76・77・78・87グリッドに位置する。北西側で35号遺構に切られ、西側では37号遺構を切る。平面形態は方形である。規模は長軸2.39m、短軸2.25m、深度は0.86mを測る。東・西壁際の床面に2基の支柱を配する。床面からの深度はともに0.17mを測る。竪穴内の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、南西側に厚く堆積することからこの方向からの人為的な埋め戻しを推測させる。出土遺物と35号遺構との切り合いから15世紀中葉以前には埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 陶器、石製品(砥石) 鋳造関連遺物、混入と思われる土器片が出土している。陶器は常滑産陶器2点(片口鉢Ⅱ類1点、甕1点)である。1は下層出土の片口鉢、2は上層出土の甕の小破片である。どちらも常滑産陶器である。



第38図 36号遺構および36号遺構出土遺物

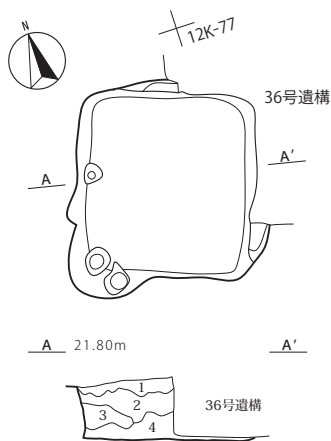
36号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	常滑片口鉢Ⅱ類	下層	口径： - 器高： (5.8) 底径： -	外面：指頭圧痕 内面：	焼成：良好 色調：赤褐 残存度：1/4以下	型式不明。内面平滑で使い込まれる
2	常滑甕	上層	口径： - 器高： (5.0) 底径： -	外面：灰釉。 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：褐灰 残存度：破片	型式不明

37号遺構 (第39図、写真図版6)

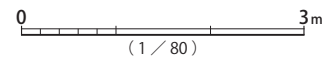
遺 構 12K76・77・86・87グリッドに位置し、北東側で36号遺構に切られる。平面形態は方形である。規模は長軸2.13m、短軸2.08m、深度は0.76mを測る。西壁際の床面に深度0.17mの柱穴1基、南西コーナー部に深度0.17mの柱穴1基、その南に深度0.12mの柱穴1基を検出した。周囲の方形竪穴遺構の支柱の配置から推測すると、西壁際の柱穴が支柱と考えられる。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。36号遺構との切り合いから15世紀中葉以前には埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



37号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
- 2 浅黄色土(2.5Y7/4) 白色粘土ブロックφ5～150mm多量含む。ロームブロックφ3～15mm少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 白色粘土ブロックφ5～100mm中量含む。ロームブロックφ3～10mm少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックφ5～400mm中量含む。白色粘土ブロックφ5～10mm少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

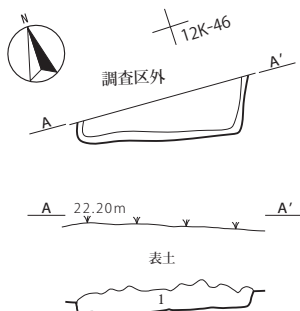


第39図 37号遺構

38号遺構 (第40図、写真図版6)

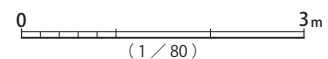
遺 構 12K45・46グリッドに位置し、北側は調査区外へ伸びる。西側で40号遺構を切る。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.27m、短軸0.55m(残存値)、深度は0.22mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



38号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ5～20mm、白色粘土ブロックφ5～10mm、ローム粒子、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

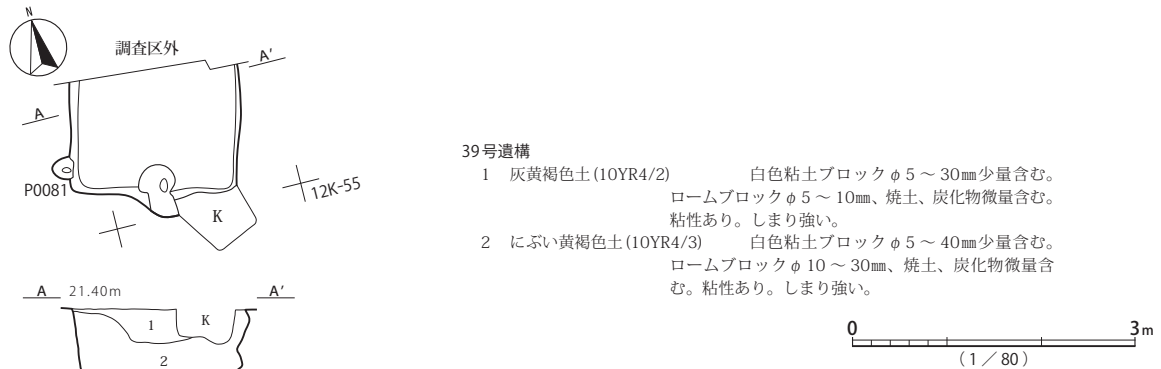


第40図 38号遺構

39号遺構 (第41図、写真図版7)

遺 構 12K43・44グリッドに位置し、北側は調査区外へ伸びる。東側で40号遺構を切る。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.77m、短軸1.58m(残存値)、深度は0.73mを測る。南壁際の床面に支柱を配する。支柱の深度は0.20mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土が少なく時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

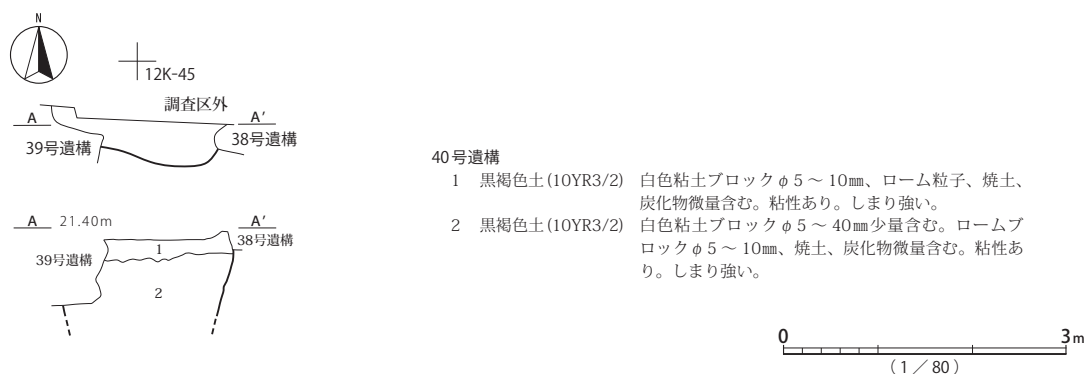


第41図 39号遺構

40号遺構 (第42図)

遺 構 12K44・45グリッドに位置し、北側は調査区外へ伸びる。東側で38号遺構、西側で39号遺構にそれぞれ切られる。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.81m、短軸0.45m(残存値)、深度は0.92m以上を測る。調査区壁際での検出であり、遺構の調査範囲が狭く床面の確認ができなかった。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 陶器、鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

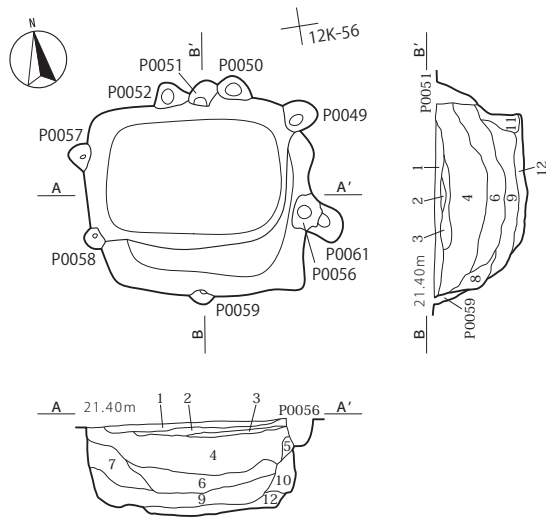


第42図 40号遺構

41号遺構 (第43図、写真図版7)

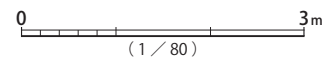
遺 構 12K54・55・64・65グリッド、38～40号遺構の南に位置する。平面形態は隅丸方形である。規模は長軸2.27m、短軸1.97m、深度は1.00mを測る。東壁から南壁沿いの床面がテラス状にやや高くなっている。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土が少なく時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 土器片、鑄造関連遺物が出土している。



41号遺構

- | | | |
|----|----------------|--|
| 1 | 黒褐色土(10YR3/2) | 白色粘土ブロックφ5～20mm、ローム粒子少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 2 | 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土ブロックφ5～30mm少量含む。ロームブロックφ5～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 3 | 黒褐色土(10YR2/2) | ローム粒子少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 4 | 暗褐色土(10YR3/3) | ロームブロックφ10～40mm中量含む。白色粘土ブロックφ5～30mm少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 5 | 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ5～15mm、白色粘土ブロックφ5～40mm少量含む。炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 6 | 暗褐色土(10YR3/3) | ロームブロックφ5～20mm、白色粘土ブロックφ5～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 7 | 灰黄褐色土(10YR4/2) | 白色粘土ブロックφ5～100mm中量含む。ロームブロックφ5～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 8 | 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ5～50mm、白色粘土ブロックφ10～40mm少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 9 | 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土ブロックφ10～40mm少量含む。ロームブロックφ5～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 10 | 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土ブロックφ5～10mm少量含む。ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。 |
| 11 | 黒褐色土(10YR3/2) | 白色粘土ブロックφ5～50mm少量含む。ロームブロックφ5～10mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。 |
| 12 | 暗褐色土(10YR3/3) | 白色粘土ブロックφ10～30mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまり強い。 |



第43図 41号遺構

42号遺構 (第44図、写真図版7)

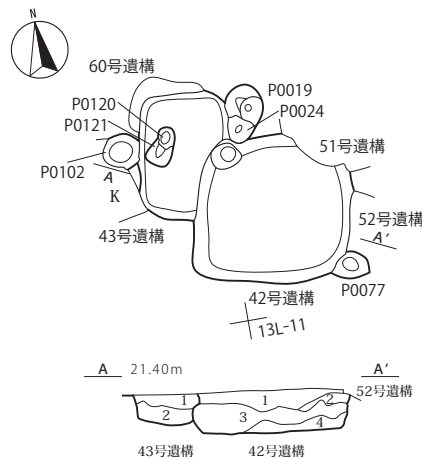
遺 構 12K74・75グリッド、37号遺構の西に位置する。北西側で43号遺構を切り、南東側で52号遺構に切られる。平面形態は隅丸方形である。規模は長軸1.60m、短軸1.58m、深度は0.46mを測る。北西コーナー壁際で深度0.25mの柱穴1基を検出したが、壁際中央に位置せず支柱とは言いがたい。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

43号遺構 (第44図、写真図版7)

遺 構 12K64・65・74・75グリッドに位置し、南東側で42号遺構に切られる。平面形態は隅丸方形と推測される。規模は長軸1.33m、短軸0.96m、深度は0.34mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物が出土している。

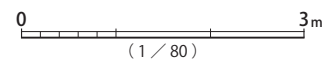


42号遺構

- | | | |
|---|----------------|---|
| 1 | 暗褐色土(10YR3/3) | ローム粒子、白色粘土ブロックφ5～20mm、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 2 | 灰黄褐色土(10YR4/2) | ロームブロックφ3～5mm、白色粘土ブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性やや強い。しまりあり。 |
| 3 | 灰黄褐色土(10YR4/2) | 白色粘土粒子少量含む。ロームブロックφ10mm、白色粘土ブロックφ10～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。 |
| 4 | 黄褐色土(2.5Y5/3) | 白色粘土ブロックφ20～50mm少量含む。ロームブロックφ5～20mm、炭化物微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。 |

43号遺構

- | | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 黒褐色土(10YR3/2) | ロームブロックφ5mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 2 | 暗褐色土(10YR3/3) | ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ20～50mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。 |

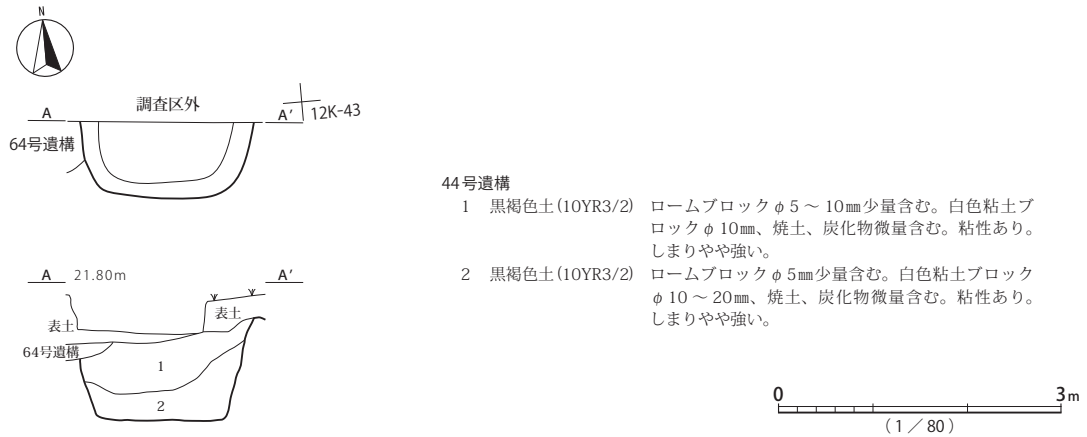


第44図 42・43号遺構

44号遺構 (第45図、写真図版7)

遺 構 12K31・41・42グリッドに位置し、北側は調査区外に伸びる。西側で64号遺構に切られる。平面形態は隅丸方形と推測される。規模は長軸1.82m、短軸0.79m(残存値)、深度は1.08mを測る。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 陶器の細片や土器片のほかに鑄造関連遺物が出土している。

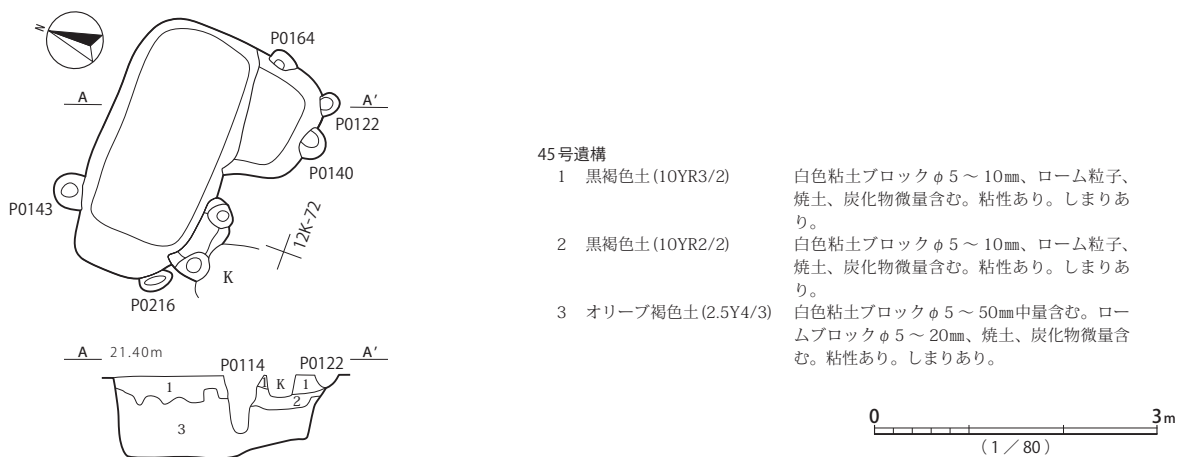


第45図 44号遺構

45号遺構 (第46図、写真図版7)

遺 構 12K51・52・61・62グリッドに位置し、東側で61号遺構、西側で66号遺構、北側で11号遺構を切る。平面形態は不定形であり、竪穴の南壁が2カ所、テラス状に掘り込まれている。規模は長軸2.80m、短軸2.11m、深度は0.86mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。時期を示す遺物の出土がなく特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



第46図 45号遺構

46号遺構 (第47図、写真図版7)

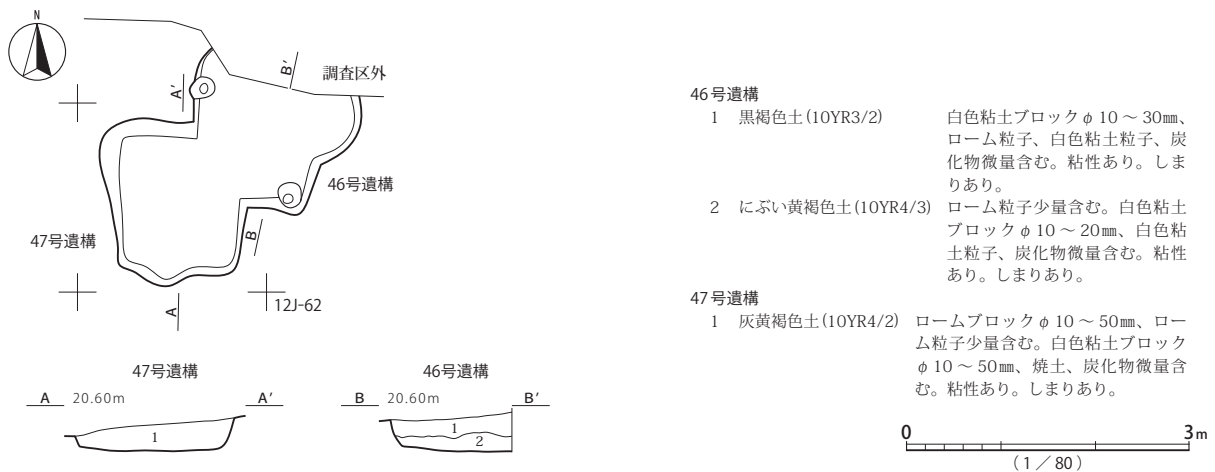
遺 構 12J41・42・51・52グリッドに位置し、北側は調査区外に伸びる。西側で47号遺構と切り合うが、新旧関係は不明である。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.79m、短軸1.59m(残存値)、深度は0.42mを測る。西壁際と南東コーナーにおいて2基の柱穴を検出している。深度はそれぞれ0.18m、0.26mを測る。検出位置から西壁際の柱穴が支柱であったと思われる。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代に埋め戻された遺構と思われる。

遺 物 土器の細片が出土している。

47号遺構 (第47図、写真図版7)

遺 構 12J51グリッドに位置し、東側で46号遺構と切り合うが、新旧関係は不明である。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.73m、短軸1.42m、深度は0.36mを測る。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

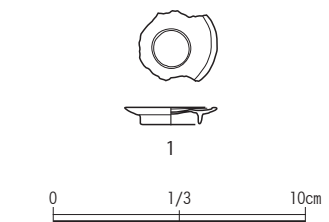


第47図 46・47号遺構

48号遺構 (第48・49図、写真図版7)

遺 構 12J40・50グリッドに位置し、西側は調査区外へ伸びる。平面形態は方形と推測される。規模は長軸2.60m、短軸0.88m(残存値)、深度は0.85mを測る。調査区壁面において基本層序Ⅱ層からの掘り込みを確認している。床面北側で深度0.24mの柱穴1基を検出しているが、壁際に位置しないことから支柱とは言いがたい。竪穴の覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。覆土下層から仏具である銅製の托(1)が出土している。時期を示す遺物の出土はなく特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代の遺構と思われる。

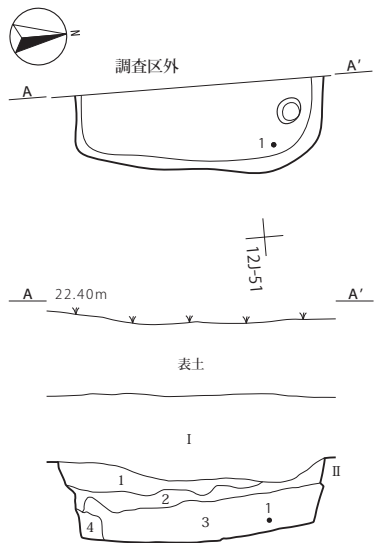
遺 物 1は銅製の仏具、托である。推定口径3.6cmと非常に小型であるものの、内面には受けが作り出されている。このほかに鑄造関連遺物、混入と思われる土器片が出土している。



第48図 48号遺構出土遺物

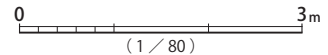
48号遺構出土金属製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
1	銅製品 托	下層	長さ：(3.4)	幅：(0.7)	厚さ：(2.3)	4.5	残存度2/3



48号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 3 黒褐色土(7.5YR2/2) ロームブロックφ20～30mm少量含む。白色粘土ブロックφ20～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
- 4 黒色土(7.5YR2/1) 白色粘土ブロックφ20～50mm少量含む。ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

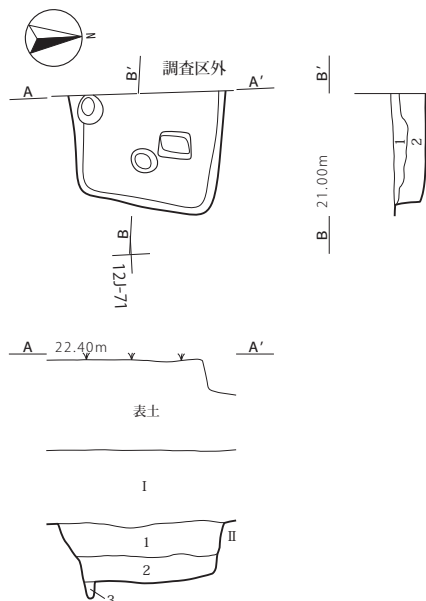


第49図 48号遺構

49号遺構 (第50図、写真図版7)

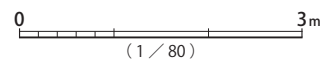
遺 構 12J60・70 グリッド、48号遺構の南に位置し、西側は調査区外へ伸びる。平面形態は方形と推測される。規模は長軸1.63m、短軸1.23m(残存値)、深度は0.66mを測る。調査区壁面において基本層序Ⅱ層からの掘り込みを確認している。南壁際で深度0.27mの柱穴を検出し、また床面中央寄りでも2基の柱穴を検出している。深度はそれぞれ0.17mと0.20mである。検出位置から南壁際の柱穴が支柱であったと思われる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、周囲の方形竪穴遺構同様に15世紀代の遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



49号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、焼土、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子白粘土ブロックφ10～20mm、ロームブロックφ10～50mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックφ10～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。



第50図 49号遺構

土坑

50号遺構(第51図、写真図版8)

遺構 12K66・75・76グリッドに位置し、西側で51号遺構に切られる。平面形態は長方形と推測される。規模は長軸0.98m、短軸0.69m、深度は0.37mを測る。底面は起伏があり、全体的に西側に傾斜する。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

51号遺構(第51図、写真図版8)

遺構 12K65・66・75・76グリッドに位置し、東側で50号遺構を切る。平面形態は円形の土坑である。規模は長軸1.37m、短軸1.25m、深度は0.70mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

52号遺構(第51図)

遺構 12K75グリッド、51号遺構の南に位置する。東側で42号遺構を切る。平面形態は不定形の土坑である。規模は長軸1.04m、短軸0.68m、深度は0.22mを測る。底面から壁面が緩やかに立ち上がる皿状の掘り込みで、底面の南側に小穴状の窪みを有する。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、42号遺構との切り合いから15世紀代以降の遺構と思われる。

遺物 土器小破片のほかに鋳造関連遺物が出土している。

53号遺構(第51図、写真図版8)

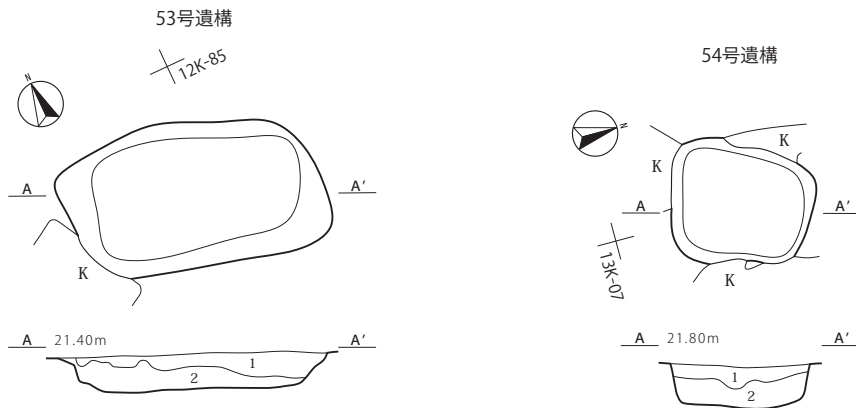
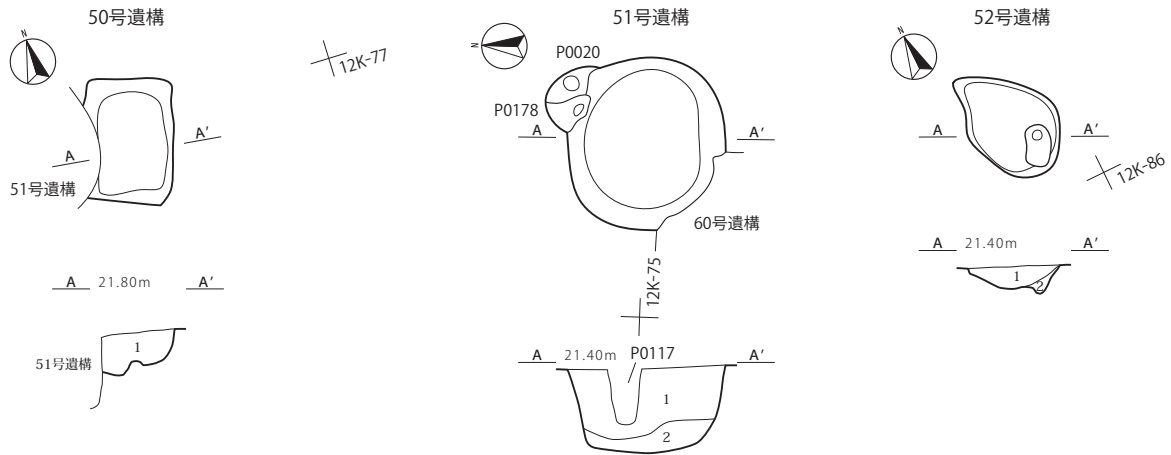
遺構 12K84・85グリッド、42号遺構の南に位置する。平面形態は隅丸長方形の土坑である。規模は長軸2.03m、短軸1.18m、深度は0.30mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

54号遺構(第51図、写真図版8)

遺構 12K96・97グリッド、53号遺構の東に位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.13m、短軸0.99m、深度は0.33mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



50号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ5～20mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

51号遺構

- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 白色粘土ブロックφ5～40mm中量含む。ロームブロックφ5～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
 2 黄灰色土(2.5Y4/1) 白色粘土ブロックφ5～30mm少量含む。ロームブロックφ5～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

52号遺構

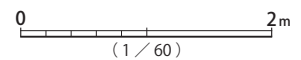
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ5～10mm、白色粘土ブロックφ10～50mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ10mm、ローム粒子微量含む。粘性。しまりあり。

53号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～5mm、白色粘土ブロックφ3～5mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～20mm、白色粘土ブロックφ3～20mm中量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまり強い。

54号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、ロームブロックφ5～10mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ3～10mm少量含む。炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第51図 50～54号遺構

55号遺構(第52図、写真図版8)

遺 構 13K07・17・26・27グリッドに位置し、南側で56号遺構に切られる。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸3.53m、短軸1.08m、深度は0.48mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はロームブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺構の中央を境に異なる色調の覆土が確認された。平坦な底面からは複数の掘り込みが切り合うとは考えにくく、埋め戻される際の土質の違いを示していると推測される。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

56号遺構(第52図、写真図版8)

遺 構 13K25～27グリッドに位置し、東側で55号遺構を切る。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸2.46m、短軸0.97m、深度は0.24mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。平面形態から55号遺構と同様の性格をもつ遺構と推測されるが、長軸方向が55号遺構とは異なり東西方向になる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 陶器、鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

57号遺構(第52図、写真図版8)

遺 構 13K04・05・14・15グリッドに位置する。平面形態は楕円形の土坑である。規模は長軸0.87m(残存値)、短軸0.56m、深度は0.37mを測る。底面は平坦で南にやや傾斜している。遺物の出土がなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

58号遺構(第52図、写真図版9)

遺 構 13K04・14グリッド、57号遺構の西に隣接する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.18m、短軸0.93m(残存値)、深度は0.16mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

59号遺構(第52図)

遺 構 12K54・64グリッド、41号遺構の西に位置する。平面形態は楕円形の土坑である。規模は長軸0.96m、短軸0.84m、深度は0.15mを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

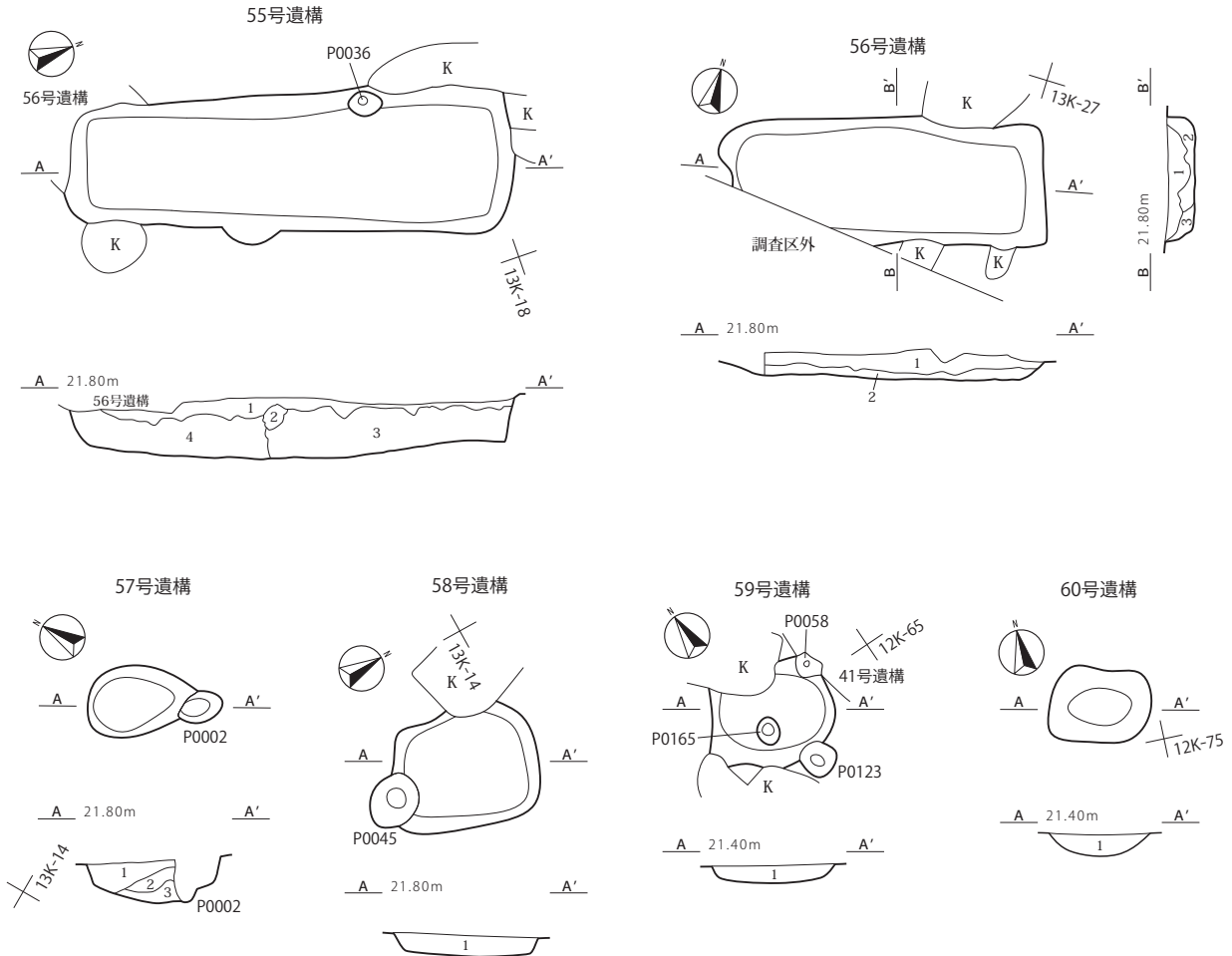
遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

60号遺構(第52図、写真図版9)

遺 構 12K64グリッドに位置し南東側で43号遺構を切る。平面形態は隅丸方形の土坑である。規

横は長軸0.80 m、短軸0.58 m、深度は0.18mを測る。底面から壁面が緩やかに立ち上がる皿状の掘り込みである。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



55号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～70mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ3～10mm中量含む。ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ3～60mm、ローム粒子中量含む。白色粘土ブロックφ10～40mm、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～30mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

56号遺構

- 1 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～5mm、白色粘土ブロックφ3mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3～10mm、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ3mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

57号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～20mm少量含む。ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子、白色粘土粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒色土(10YR2/1) ロームブロックφ40～50mm、白色粘土粒子少量含む。粘性あり。しまり強い。

58号遺構

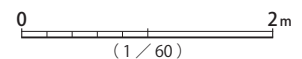
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

59号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

60号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ5～20mm少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。



第52図 55～60号遺構

61号遺構(第53図、写真図版9)

遺 構 12K52・53・62・63グリッドに位置し、東側で62号遺構、西側で45号遺構に切られる。平面形態は長方形と推測される。規模は長軸1.66m、短軸0.99m(残存値)、深度は0.29mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

62号遺構(第53図、写真図版9)

遺 構 12K63・64・73・74グリッドに位置し、南側で63号遺構、西側で61号遺構を切る。平面形態は隅丸長方形の土坑である。規模は長軸2.29m、短軸1.50m、深度は0.44mを測る。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。底面で複数のピットを検出したが、いずれも本遺構に伴うものではないと判断した。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物混入と思われる土器片が出土している。

63号遺構(第53図、写真図版9)

遺 構 12K73・74グリッドに位置する。北側で63号遺構に切られ、平面形態は不明である。規模は長軸1.94m(残存値)、短軸0.66m(残存値)、深度は0.32mを測る。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

64号遺構(第53図)

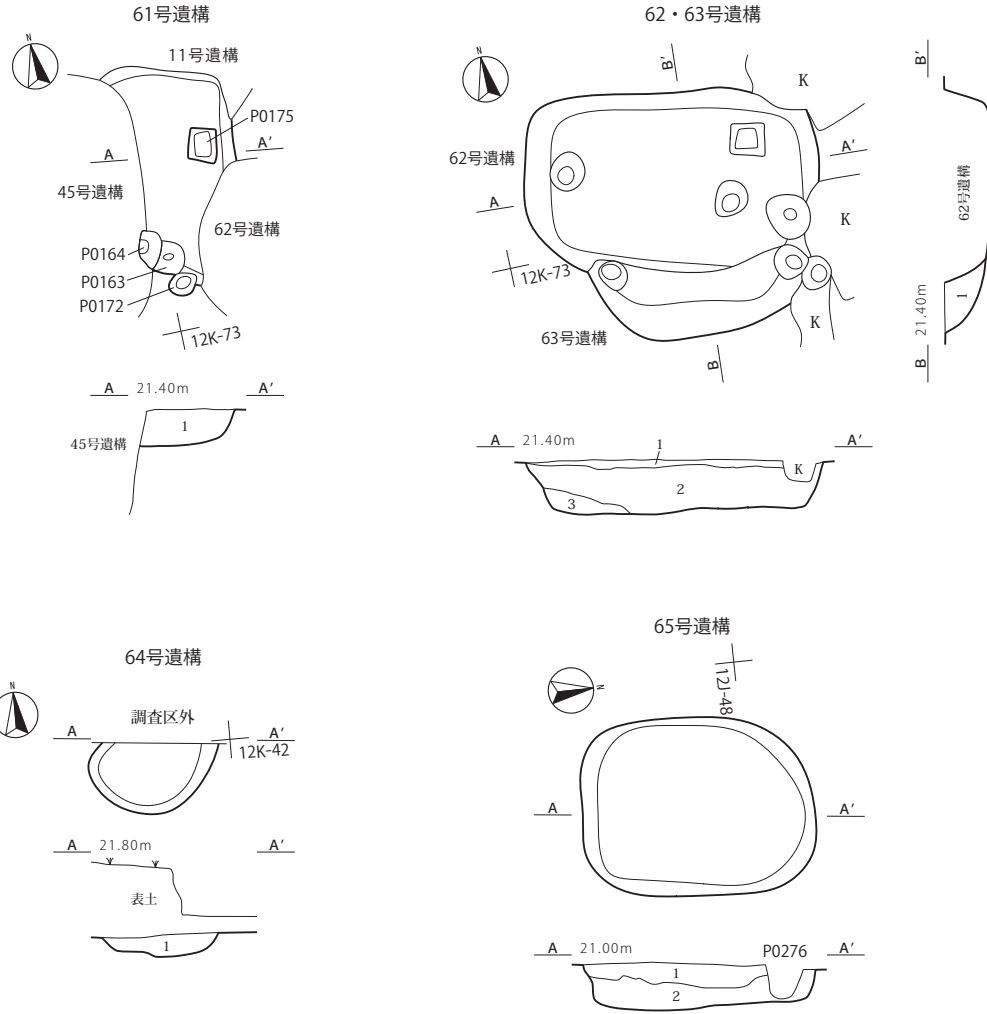
遺 構 12K31・41グリッドに位置し、北側は調査区外に伸びる。東側で44号遺構を切る。平面形態は楕円形と推測される。規模は長軸1.10m、短軸0.58m(残存値)、深度は0.18mを測る。底面にはわずかに起伏が見られ、壁面は皿状に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

65号遺構(第53図、写真図版9)

遺 構 12J48・58グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.84m、短軸1.42m、深度は0.38mを測る。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



61号遺構

1 黒褐色土(10YR2/2) 白色粘土ブロックφ5～20mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

62号遺構

1 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
 2 黒褐色土(10YR2/2) 白色粘土ブロックφ10～30mm、ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりやや強い。
 3 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックφ10～40mm、白色粘土ブロックφ20～40mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

63号遺構

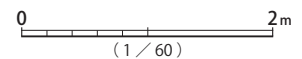
1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ5～10mm、白色粘土ブロックφ5～10mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

64号遺構

1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック少量含む。白色粘土ブロックφ20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

65号遺構

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ10～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



第53図 61～65号遺構

66号遺構(第54図、写真図版9)

遺 構 12K51・61グリッドに位置し、東側で45号遺構に切られる。平面形態は長方形と推測される。規模は長軸1.54m、短軸0.79m(残存値)、深度は0.1mを測る。底面は平坦で、壁面は逆台形状に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物混入と思われる土器片が出土している。

67号遺構(第54図、写真図版9)

遺 構 12J69・79・12K60・70グリッドに位置し、東側で3号遺構を切る。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸1.62m、短軸0.69m、深度は1.04mを測る。底面は平坦で壁面下位は垂直に立ち上がり、上位で漏斗状に開く。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 混入と思われる土器片が出土している。

68号遺構(第54図、写真図版10)

遺 構 12K81・82グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸0.94m、短軸0.77m、深度は0.17mを測る。底面は平坦で壁面は皿状に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

69号遺構(第54図、写真図版10)

遺 構 12K92・93グリッドに位置する。86号遺構と切り合い、その底面で検出されたが新旧関係は不明である。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.74m、短軸1.20m、深度は0.60mを測る。底面は平坦で壁面は開き気味に立ち上がる。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含むことから人為的に埋め戻されたと思われる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

70号遺構(第54図、写真図版10)

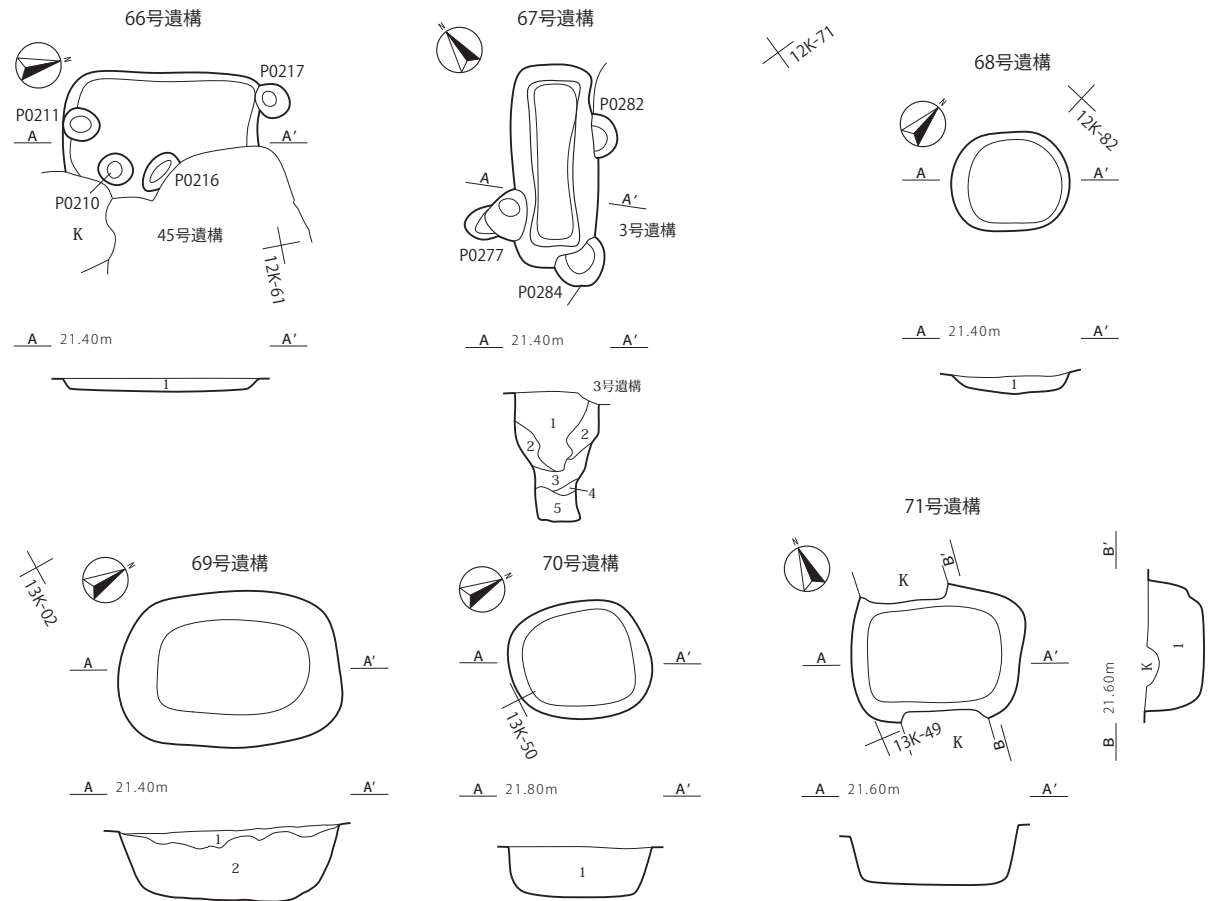
遺 構 13J49・13K40グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.11m、短軸0.94m、深度は0.40mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺構の形態や覆土の特徴は隣接する71号遺構に酷似している。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器細片が出土している。

71号遺構 (第54図、写真図版10)

遺 構 13J48・49・59グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.33m、短軸1.08m、深度は0.46mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鑄造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



66号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ5～30mm少量含む。白色粘土ブロックφ10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

67号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックφ10～30mm、ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 明黄褐色土(2.5Y6/6) 黒褐色シルト粒土少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 浅黄色土(2.5Y7/3) 細粒砂中量含む。粘性あり。しまりあり。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 浅黄色粘土ブロックφ30mm微量含む。粘性あり。しまりあり。

68号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。白色粘土ブロックφ10～40mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

69号遺構

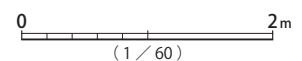
- 1 黒褐色土(2.5Y3/1) 白色粘土粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 白色粘土ブロックφ3～50mm少量含む。ロームブロックφ5～10mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

70号遺構

- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～40mm少量含む。白色粘土ブロックφ10～40mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

71号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子中量含む。ロームブロックφ10～60mm少量含む。白色粘土ブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。



第54図 66～71号遺構

72号遺構(第55図)

遺 構 13K50・51グリッドに位置し、東側は調査区外へ伸びる。南側で73号遺構を切る。平面形態は隅丸方形と推測される。規模は長軸0.96m、短軸0.54m、深度は0.33mを測る。底面は平坦で南壁は垂直に立ち上がり、北壁は緩やかに立ち上がっている。覆土はロームブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 出土していない。

73号遺構(第55図、写真図版10)

遺 構 13J59・13K50・51・60グリッドに位置し、東壁の上端は調査区外へ伸びる。北側で73号遺構に切られる。平面形態は長方形で西側は大きくオーバーハングしている。規模はハング部を含めた長軸2.16m、短軸1.45m、深度は0.62mを測る。底面は平坦で西に傾斜し、ハング部はわずかに段差をもちつつさらに傾斜する。南壁はテラス状に張り出している。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを多く含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 混入と思われる土器片が出土している。

74号遺構(第55図、写真図版10)

遺 構 13J77・87グリッドに位置する。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸1.33m、短軸0.98m、深度は0.16mを測る。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。覆土はロームおよび常総粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 混入と思われる土器片が出土している。

75号遺構(第55図、写真図版10)

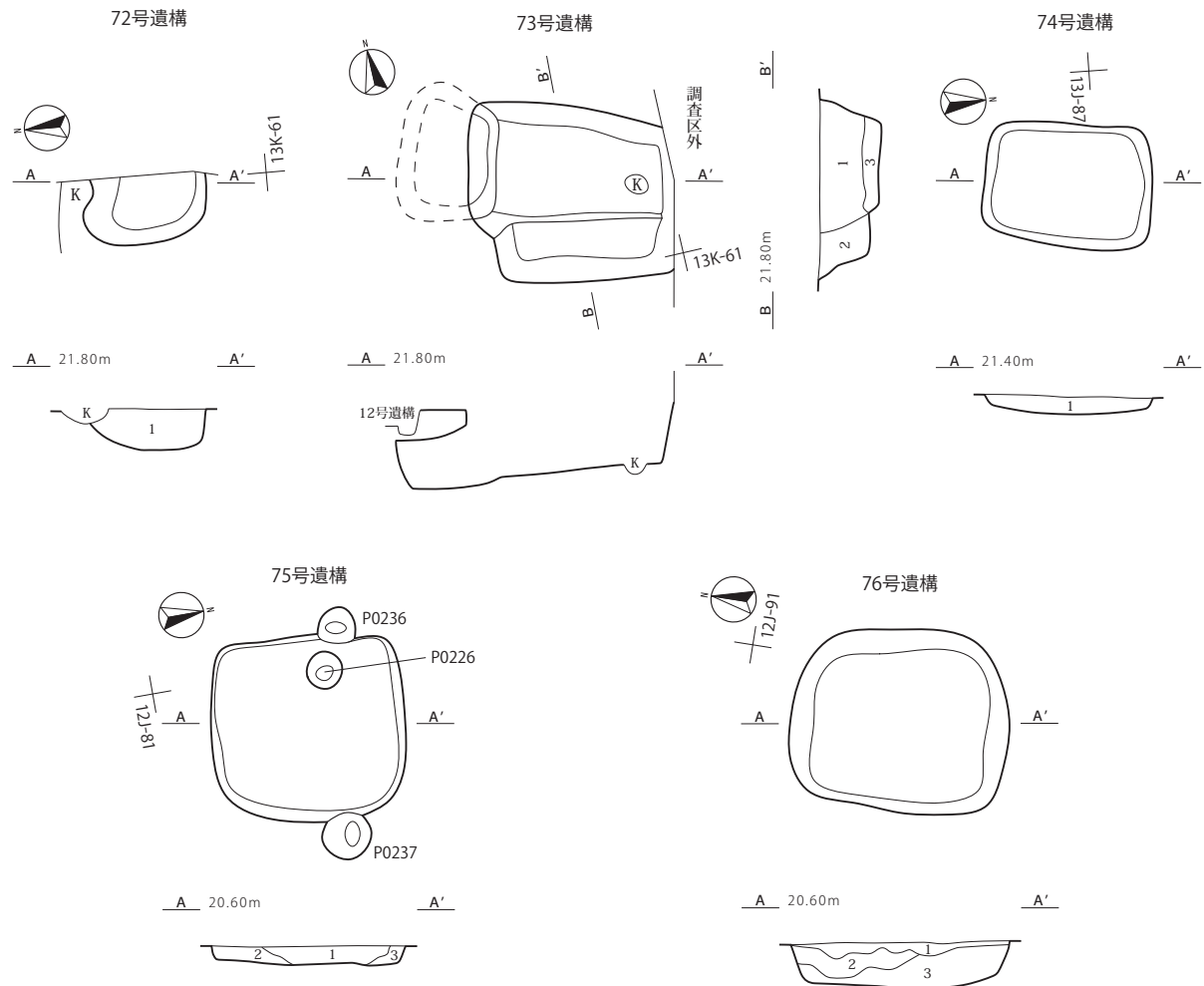
遺 構 12J70・71グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.53m、短軸1.49m、深度は0.16mを測る。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 混入と思われる土器の細片が出土している。

76号遺構(第55図、写真図版11)

遺 構 12J90・91・13J00グリッドに位置し、北西側で31号遺構を切る。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.74m、短軸1.46m、深度は0.38mを測る。底面は平坦で壁面は逆台形状に立ち上がる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



72号遺構

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ5～10mm少量含む。白色粘土ブロックφ5～20mm、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

73号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ3～40mm、白色粘土ブロックφ10～50mm少量含む。炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ5～30mm少量含む。白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 白色粘土ブロックφ10～40mm多量含む。ロームブロックφ10～40mm少量含む。焼土微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

74号遺構

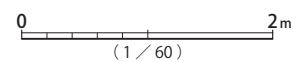
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ10～40mm少量含む。白色粘土ブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。

75号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ20～30mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりやや強い。

76号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ10～30mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ10～60mm、白色粘土ブロックφ20mm、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。

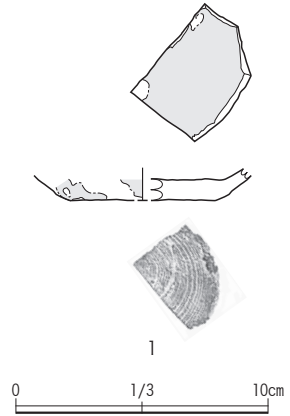


第55図 72～76号遺構

77号遺構 (第56・57図)

遺 構 13J00・01・10・11グリッドに位置し、ほぼ直下の21号遺構を切る。平面形態は隅丸方形の土坑である。規模は長軸1.22m、短軸0.98m、深度は0.22mを測る。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、出土遺物や覆土の特徴から15世紀初頭以前の遺構と思われる。

遺 物 陶器、土器の細片が出土している。1は古瀬戸後期様式Ⅱ期の縁釉小皿である。内面に灰釉がハケ塗りされ、見込には目跡2カ所が確認できる。裏底に回転糸切痕を残す。



第56図 77号遺構出土遺物

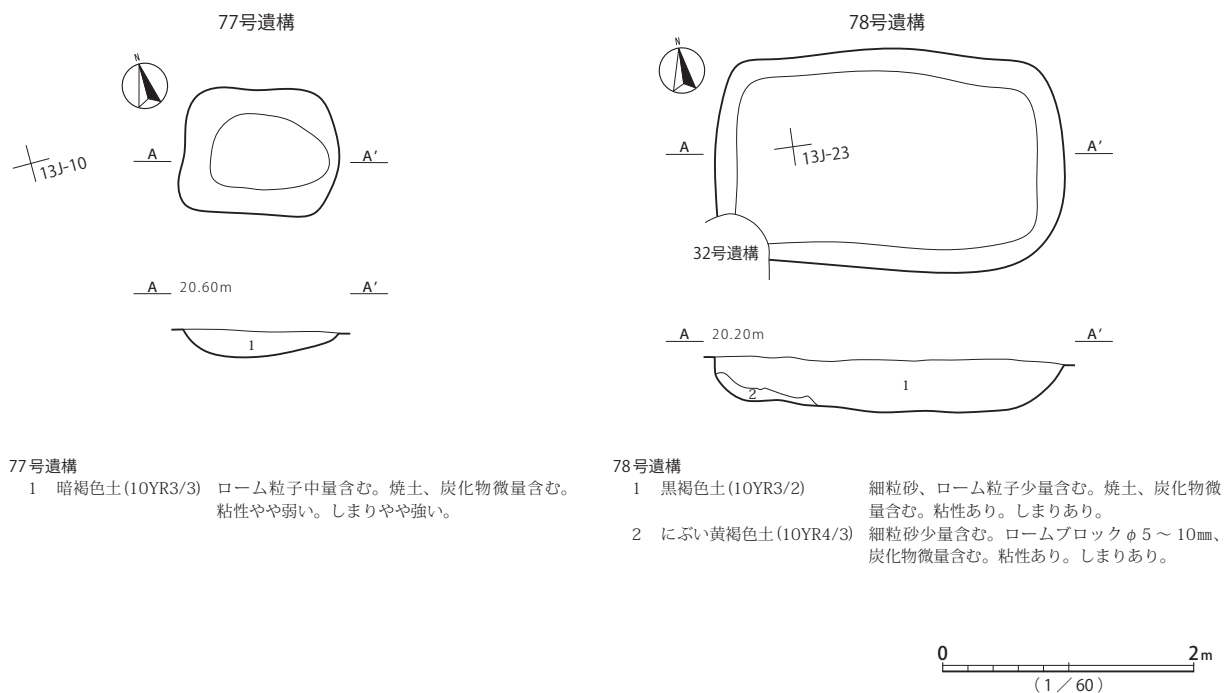
77号遺構出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	瀬戸・美濃系陶器 縁釉小皿	覆土一括	口 径： - 器 高： (1.3) 底 径： -	外面：灰釉。ロクロナデ。底部糸切り痕 内面：灰釉。目跡	焼 成：良好 色 調：灰白 残存度：1/4以下	古瀬戸後Ⅱ期

78号遺構 (第57図、写真図版11)

遺 構 13J12・13・22・23グリッドに位置し、79号遺構の底面で検出されたが新旧関係は不明である。南西側で32号遺構に切られる。平面形態は長方形の土坑である。規模は長軸2.76m、短軸1.74m、深度は0.42mを測る。底面は平坦で壁面下位は緩やかに、上位はややきつく立ち上がる。覆土はロームブロックを含み人為的に埋め戻されている。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



第57図 77・78号遺構

溝状遺構

79号遺構(第58・59図、写真図版11・14)

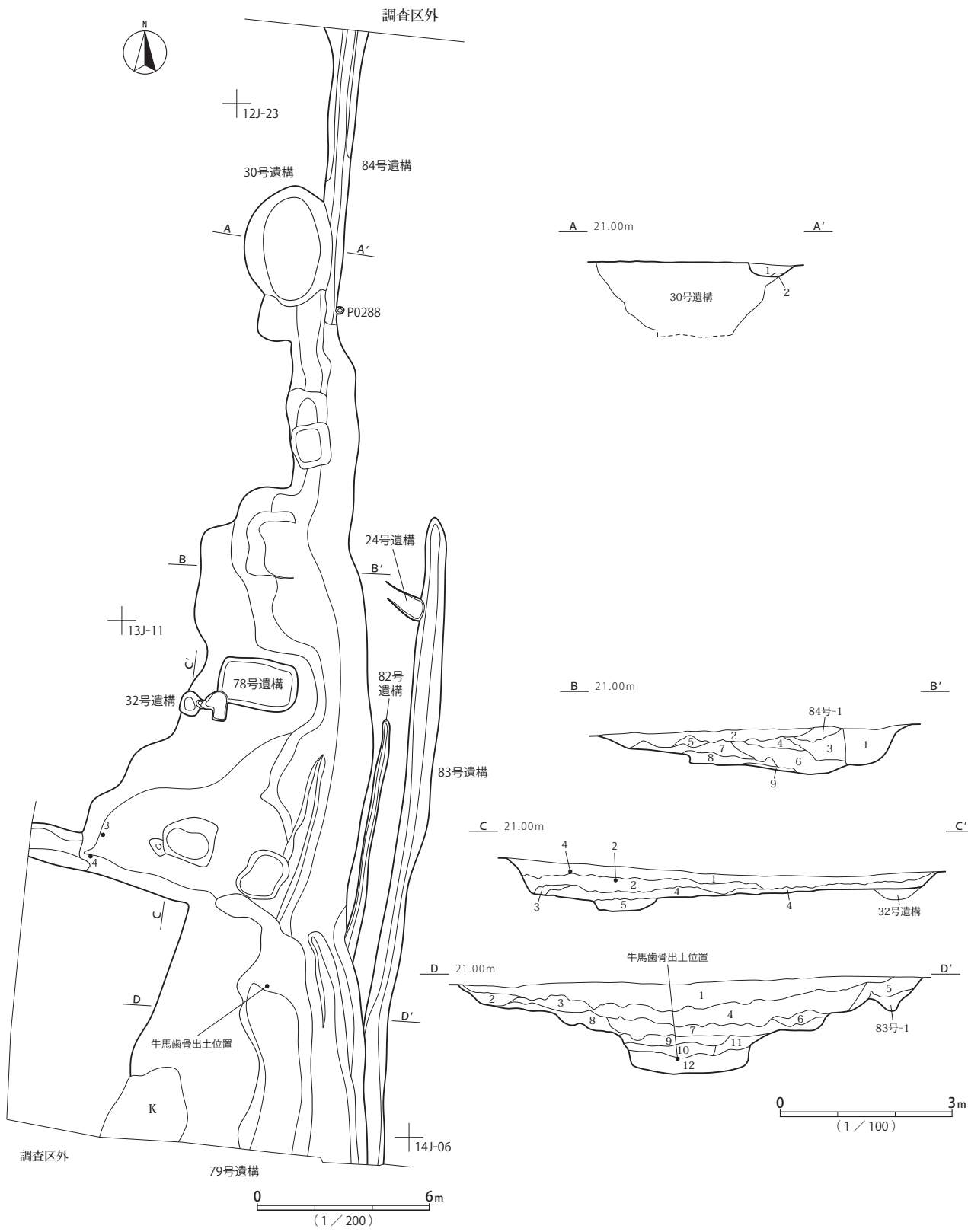
遺 構 12～14Jグリッドに位置する。北側で84号遺構に切られ、30号、82号、83号遺構と切り合うが新旧関係は不明である。T字状の平面形であり、規模の大きい掘り込みが南北方向へ伸び、南端は調査区外へ伸びる。また幅の狭い掘り込みが西側の調査区外へ伸びる。規模は全長29.9m(残存値)、幅は1.72～8.11m、深度は0.06～1.56mを測り、底面は北から南へ傾斜する。南側の底面は幅が狭く、壁面は階段状に立ち上がり、北側は平坦な底面から壁面がやや緩やかに立ち上がる。底面では土坑状の掘り込みを複数検出している。セクションDラインの9層以下の覆土は常総粘土ブロックを含み、人為的に埋め戻されている。この層位からは牛馬歯骨と思われる骨片がわずかながら出土している。

西側へ伸びる溝は南北方向の溝から直角に屈曲して伸びており、その平面形態から区画溝の機能が推測される。しかしながら、底面が常総粘土層の下位の砂層上面で掘削が止まっていることや土坑状の掘り込みが複数検出されたことから、粘土の採掘が継続して行われた結果、最終的に溝状の形態となったとも推測できる。

遺構の時期は出土遺物から14世紀末葉頃から開口し、15世紀後葉頃には埋没したと考えられる。

遺 物 陶磁器片、土器片、鑄造関連遺物、牛馬歯骨15gが出土している。このうち陶磁器は龍泉窯系青磁1点(碗I-5b類)、猿投産陶器1点(甕)、瀬戸・美濃系陶器5点(灰釉平碗3点《後Ⅱ1・後Ⅲ2》・折縁深皿1点《中Ⅳ》・黄瀬戸鉢1点《連房1》)、常滑産陶器18点(片口鉢6点《Ⅱ類9型式2・Ⅱ類10型式1》・甕11点・広口壺1点(3～4型式)、在地瓦質土器1点(器種不明)、在地土器2点(中型坏1点・小型皿1点)である。

1は古瀬戸後期様式Ⅱ期の灰釉平碗。見込みに目跡1カ所が確認できる。2は古瀬戸後期様式Ⅲ期の灰釉平碗第5型式である。1・2ともに覆土上層の出土である。3は黄瀬戸鉢である。連房第1小期という、他の遺物に比して下る時期の遺物であることから遺構埋没時の混入と思われる。4・5は常滑産、9型式の片口鉢Ⅱ類である。4は内面が平滑でよく使い込まれている。6は常滑産の甕である。外面には押印が施される。7は鎬蓮弁文の施される青磁碗である。このほかに図示していないが常滑産の甕のうち2点の破片は破面が砥石として転用されている。



第58図 79・82～84号遺構

79号遺構B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物、小礫φ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子少量含む。白色粘土ブロックφ40～70mm、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 細粒砂少量含む。ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6 褐灰色土(10YR4/1) 白色粘土粒子少量含む。ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 7 黒色土(7.5YR2/1) 細粒砂多量含む。白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 8 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒子少量含む。ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 細粒砂中量含む。粘性強い。しまりあり。

79号遺構C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 白色粘土粒子少量含む。ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒砂、黒褐色土少量含む。ローム粒子、炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 細粒砂少量含む。ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 白色粘土ブロックφ10～30mm少量含む。ロームブロックφ10～20mm、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。

79号遺構D-D'

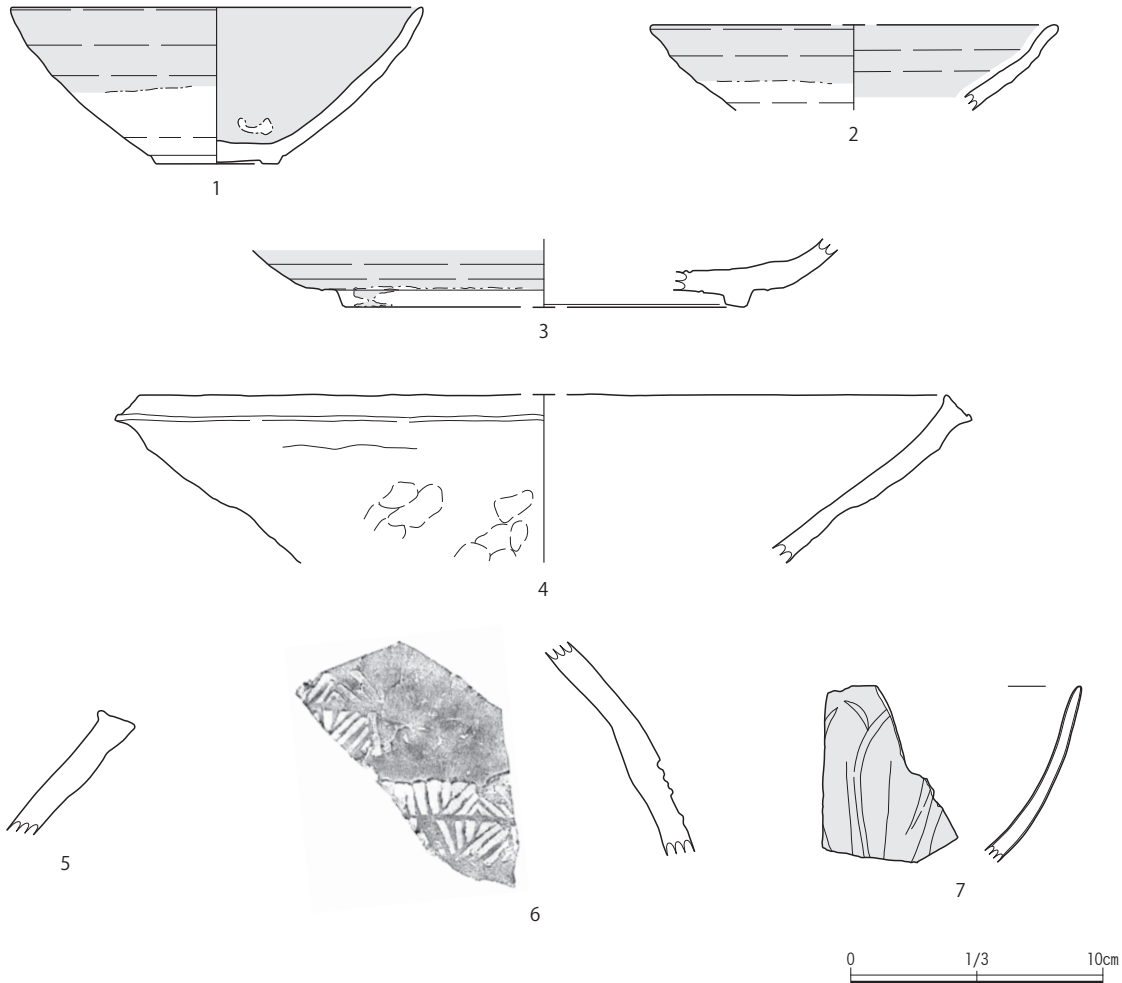
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物、小礫φ5mm微量含む。粘性あり。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ10～20mm、白色粘土ブロックφ20～40mm、ローム粒子、白色粘土粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、小礫φ5mm微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒子、白色粘土粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 白色粘土ブロックφ10～30mm少量含む。ローム粒子、焼土少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6 褐灰色土(10YR4/1) 白色粘土ブロックφ20～50mm、ローム粒子、白色粘土粒子、焼土、炭化物少量含む。小礫φ5～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 7 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒子、白色粘土粒子少量含む。焼土、炭化物、小礫φ5～20mm微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 8 褐灰色土(7.5YR4/1) 白色粘土粒子少量含む。白色粘土ブロックφ5～20mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。
- 9 褐灰色土(10YR4/1) 細粒砂中量含む。白色粘土ブロックφ10～60mm少量含む。ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。
- 10 褐灰色土(10YR4/1) 細粒砂、白色粘土ブロックφ50～70mm少量含む。ロームブロックφ10～30mm、焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。
- 11 褐灰色土(10YR5/1) 白色粘土粒子少量含む。白色粘土ブロックφ30～70mm、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
- 12 褐灰色土(10YR5/1) 白色粘土ブロックφ10～100mm中量含む。細粒砂少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性強い。しまりあり。

83号遺構

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 白色粘土ブロックφ5～30mm、ローム粒子、白色粘土粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。

84号遺構A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒子、焼土、小礫φ10mm微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分が沈着する。下位に火山灰を多量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子、焼土微量含む。粘性やや弱い。しまりあり。



第59図 79号遺構出土遺物

79号遺構出土陶器・磁器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	瀬戸・美濃系陶器 灰釉平碗	上層	口径：16.2 器高：6.2 底径：4.8	外面：灰釉。胴部下位回転ヘラケズリ。削り高台 内面：灰釉。目跡	焼成：良好 色調：灰褐 残存度：1/3	古瀬戸後Ⅱ期
2	瀬戸・美濃系陶器 灰釉平碗 第5型式	上層	口径：(16.0) 器高：(3.4) 底径：-	外面：灰釉。ロクロナデ 内面：灰釉。ロクロナデ	焼成：良好 色調：灰白 残存度：1/4以下	古瀬戸後Ⅲ期
3	瀬戸・美濃系陶器 黄瀬戸鉢	中層	口径：- 器高：(2.7) 底径：15.8	外面：黄瀬戸釉。ロクロナデ 内面：黄瀬戸釉。ロクロナデ	焼成：良好 色調：にぶい黄橙 残存度：1/4以下	連房第1小期
4	常滑 片口鉢Ⅱ類	下層	口径：(32.0) 器高：(6.7) 底径：-	外面：口縁部横位ナデ。胴部指頭圧痕 内面：	焼成：良好 色調：灰赤 残存度：1/4以下	9型式。使い込まれる
5	常滑 片口鉢Ⅱ類	覆土一括	口径：- 器高：(4.9) 底径：-	外面：横位ナデ 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：にぶい赤褐 残存度：1/4以下	9型式
6	常滑 甕	下層	口径：- 器高：(8.5) 底径：-	外面：押印 内面：横位ナデ	焼成：良好 色調：灰黄褐 残存度：破片	型式不明
7	龍泉窯系 青磁碗 I-5b類	下層	口径：- 器高：(6.9) 底径：-	外面：青磁釉。鑄蓮弁文 内面：青磁釉	焼成：良好 色調：灰白 残存度：破片	

80号遺構 (第60図)

遺構 13I19・29・13J10グリッドに位置し、南西側は調査区外へ伸びる。規模は全長2.39m (残存値)、幅0.63m、深度は0.62mを測る。底面は平坦で壁面は漏斗状に立ち上がる。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 出土していない。

81号遺構 (第60図、写真図版11)

遺構 13J20・30グリッド、80号遺構の南に位置する。規模は全長3.08m、幅0.41m、深度は0.32mを測る。平面形態は中央部が柱穴状に膨らんでいるが、別遺構との切り合いは認められなかった。底面は南東側に傾斜し壁面は逆台形状に立ち上がる。遺物の出土はなく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 出土していない。

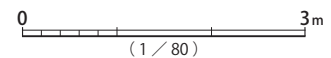


80号遺構

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや弱い。

81号遺構

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまりあり。
2 褐色土(10YR4/4) ローム粒子中量含む。焼土、炭化物少量含む。粘性あり。しまりあり。



第60図 80・81号遺構

82号遺構 (第58図)

遺構 13J25・35・45・55・64・65グリッド、79号遺構の東に位置する。79号遺構の掘削中にその壁面で検出されたため、新旧関係は不明である。規模は全長8.34m (残存値)、幅0.34m、深度は0.09mを測る。底面から緩やかに壁面が立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺物 鋳造関連遺物が出土している。

83号遺構 (第58図)

遺 構 13Jグリッドの中央、79号遺構の東に位置する。南側は調査区外へ伸びる。79号遺構と切り合うが、新旧関係は不明である。規模は全長22.6m (残存値)、幅1.03m、深度は0.40mを測る。底面から緩やかに壁面が立ち上がる。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 陶器、鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

道路遺構

84号遺構 (第58図、写真図版11)

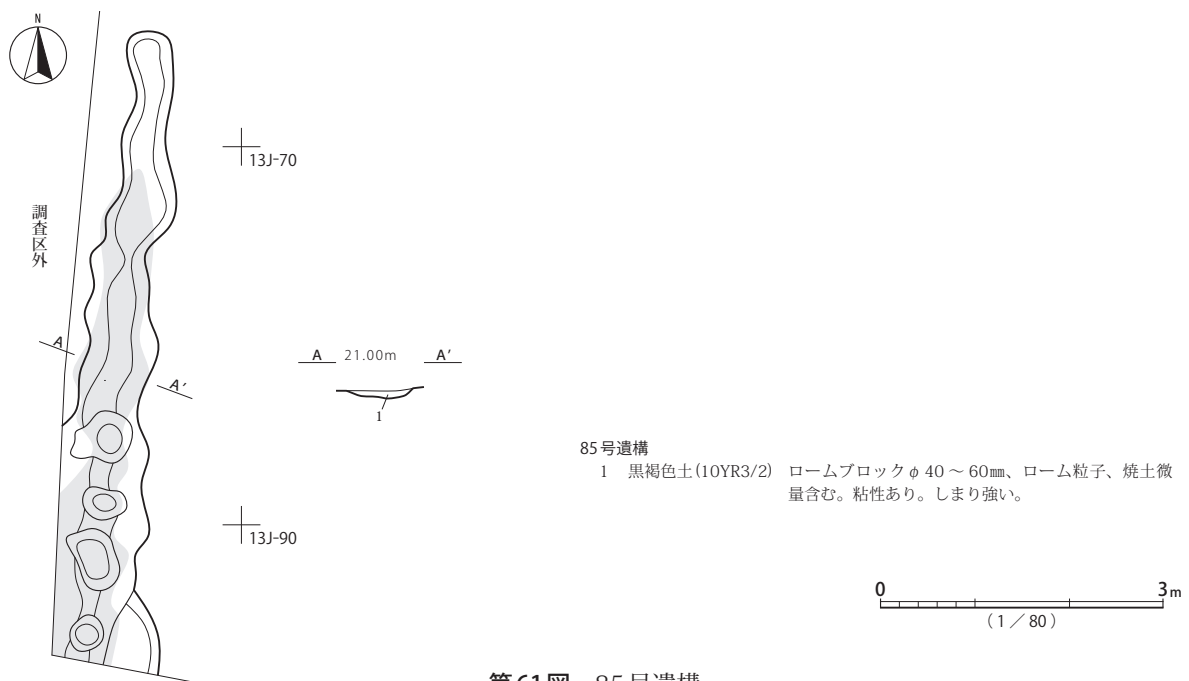
遺 構 12Jグリッド北側に位置し、北側は調査区外へ伸びる。31号、79号遺構を切る。79号遺構と同一の遺構と誤認し、掘削してしまったため南端の把握ができなかった。規模は全長10.20m (残存値)、幅1.58m、深度は0.35mを測る。断面形は浅い皿状である。底面にわずかに波板状の凹凸面が確認されたことから道路遺構と考えられる。遺物の出土はごくわずかだが、覆土下層に富士宝永火山灰が堆積していることから、79号遺構の埋没後に構築され、火山灰降下時である1707年には開口、機能していたと考えられる。

遺 物 陶器、鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。

85号遺構 (第61図)

遺 構 13I69・79・89・99グリッドに位置し、南側は調査区外へ伸びる。規模は全長6.70m (残存値)、幅0.87m、深度は0.34mを測る。底面には土坑状の掘り込みが連続する。底面が硬くしまっていることから道路遺構と考えられる。遺物の出土は少なく時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



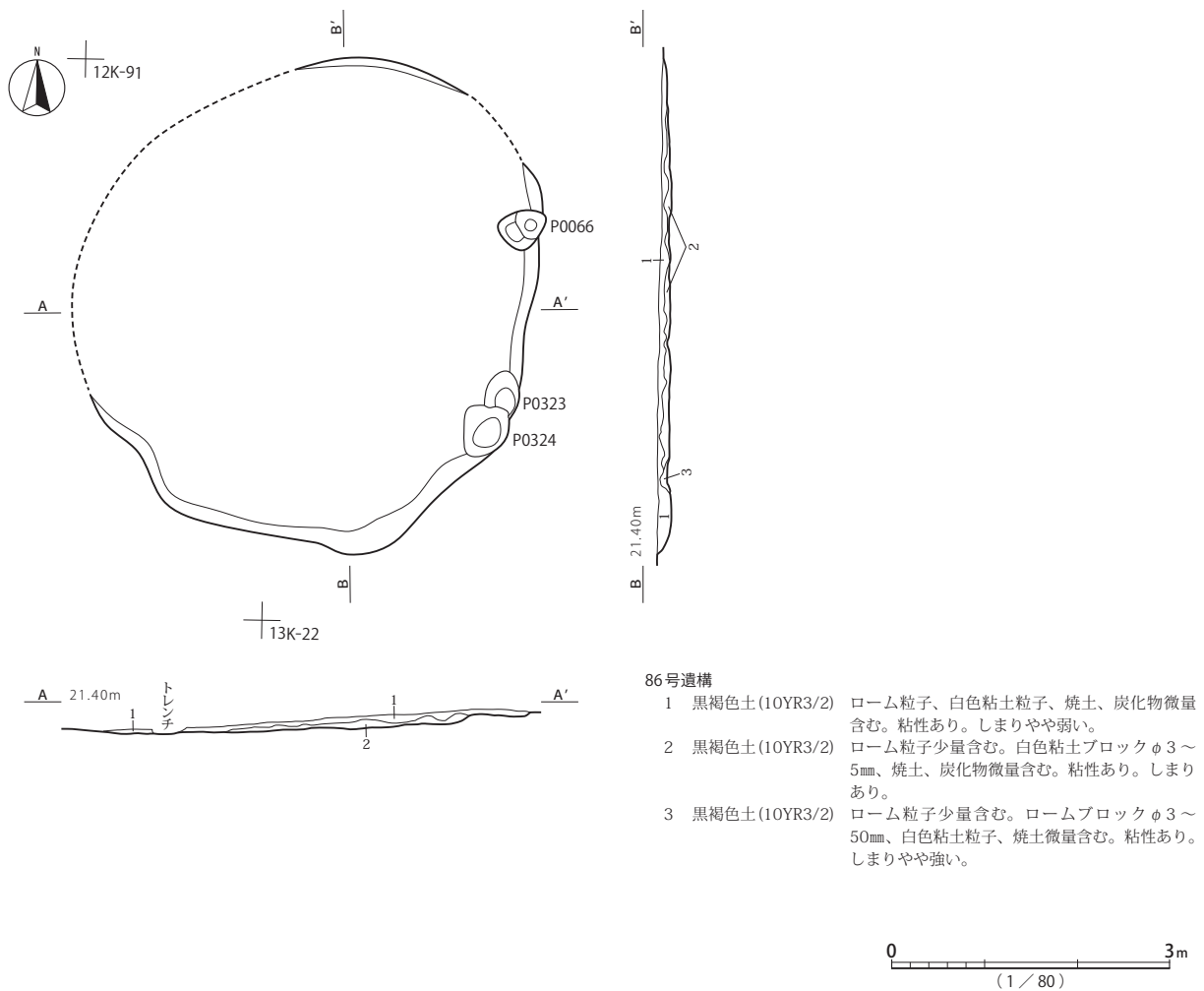
第61図 85号遺構

性格不明遺構

86号遺構 (第62図、写真図版11)

遺 構 12K82・92・93・13K01～03・11～13グリッドに位置する。28号遺構を切り、27号、69号遺構と切り合うが、新旧関係は不明である。平面形態は不整円形の遺構である。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。規模は長軸5.45m、短軸4.06m（残存値）、深度は0.13mを測る。平面形態からは古代の竪穴住居址とも推測されたが、底面に炉址や柱穴などの付属遺構や硬化面も検出されず、覆土の特徴から中世の遺構と考えられることから浅い掘り込みの性格不明遺構とした。遺物の出土はごくわずかで時期の特定はできないが、覆土の特徴から中世の遺構と思われる。

遺 物 鋳造関連遺物のほかに混入と思われる土器片が出土している。



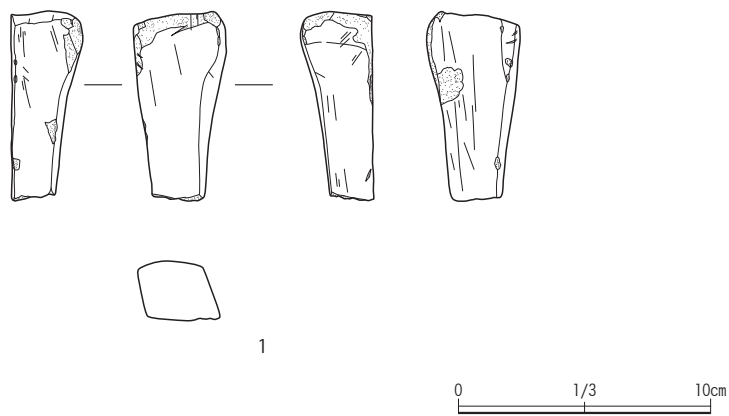
第62図 86号遺構

ピット

ピットが多数検出されていたが、そのほとんどが時期の特定ができず、また建物の復元も不可能であったため、第1表にて計測値を報告する。なお、方形竪穴遺構が分布する12Kグリッドはピットが集中し、竪穴の上屋施設などが推測される。

ピット出土遺物 (第63図)

1は0127号ピット出土の砥石。凝灰岩製の仕上げ砥である。



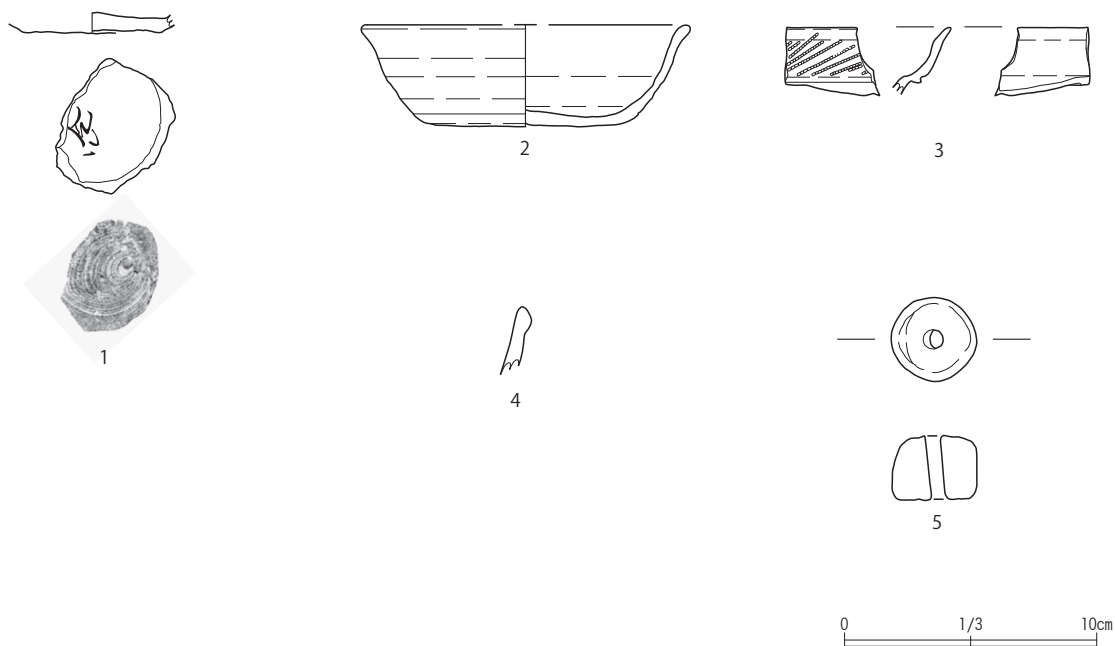
第63図 0127号ピット出土遺物

0127号ピット出土石製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
1	石製品 砥石	覆土一括	長さ：7.5	幅：3.6	厚さ：2.3	86.1	

その他の出土遺物（第64図）

古墳時代後期および中世の遺構から出土した混入遺物のうち、主なものについてここで報告する。1は土師器杯の底部片である。糸切痕の外周がヘラケズリされ、判読不可能の文字が墨書されている。2は須恵器の杯。焼成がやや甘く器面はにぶい黄色である。底部は丁寧にヘラケズリされている。3は須恵器の小破片、甕の口縁部である。外面には櫛描列点文が施文される。4は白磁碗Ⅱ類の口縁部である。5は土製の紡錘車である。



第64図 その他の出土遺物

その他の出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	焼成・色調・残存度	備考
1	土師器杯	50号遺構	口 径： - 器 高： (0.8) 底 径： (5.4)	外面：底部糸切り痕。外周ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	焼 成：普通 色 調：赤褐 残存度：1/4	墨書「□」
2	須恵器杯	9号遺構	口 径： (12.8) 器 高： 4.0 底 径： (6.0)	外面：ロクロナデ。体部下位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ 内面：-	焼 成：不良 色 調：にぶい黄 残存度：1/4以下	
3	須恵器甕	9号遺構	口 径： - 器 高： (2.7) 底 径： -	外面：櫛刺突 内面：自然釉	焼 成：良好 色 調：黄灰 残存度：1/4以下	
4	白磁碗	40号遺構	口 径： - 器 高： (2.7) 底 径： -	外面：白磁釉 内面：白磁釉	焼 成：良好 色 調：灰白 残存度：1/4以下	Ⅱ類

その他の出土土製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	成形・調整	重量 (g)	備考
5	土製品紡錘車	29号遺構	口 径：上幅2.9 器 高：厚さ2.5 底 径：下幅3.0	焼 成：良好 色 調：にぶい赤褐 残存度：完形	32.5	



第65図 ピット配置図

第4節 鑄造関連遺物

今回の調査では、総量93,654.0gにおよぶ鑄造関連遺物が出土している(第2表)。m²あたりの遺物密度は77.2gである。これらの遺物は、「上総國新堀郷給主得分注文」にある鑄物師の操業と関連する遺物と考えられるが、過去の5地点の調査ならびに今回の調査においても鑄造行為を示す遺構は検出されず、遺物は遺構覆土中からの出土である(図版14・15)。

以下、遺物の種別毎に重量比を報告する。

炉壁

総量57743.2gが出土し、鑄造関連遺物中の61.7%を占める。遺構別の出土量は30号遺構で総量の37.3%、44号遺構で11.3%、79号遺構で9.9%を示すほかは10%未満の出土である。

羽口

総量1390.7gが出土し、鑄造関連遺物中の1.5%を占める。遺構別の出土量は45号遺構で総量の19.0%、79号遺構で16.6%、30号遺構で11.9%、34号遺構で9.2%を示し、その他の遺構は5%未満の出土である。

濃緑色滓

総量20996.8gが出土し、鑄造関連遺物中の22.4%を占める。遺構別の出土量は44号遺構で総量の16.4%、30号遺構で11.8%、45号遺構で9.3%、41号遺構で6.7%、36号遺構で5.5%、26号遺構で5.0%を示し、その他5%未満ではあるがほとんどの中世遺構から出土している。

白色滓

総量1829.9gが出土し、鑄造関連遺物中の2.0%を占める。遺構別の出土量は44号遺構で総量の30.7%、45号遺構で10.7%、34・35号遺構で11.4%、41号遺構で5.6%を示し、その他の遺構は5%未満の出土である。

鑄型

総量31.2gが出土し、鑄造関連遺物中の割合は0.1%未満である。遺構別の出土量は41号遺構で総量の16.5%を示す。その他はピットなどからの出土、表採遺物である。

鉄塊系遺物

本来の形状をとどめず、器種の分類が不可能な鉄製品を鉄塊系遺物とする。総量2748.0gが出土し、鑄造関連遺物中の割合は2.9%を占める。遺構別の出土量は44号遺構で総量の25.7%、45号遺構で12.8%、34・35号遺構で10.9%を示し、その他の遺構は10%以下の出土である。

鉄製品

小破片の出土が多く、鑄造品のほかに鍛造の鉄製品も含まれていると思われる。総量489.3gが出土し、鑄造関連遺物中の割合は0.5%を占める。遺構別の出土量は26号遺構で総量の15.4%、62号遺構で14.2%を示し、その他の遺構は10%以下の出土である。

黒鉛化木炭

総量666.5gが出土し、鑄造関連遺物中の割合は0.7%を占める。遺構別の出土量は44号遺構で総量の27.7%、34・35号で15.2%を示し、その他の遺構は10%以下の出土である。

被熱石

総量7754.3gが出土し、鑄造関連遺物中の割合は8.3%を占める。遺構別の出土量は79号遺構で総量の42.8%、30号遺構で18.9%、40号遺構で11.3%を示し、その他の遺構は4%未満の割合となる。

被熱土器

総量4.1gが41・44号の2基の遺構から出土している。鑄造関連遺物中の割合は0.1%未満である。遺構別の出土量は44号遺構が総量の59%、41号遺構が41%を占める。

第2表 鑄造関連遺物一覧表

単位：g

遺構	炉壁	羽口	濃緑色滓	白色滓	鋳型	鉄塊系遺物	鉄製品	黒鉛化木炭	被熱石	被熱土器	計
1号	5.6		2.4								8.0
2号			9.4								9.4
3号	9.2										9.2
8号	31.7	13.9	29.2	1.6							76.4
9号	44.8	12.5	73.4				15.7	26.5	15.0		187.9
11号	305.1	30.7	619.6	5.1	1.2	21.0	3.4	12.3	321.0		1319.4
13号	1.5										1.5
17号	4.4		9.1				2.6				16.1
24号			280.8								280.8
26号	1635.6	32.6	1123.0	47.5		184.0	92.4	45.0	2.1		3162.2
27号	82.6		59.2	0.9		23.2					165.9
29号	3886.3		489.1			26.5		15.8	112.0		4529.7
30号	21851.7	171.9	2638.3	1.2					1727.1		26390.2
32号		3.5						5.3			8.8
34・35号	3079.2	168.4	898.8	215.6		316.4	14.4	115.7	170.0		4978.5
36号	1074.0	24.5	1217.8	60.6		104.2	29.5	16.9	7.1		2534.6
37号	429.7	9.8	332.0	67.9		51.1	2.3	36.6			929.4
38号	19.7		45.6			7.5		11.8			84.6
39号	888.1	48.3	727.6	45.6		87.5	45.8	24.7	0.8		1868.4
40号	408.0	62.5	393.1	26.7		100.5	41.6	3.9	1036.3		2072.6
41号	1609.4	28.3	1500.8	106.9	7.8	189.4	9.0	35.7	64.2	1.7	3553.2
42号	294.1	23.0	341.8	36.5		35.5	1.4	1.6			733.9
43号			1.5								1.5
44号	6621.8	34.5	3655.1	583.2		742.1	5.7	210.5	5.1	2.4	11860.4
45号	3136.0	274.4	2078.8	203.2		369.7	52.0	44.0			6158.1
48号	421.4	8.3	350.5	19.6		40.5	39.5	6.6			886.4
49号	145.5	3.6	121.3					0.2			270.6
50号	118.3	5.8	235.6	4.2		16.8	3.9	22.5	3.5		410.6
51号	172.3	1.2	194.3	12.0			42.3	15.5			437.6
52号			27.7							1.3	29.0
53号	469.7	10.3	168.3				19.8	0.5	2.3		670.9
54号	37.8		23.8								61.6
55号	31.8	6.2	22.3							0.1	60.4
56号	1.6		9.4	6.0							17.0
58号			6.6	7.3							13.9
59号			0.6	5.1		1.9					7.6
60号	5.3		21.2								26.5
61号	17.9	3.4	60.6				3.4	7.9			93.2
62号	1025.6		960.8	75.9		103.8	85.2				2251.3
63号	30.3		29.9								60.2
64号	315.8	3.8	181.5				8.7	7.5	1.0		518.3
65号	90.6		26.5								117.1
66号	6.3	1.4	55.7				12.8				76.2
68号			10.4								10.4
69号	131.2		123.4	12.1			25.3	4.3	7.6		303.9
70号										1.5	1.5
71号	10.2										10.2
76号	13.3										13.3
78号	54.6		33.1	9.6							97.3
79号	5819.3	240.1	226.3	77.5			7.7		3910.8		10281.7
82号									9.0		9.0
83号	88.6	8.8	5.3	25.2		1.0					128.9
84号	388.8	45.3	4.8	3.3					120.8		563.0
85号	12.6								106.0		118.6
86号	819.5		413.7	27.9		61.8		4.2	79.8		1406.9
ピット	2096.4	113.7	1156.8	141.7	22.2	143.6	16.7	7.9	61.2		3760.2
一括	905.9	56.1	1339.9	67.4	16.2	143.6	107.6	26.4	1392.6		4055.7
計	57743.2	1390.7	20996.8	1829.9	31.2	2748.0	489.3	666.5	7754.3	4.1	93654.0

第3章 小結

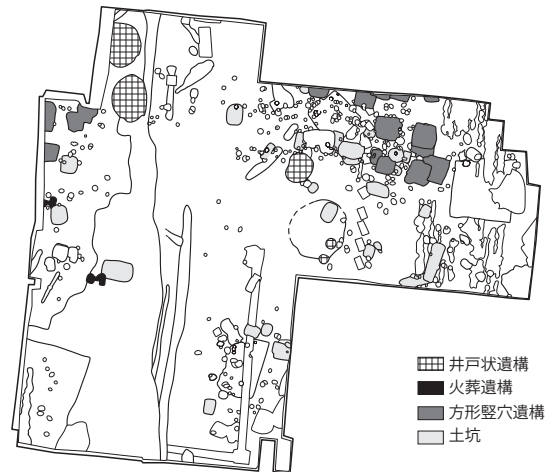
小鳥向第6地点では、弥生時代後期の方形周溝墓1基、土坑5基、溝状遺構1条。古墳時代の竪穴建物5軒、土坑11基、溝状遺構2条、中世の井戸状遺構5基、火葬遺構2基、方形竪穴遺構18基、土坑29基、溝状遺構5条、道路状遺構2条、性格不明遺構1基を検出した。本章では遺跡の主体となる中世の遺構と遺物を中心に調査の成果をまとめたい。

遺構の分布

中世の遺構は多くが調査区北側に位置し、さらに東西の遺構群に分かれる。

[東側遺構群] 12Kグリッド南側から13Kグリッド北側には井戸状遺構26号～28号、方形竪穴遺構33号～44号、土坑50号～69号。

[西側遺構群] 12Jグリッド西側から13Jグリッド北西側には井戸状遺構29・30号、火葬遺構31・32号、方形竪穴遺構46号～49号、土坑75号～77号。



東西の遺構群の間には溝状遺構79号が位置する。東側遺構群のうち、方形竪穴遺構は東西方向に2ないし3列に並んで検出されており、切り合っていることから時期差はありながらも規則的に構築されていると考えられる。西側遺構群の方形竪穴遺構は規則性をうかがわせる配置とは言えないが、これは遺構群の主体がさらに西側の調査区外であるためと考えられる。西側遺構群では2基の火葬遺構が検出されたが、方形竪穴遺構からやや離れて位置している。

方形竪穴遺構の機能については、第2地点の調査時に葬送儀礼との関わりが指摘されている（櫻井 2002）。今回の調査においても48号遺構から仏具である銅製の托が出土しており、また全ての方形竪穴遺構が人為的に埋め戻されていることなどから同様の指摘ができる。しかしながら、葬送儀礼との関わりを断定はできず、その他の機能として考えられる下層民や職能民の住居や倉庫・工房、城館に付随する戦闘施設や緊急避難小屋などの可能性を否定するものではない。

中世陶磁器（第3表）

今回の調査では総数133点の陶磁器片が出土し、 m^2 あたりの遺物密度は9.1点である。陶磁器から推測される遺跡の時期は12世紀後半から15世紀後半に及ぶ。このうち瀬戸・美濃系陶器は古瀬戸後期様式Ⅱ期からⅢ期の遺物が12点と最も多く出土している。これは14世紀末葉から15世紀前葉にあたり、この時期に本遺跡の活動がもっとも活発であったと考えられる。常滑産陶器も同様の時期を示し、9型式（15世紀前葉）の遺物が6点出土している。出土遺物の年代幅やそのピークとなる時期は第2、第5地点の調査成果とほぼ同一のものである。

鑄造関連遺物

前章において鑄造関連遺物を分類し、出土傾向を報告したが、ここでは出土総重量における比率の高い遺構について述べてみたい。

30号遺構は出土総量のうち27.0%を占める。なかでも炉壁が目立っているが、これはほかの遺構では1点あたりの炉壁の重量が20～100g前後であるのに対して30号遺構は200g前後と大型の破片であることを反映している。30号遺構では羽口や濃緑色滓の出土も目立つが、白色滓の出土は少ない。

44号遺構は総量のうち12.1%を占め、濃緑色滓や白色滓、鉄塊系遺物の出土が多い。79号遺構は総量のうち10.5%を占め、炉壁や羽口の出土が多い一方で濃緑色滓や白色滓の出土は少ない。

45号遺構は総量のうち6.3%を占め、44号と同様に濃緑色滓や白色滓、鉄塊系遺物の出土が多い。このほかの遺構は5%以下の出土比率である。

79号遺構は大規模な溝状遺構であることから、鑄造関連遺物の出土も多くなっている。その一方で44号遺構は調査区外に伸び、一部の調査のみに留まっているにもかかわらず12.1%と79号遺構よりも高い比率の鑄造関連遺物が出土し、遺構の規模と出土比率が必ずしも比例しないことを示している。また30号遺構では炉壁の出土比率が高く、44・45号遺構では濃緑色滓や白色滓の出土比率が高いといったように、鑄造関連遺物の種別によっても出土遺構に偏りが見られる。

ただし、鑄造行為を明確に示す遺構が検出されなかったことから、出土遺構や種別の偏りが遺構の性格を示しているとは考えられない。遺構の埋め戻し時に、周囲で行われていた鑄造の作業工程や素材の違いを反映していると考えておきたい。

前章で述べたとおり、鑄造関連遺物のm²あたりの遺物密度は77.2gである。第1地点が39.4g、第2地点が31.9g、第5地点が4.72gであり、今回調査を行った第6地点は非常に濃い密度となっている。今回の調査における、鑄造関連遺物の出土遺構は調査区北側に偏っている。また、遺構群は調査区の北端からさらに北へ伸びることが推測され、第2地点の鑄造関連遺物の分布が南側に偏ると報告されていることと合わせて考えると、鑄物師の操業地点は本調査区の北側および第1、第6地点の東側へ続く一帯と推測される。

【参考文献】

- 北見一弘 2000 『市原市小鳥向遺跡』財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第69集
" 2003 「新堀小鳥向遺跡第2地点」『市原市文化財センター年報 平成12年度』
- 櫻井敦史 2002 『市原市小鳥向遺跡Ⅱ』財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第77集
- 小川浩一 2008 「小鳥向遺跡第4地点」『平成19年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第7集
- 牧野光隆 2010 『市原市小ノ台遺跡』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第15集
- 北見一弘 2012 『市原市小鳥向遺跡Ⅲ』市原市埋蔵文化財センター調査報告書 第23集

第3表 中世陶磁器総量一覧

遺構	グリッド	産地	器種	型式	点数	備考
29号遺構	-	常滑	甃	-	1	
29号遺構	12J13	常滑	甃	-	1	
29号遺構	12J13	常滑	甃	-	1	
29号遺構	12J23	渥美	甃	-	1	
29号遺構	12J23	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後III	1	
29号遺構	12J23	常滑	片口鉢II類	-	1	
29号遺構	12J23	常滑	甃	-	7	
29号遺構	12J23	常滑	甃	-	1	同一個体3点
29号遺構	12J23	常滑	甃	-	1	
29号遺構	12J23	常滑	甃	-	5	
29号遺構	12J34	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後III	1	見込よく使用
30号遺構	-	瀬戸・美濃	天目茶碗	中IV	1	
30号遺構	-	瀬戸・美濃	灰釉平碗	後II	1	
30号遺構	-	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後II	1	よく使い込む
30号遺構	-	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後III	1	
30号遺構	-	常滑	片口鉢II類	10型式	1	見込よく使用
30号遺構	-	常滑	片口鉢II類	10型式	1	よく使い込む
30号遺構	-	常滑	片口鉢II類	9型式	1	
30号遺構	-	常滑	片口鉢I類	3型式	1	
30号遺構	-	常滑	片口鉢I類	6a型式	1	よく使い込む
30号遺構	-	常滑	甃	6a型式	1	漆補修痕あり
30号遺構	-	常滑	甃	6b型式	1	
30号遺構	-	常滑	甃	9型式	1	
30号遺構	-	備前	搦鉢	III期	1	よく使い込む
30号遺構	12J33・34	猿投	甃	11～12世紀	1	破面砥石転用
30号遺構	12J33・34	瀬戸・美濃	灰釉平碗	後II～III	1	
30号遺構	12J33・34	常滑	片口鉢II類	-	1	
30号遺構	12J33・34	常滑	片口鉢II類	5型式	1	
30号遺構	12J33・34	常滑	片口鉢II類	8型式	1	
30号遺構	12J33・34	常滑	甃	-	6	うち破面砥石転用2点
30号遺構	12J33・34	白磁	碗	-	1	
30号遺構	12J44	産地不明瓦質	火鉢	-	1	
30号遺構	12J44	常滑	片口鉢II類	-	5	うち破面砥石転用1点
30号遺構	12J44	常滑	片口鉢II類	10型式	2	
30号遺構	12J44	常滑	片口鉢II類	10型式	1	
30号遺構	12J44	常滑	片口鉢II類	6a型式	1	
30号遺構	12J44	常滑	片口鉢II類	9型式	2	
30号遺構	12J44	常滑	甃	-	28	うち破面砥石転用4点
34号遺構	12K56	在地土器	小型皿	後II～IV(古)併行	1	
34号遺構	12K57	瀬戸・美濃	天目茶碗 II類第2型式	後III	1	
34号遺構	12K66	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後IV(古)	1	見込よく使用
34号遺構	12K67	常滑	甃	-	1	
36号遺構	12K77	常滑	片口鉢II類	-	1	
36号遺構	12K77	常滑	甃	-	1	
40号遺構	12K45	白磁	碗	II類	1	
41号遺構	12K55	在地土器	小型皿	僧寺XIII併行	1	
44号遺構	12K42	常滑	片口鉢II	-	1	
56号遺構	13K26	常滑	甃	-	1	
77号遺構	-	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後II	1	
79号遺構	-	在地瓦質土器	-	-	1	
79号遺構	-	在地土器	小型皿	-	1	
79号遺構	-	在地土器	中型杯	13～15世紀	1	
79号遺構	-	猿投か	甃	12世紀	1	
79号遺構	-	瀬戸・美濃	折縁深皿	中IV	1	
79号遺構	-	瀬戸・美濃	黄瀬戸鉢	連房I	1	
79号遺構	-	瀬戸・美濃	搦鉢	後IV(古)	1	見込よく使用
79号遺構	-	瀬戸・美濃	灰釉平碗	後III	1	
79号遺構	-	常滑	片口鉢II類	-	3	
79号遺構	-	常滑	片口鉢II類	10型式	1	
79号遺構	-	常滑	片口鉢II類	9型式	1	
79号遺構	-	常滑	片口鉢II類	9型式	1	よく使い込む
79号遺構	-	常滑	甃	-	1	
79号遺構	-	常滑	甃	-	9	うち破面砥石転用2点
79号遺構	-	常滑	広口壺	3～4型式	1	
79号遺構	-	龍泉窯系青磁	碗	I-5b類	1	
79号遺構	12K66	瀬戸・美濃	灰釉平碗	後II	1	
79号遺構	13J40	常滑	甃	-	1	
79号遺構	13J50	瀬戸・美濃	灰釉平碗 第5型式	後III	1	
83号遺構	12J96	瀬戸・美濃	小鉢	古瀬戸後期	1	
83号遺構	12J96	瀬戸・美濃	深皿・盤類	古瀬戸後期	1	
83号遺構	12J96	常滑	甃	-	1	
84号遺構	12J14	常滑	片口鉢II類	-	1	
84号遺構	12J14	常滑	甃	-	2	
表土一括	-	瀬戸・美濃	緑釉小皿	後III	1	
				計	133	

第4表 遺構番号新旧対応表

掲載番号	遺構種別	調査時番号	時期	備考
1号遺構	方形周溝墓	SK037	弥生時代後期	合わせて方形周溝墓とする。
		SD007		
		SD009		
2号遺構	土坑	SK029	弥生時代後期	
3号遺構	土坑	SK039	弥生時代後期～古墳時代前記初頭	
4号遺構	土坑	SK041	弥生時代	
5号遺構	土坑	SK042	弥生時代	
6号遺構	土坑	SK036	弥生時代	
7号遺構	溝状遺構	SD010	弥生時代	
8号遺構	竪穴建物	SI001	古墳時代後期	
9号遺構	竪穴建物	SI002	古墳時代後期	
10号遺構	竪穴建物	SI003	古墳時代後期	
11号遺構	竪穴建物	SI004	古墳時代後期	
12号遺構	竪穴建物	SI005	古墳時代後期	
13号遺構	土坑	SK007	古墳時代	
14号遺構	土坑	SK006	古墳時代	
15号遺構	土坑	SK003	古墳時代	
16号遺構	土坑	SK005	古墳時代	
17号遺構	土坑	SK008	古墳時代	
18号遺構	土坑	SK031	古墳時代後期	
19号遺構	土坑	SK009	古墳時代後期	
20号遺構	土坑	SK027	古墳時代後期	
21号遺構	土坑	SK018	古墳時代後期	
22号遺構	土坑	SK019	古墳時代後期	
23号遺構	土坑	SK020	古墳時代後期	
24号遺構	溝状遺構	SZ003	古墳時代後期	
25号遺構	溝状遺構	SD005	古墳時代後期	
26号遺構	井戸状遺構	SX019	中世	
27号遺構	井戸状遺構	SX005-SK2	中世	付属遺構から独立させる
28号遺構	井戸状遺構	SX005-SK3	中世	付属遺構から独立させる
29号遺構	井戸状遺構	SZ001	中世	
30号遺構	井戸状遺構	SZ002	中世	
31号遺構	火葬遺構	SK038	中世	
32号遺構	火葬遺構	SK044	中世	合わせて火葬遺構とする。
		SK045		
33号遺構	方形竪穴遺構	SX002	中世	
34号遺構	方形竪穴遺構	SX001a	中世	
35号遺構	方形竪穴遺構	SX001b	中世	
36号遺構	方形竪穴遺構	SX003	中世	
37号遺構	方形竪穴遺構	SX004	中世	
38号遺構	方形竪穴遺構	SX009	中世	
39号遺構	方形竪穴遺構	SX011	中世	
40号遺構	方形竪穴遺構	SX010	中世	
41号遺構	方形竪穴遺構	SX006	中世	
42号遺構	方形竪穴遺構	SX014	中世	

掲載番号	遺構種別	調査時番号	時期	備考
43号遺構	方形竪穴遺構	SK012	中世	
44号遺構	方形竪穴遺構	SX017	中世	
45号遺構	方形竪穴遺構	SK011	中世	
45号遺構	方形竪穴遺構	SK023	中世	
46号遺構	方形竪穴遺構	SX020	中世	
47号遺構	方形竪穴遺構	SX023	中世	
48号遺構	方形竪穴遺構	SX022	中世	
49号遺構	方形竪穴遺構	SX021	中世	
50号遺構	土坑	SX015	中世	
51号遺構	土坑	SK015	中世	
52号遺構	土坑	SK013	中世	
53号遺構	土坑	SK010	中世	
54号遺構	土坑	SK004	中世	
55号遺構	土坑	SX007	中世	
56号遺構	土坑	SX008	中世	
57号遺構	土坑	SK001	中世	
58号遺構	土坑	SK002	中世	
59号遺構	土坑	SX018	中世	
60号遺構	土坑	SK014	中世	
61号遺構	土坑	SX016	中世	
62号遺構	土坑	SX013	中世	
63号遺構	土坑	SK016	中世	
64号遺構	土坑	SK022	中世	
65号遺構	土坑	SK035	中世	
66号遺構	土坑	SK028	中世	
67号遺構	土坑	SK040	中世	
68号遺構	土坑	SK025	中世	
69号遺構	土坑	SX005-SK1	中世	
70号遺構	土坑	SK026	中世	
71号遺構	土坑	SK024	中世	
72号遺構	土坑	SK033	中世	
73号遺構	土坑	SK030	中世	
74号遺構	土坑	SK021	中世	
75号遺構	土坑	SK032	中世	
76号遺構	土坑	SK034	中世	
77号遺構	土坑	SK017	中世	
78号遺構	土坑	SK043	中世	
79号遺構	溝状遺構	SD003	中世	
80号遺構	溝状遺構	SD001	中世	
81号遺構	溝状遺構	SD002	中世	
82号遺構	溝状遺構	SD011	中世	
83号遺構	溝状遺構	SD008	中世	
84号遺構	道路遺構	SD006	中世	
85号遺構	道路遺構	SD004	中世	
86号遺構	性格不明遺構	SX005	中世	
		SX012		自然の窪みと判断。遺構とせず。



調査区東側完掘状況（北東から）



調査区西側完掘状況（北東から）



1号遺構遺物出土状況(東から)



1号遺構遺物出土状況(東から)



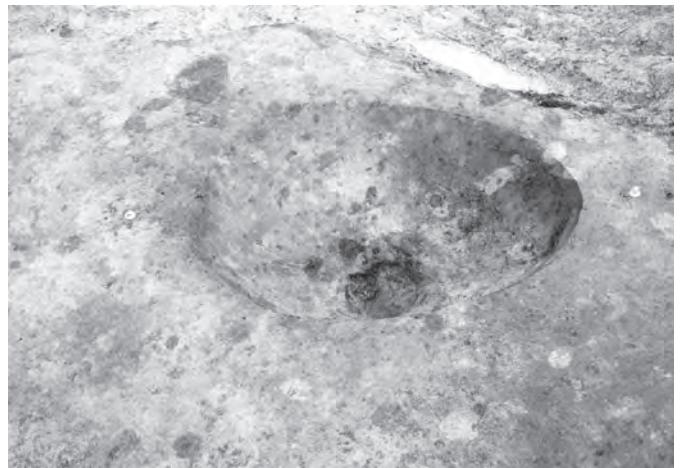
1号遺構南東側周溝(南から)



3号遺構(東から)



4号遺構(西から)



5号遺構(西から)



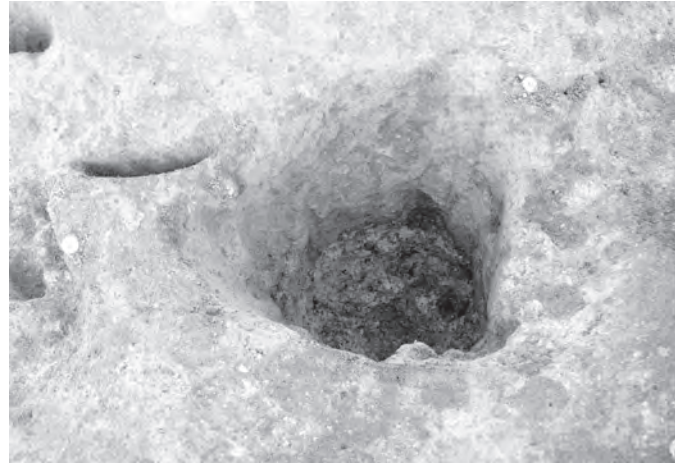
6号遺構(東から)



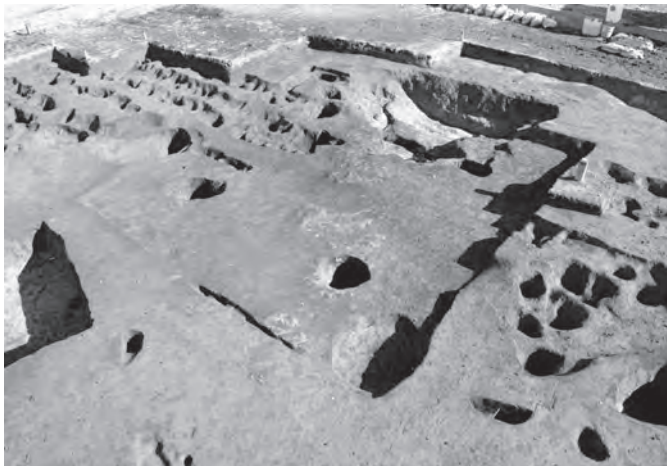
8号遺構(南から)



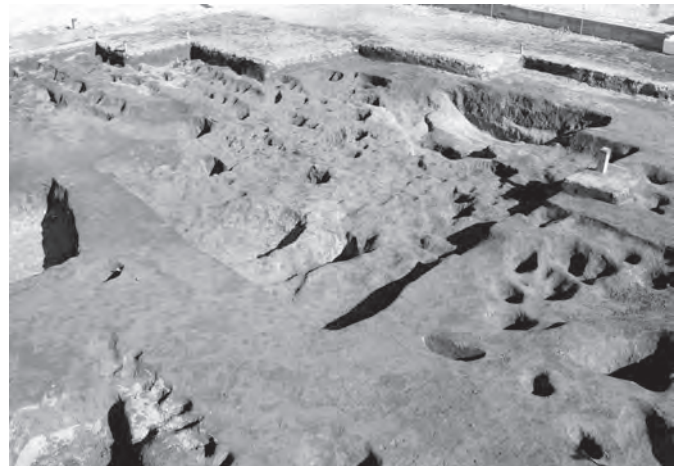
8号遺構カマド (東から)



8号遺構SK1 (南から)



9号遺構 (南西から)



9号遺構掘り方 (南西から)



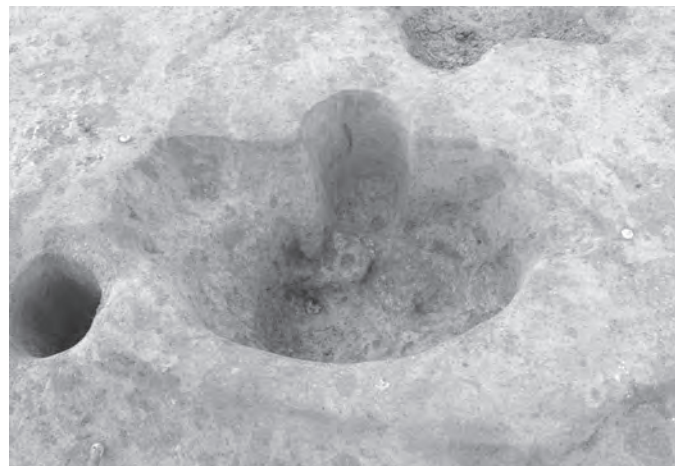
11号遺構 (南西から)



11号遺構遺物出土状況 (西から)



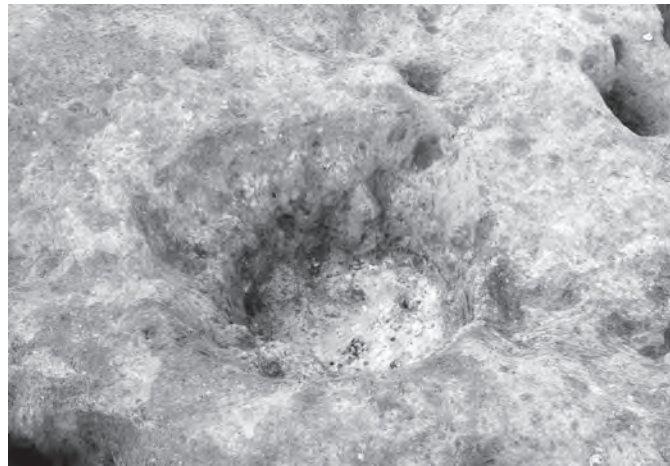
12号遺構 (西から)



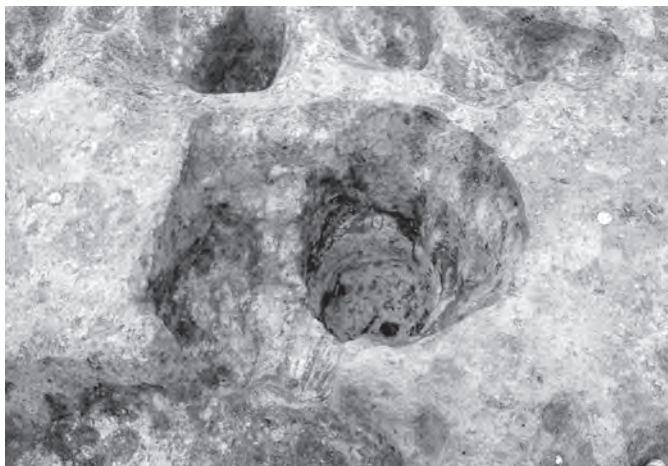
14号遺構 (東から)



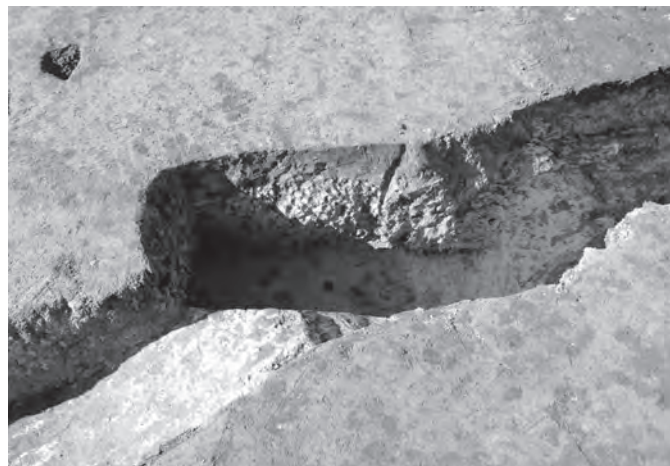
15号遺構 (南から)



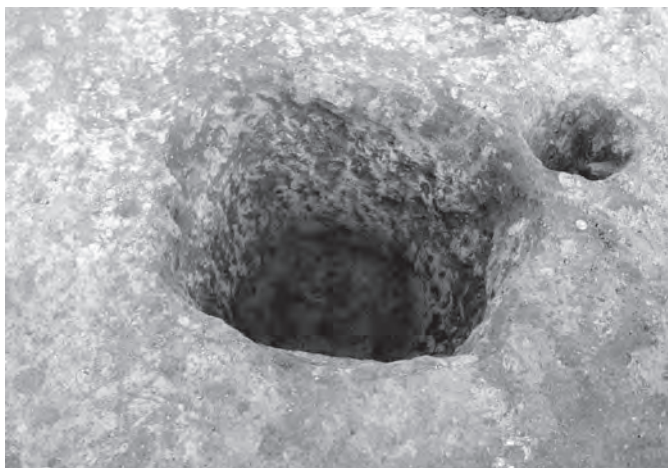
16号遺構 (東から)



17号遺構 (東から)



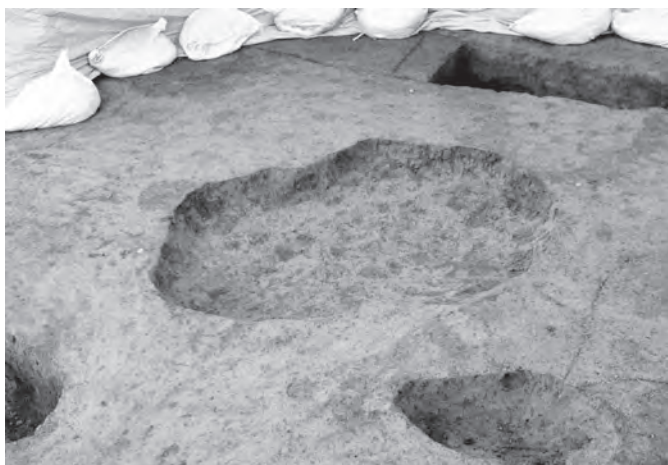
18号遺構 (東から)



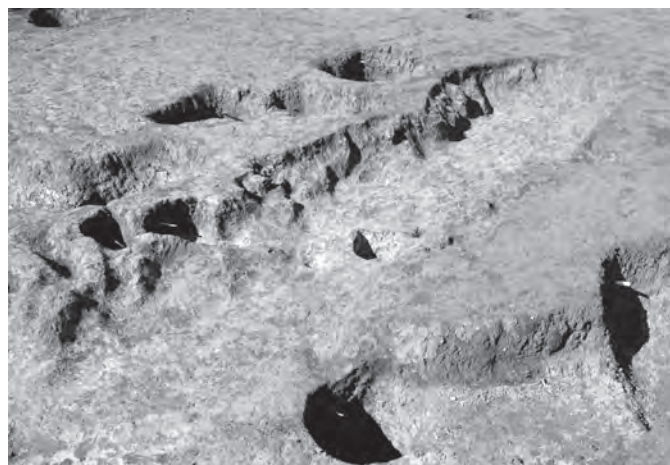
19号遺構 (南から)



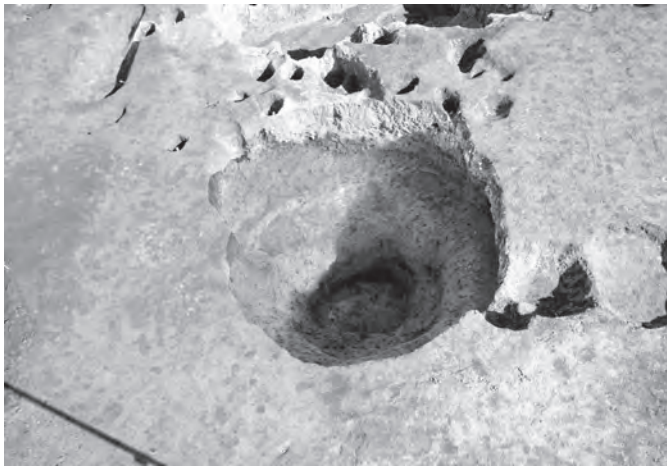
21号遺構 (南から)



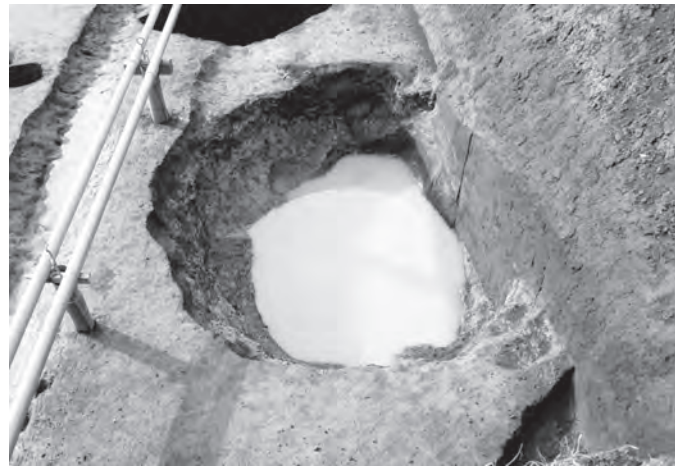
23号遺構 (東から)



25号遺構 (東から)



26号遺構 (南から)



29号遺構 (北から)



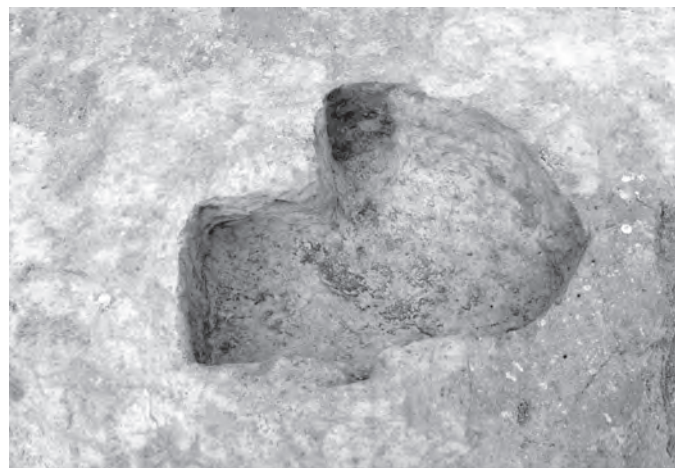
30号遺構 (西から)



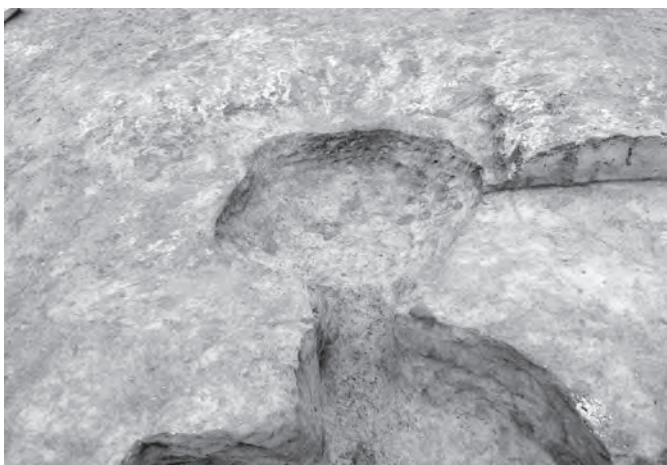
31号遺構 (東から)



31号遺構炭化物検出状況 (北から)



32号遺構 (東から)



32号遺構 (東から)



33号遺構 (南から)



調査区北側遺構集中部(北東から)



34号・35号遺構(南西から)



36号遺構(西から)



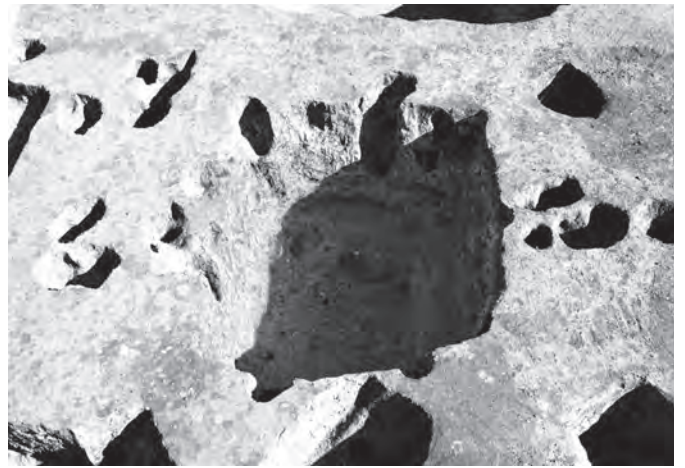
37号遺構(西から)



38号遺構(南から)



39号遺構 (南西から)



41号遺構 (西から)



42号・43号・52号遺構 (南西から)



44号遺構 (南から)



45号遺構 (西から)



46号・47号遺構 (南から)



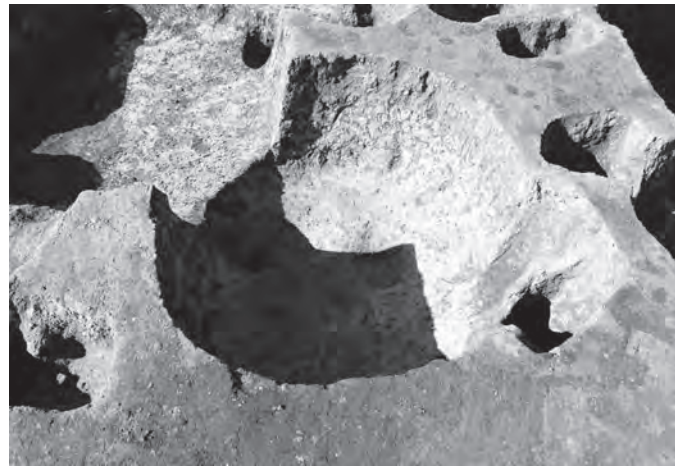
48号遺構 (南東から)



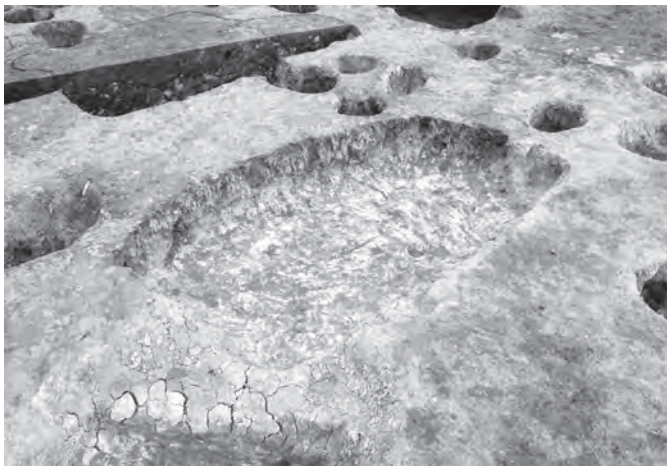
49号遺構 (南から)



50号遺構土層断面(南西から)



51号遺構(東から)



53号遺構(南から)



54号遺構(西から)



55号遺構(南西から)



55号遺構土層断面(東から)



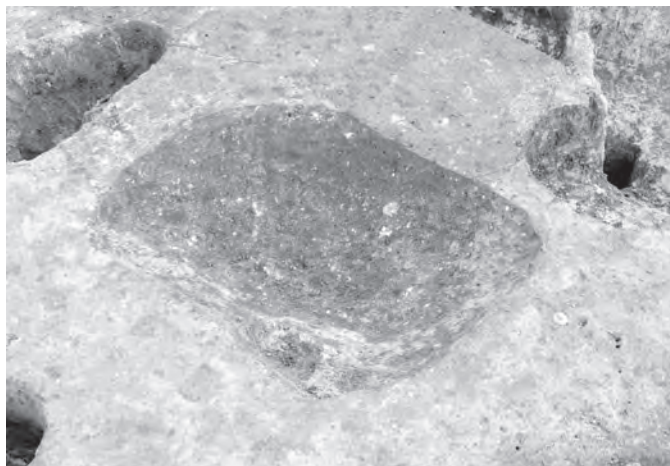
56号遺構(東から)



57号遺構(東から)



58号遺構 (東から)



60号遺構 (北から)



61号遺構土層断面 (南から)



62号遺構 (北西から)



62号・63号遺構 (北西から)



65号遺構 (東から)



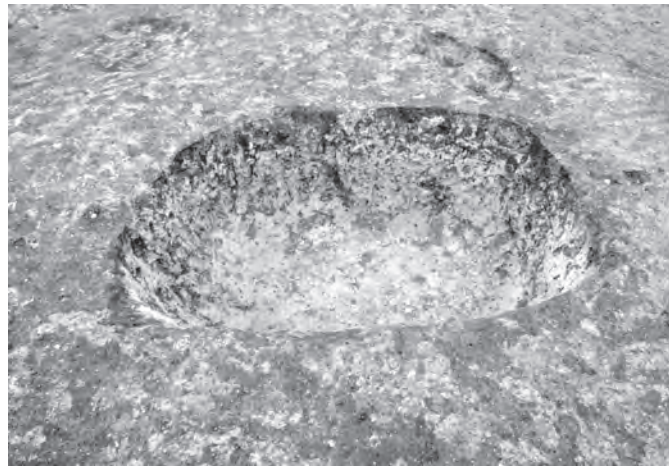
66号遺構 (西から)



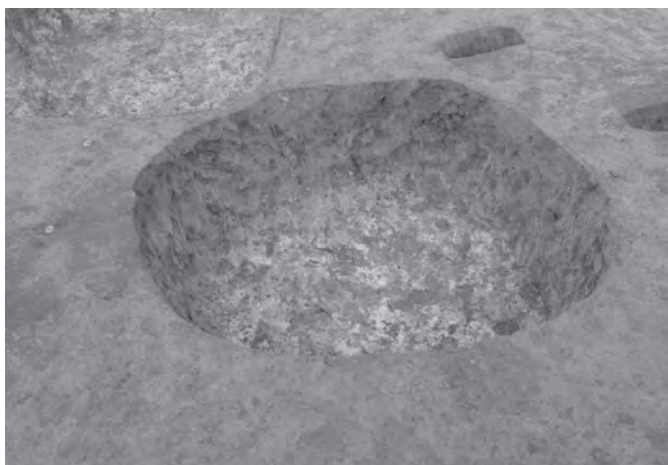
67号遺構 (東から)



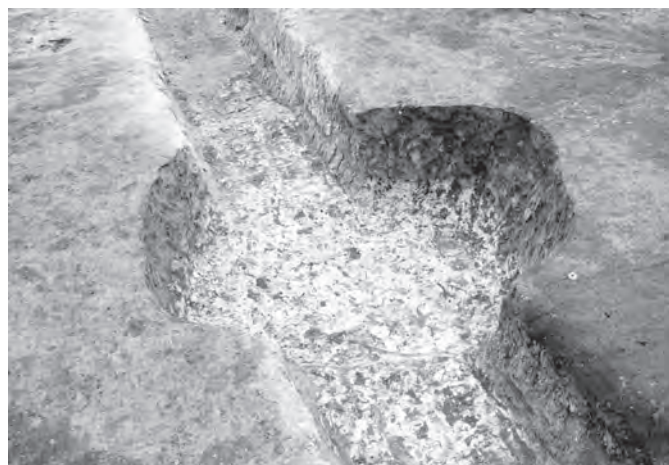
68号遺構 (南から)



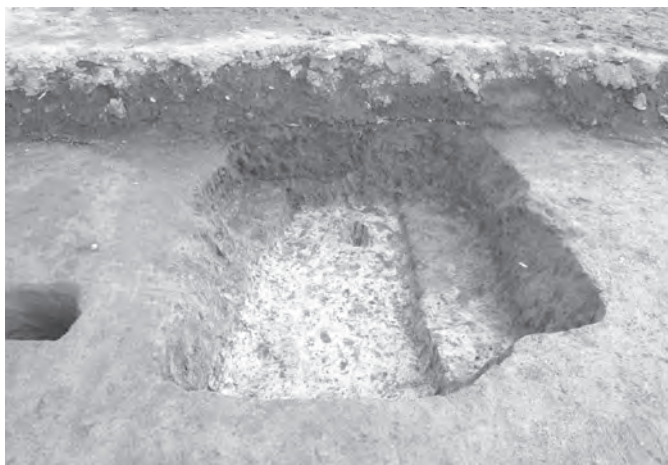
69号遺構 (東から)



70号遺構 (東から)



71号遺構 (南から)



73号遺構 (西から)



73号遺構 (東から)



74号遺構 (東から)



75号遺構土層断面 (東から)



76号遺構 (東から)



78号遺構 (北東から)



79号遺構 (北西から)



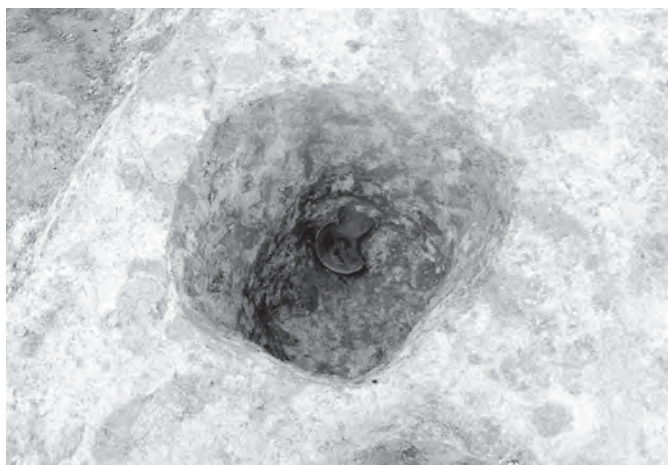
84号遺構 (北から)



81号遺構土層断面 (南から)



86号遺構 (西から)



0313号ピット遺物出土状況 (南から)



1号遺構出土遺物



8号遺構出土遺物



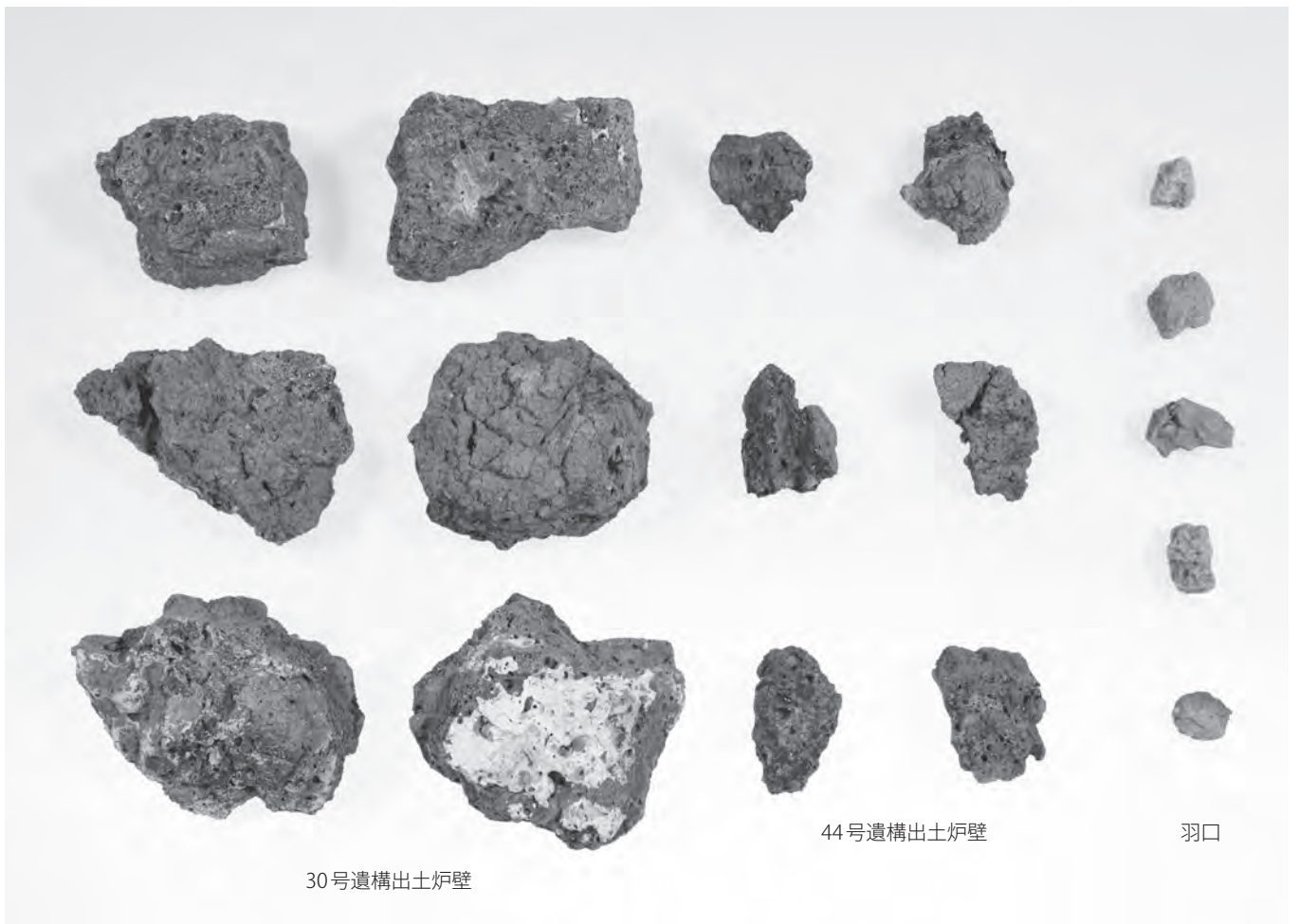
11号遺構出土遺物



30号遺構出土遺物



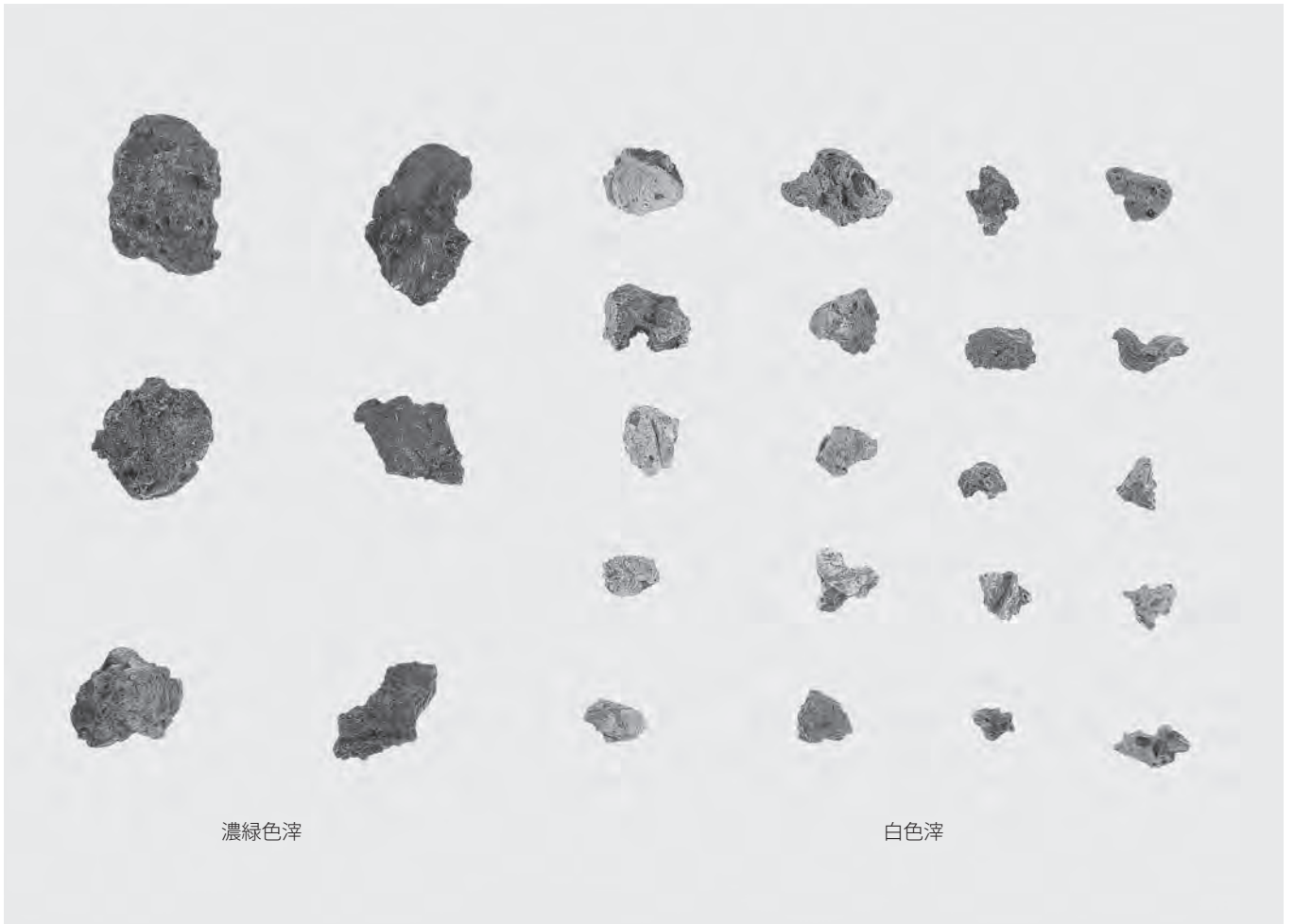
79号遺構出土遺物



30号遺構出土炉壁

44号遺構出土炉壁

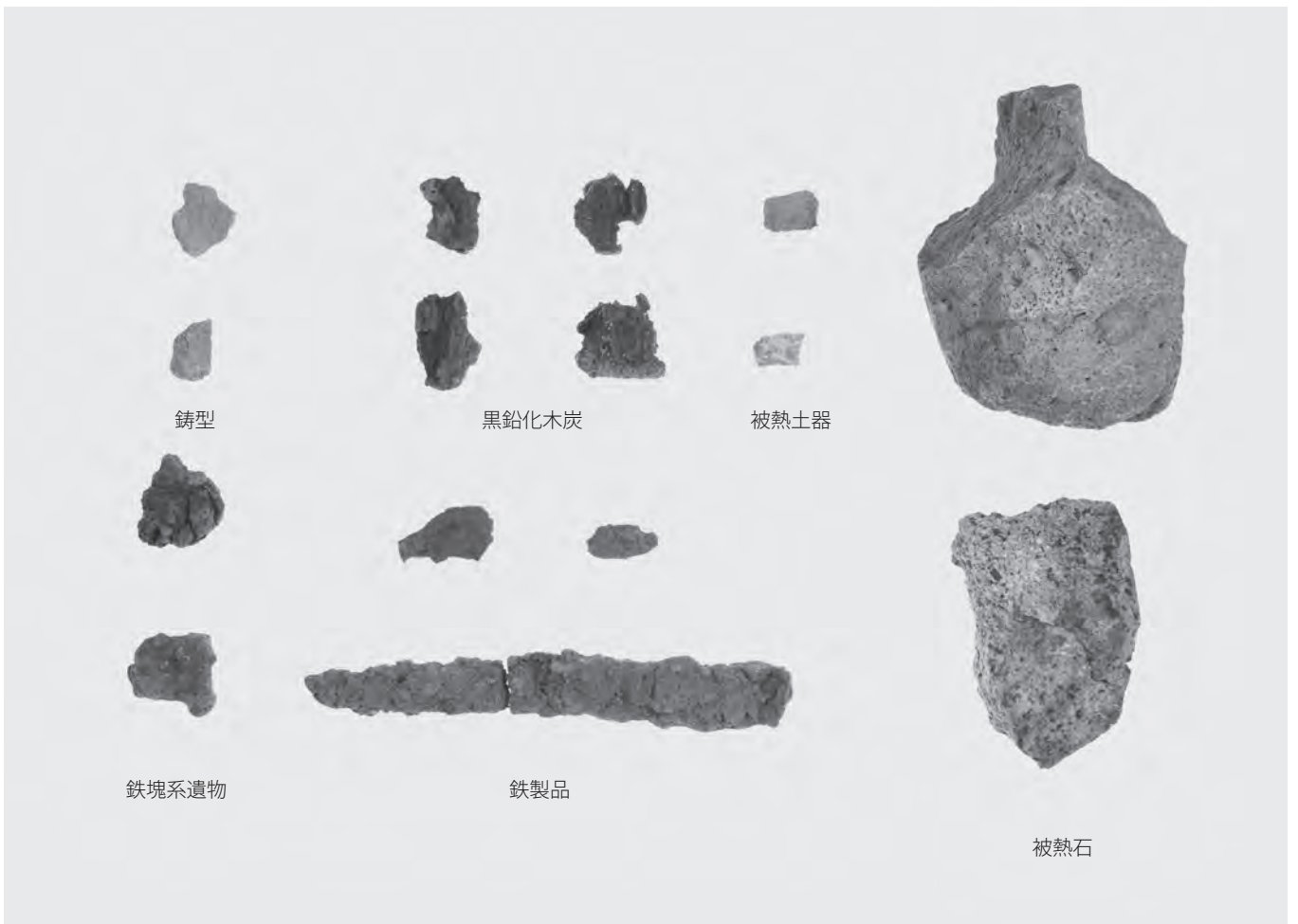
羽口



濃綠色滓

白色滓

鑄造関連遺物 (2)



鑄型

黒鉛化木炭

被熱土器

鉄塊系遺物

鉄製品

被熱石

鑄造関連遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	いちはらしことりむかいいせき							
書名	市原市小鳥向遺跡Ⅳ							
副書名	小鳥向遺跡第6地点							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	大山祐喜							
編集機関	国際文化財株式会社							
所在地	〒102-0085 東京都千代田区六番町2番地 電話(03)6361-2455							
発行年	平成25年(2013)年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ことりむかいいせき 小鳥向遺跡 だい6ちてん 第6地点	ちほけんいちはらし 千葉県市原市 にいほり 新城957-1 ほか	12219	578	35°28'1"	140°8'15"	2011.11.21) 2012.02.27	約1,337㎡	病院建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小鳥向遺跡 第6地点	包蔵地	弥生時代後期～ 古墳時代前期	方形周溝墓 土坑 溝状遺構	1基 5基 1条	弥生土器 古墳時代土師器 須恵器 石製品 中世陶磁器 鑄造関連遺物(炉壁、鉄滓 など) 牛馬歯骨	弥生時代後期の方形周溝墓や古墳時代後期の竪穴建物を遺跡内では初めて検出した。また、これまでも見つかっている中世の鑄造関連遺物の分布範囲が本調査区の東側へ広がることを確認した。		
		古墳時代	竪穴建物 土坑 溝状遺構	5棟 11基 2条				
		中世	井戸状遺構 火葬遺構 方形竪穴遺構 土坑 溝状遺構 道路遺構 性格不明遺構	5基 2基 18基 29基 5条 2条 1基				
		時期不明	ピット	322基				
要約	弥生時代後期の方形周溝墓1基を調査した。また養老川中流域において事例の少ない古墳時代後期の集落跡を調査し、竪穴建物5棟を検出した。方形竪穴遺構18基をはじめとする中世の遺構からは鑄造関連遺物が多数出土し、鑄造行為の中心は本遺跡の東側と推測される。							

市原市小鳥向遺跡Ⅳ

—小鳥向遺跡第6地点—

平成25年6月30日発行

編集・発行 医療法人白百合会
国際文化財株式会社

印刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷
栃木県宇都宮市陽東5-9-21